岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第402集

# 米沢遺跡・釜石遺跡発掘調査報告書

馬淵川農業水利・大志田ダム建設関連遺跡発掘調査

農林水産省東北農政局 馬淵川沿岸農業水利事業所 (財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター

#### 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第402集

## 米沢遺跡・釜石遺跡発掘調査報告書

馬淵川農業水利・大志田ダム建設関連遺跡発掘調査

農林水産省東北農政局 馬淵川沿岸農業水利事業所 (財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの 遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造し てきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた 責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。 発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことでありますが、そ の反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実で あります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財治手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置を取って参りました。

本報告書は、馬淵川農業水利・大志田ダム建設事業に関連して、平成 13年度に調査した米沢遺跡・釜石遺跡の調査結果をまとめたものであり ます。調査によって縄文時代早期の遺構や遺物、中世と思われる堀跡な どが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ ご協力を賜りました農林水産省馬淵川沿岸農業水利事業所や二戸市・一 戸町教育委員会をはじめ、関係各位に心より謝意を表します。

平成14年7月

財団法人 岩手県文化振興事業団 理事長 合 田 武

#### 例 言

- 1. 本報告書は、米沢遺跡・釜石遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2. 米沢遺跡の発掘調査は馬淵川農業水利に、釜石遺跡は大志田ダム建設に伴う事前の緊急発掘調査である。 調査は、岩手県教育委員会と農林水産省東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所の協議を経て、附岩手県文 化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号は次の通りである。

米沢遺跡 I E99-0390⋅MZ-01

釜石遺跡 J E 69-0265・K I -01

4. 発掘調査期間と発掘調査面積は以下のとおりである。

米沢遺跡 平成13年4月16日~6月7日

 $600 \text{m}^2$ 

釜石遺跡 平成13年4月16日~7月31日

5, 000m²

室内整理期間は、平成13年11月1日~平成14年3月31日である。

野外調査担当:杉沢 昭太郎・吉川 徹 室内整理担当:杉沢 昭太郎・吉川 徹

- 5. 本報告書の執筆は、I を髙橋與右衛門が、それ以外を杉沢昭太郎・吉川 徹が担当し、編集は杉沢が行った。
- 6. 遺物等の分析・鑑定は次の方々に依頼した。
  - ・石質鑑定…花崗岩研究会
  - ·火山灰同定…㈱古環境研究所
- 7. 座標点の測量は、東日本測量設計株式会社に委託した。
- 8. 発掘調査において、次の機関・方々の協力を得た。(敬称略)
  - 二戸市教育委員会・一戸町教育委員会・熊谷常正(盛岡大学)
- 9. 野外調査では二戸市・岩手町をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。
- 10. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

## 目 次

序 例言

## 本 文

米沢遺跡	釜石遺跡
I 調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3       I 調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	表
米沢遺跡周辺の遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9       釜石遺跡周辺の遺跡一覧表       89         51       釜石遺跡土器観察表…       107         52       釜石遺跡石器観察表…       107         53       107

## 図 版

## 米沢遺跡

第1図	岩手県図	2	第18図	遺構内出土遺物	・遺構外出土遺物	
第2図	遺跡位置図	4		(土器 1)	•••••	36
第3図	地形分類図	5	第19図	遺構外出土遺物	(土器2)	37
第4図	土層断面柱状図	6	第20図	遺構外出土遺物	(土器3)	38
第5図	周辺の地形と遺構配置 7・	8	第21図	遺構外出土遺物	(土器4)	39
第6図	周辺の遺跡	10	第22図	遺構外出土遺物	(土器 5)	40
第7図	調査区全体図	14	第23図	遺構外出土遺物	(石器1)	41
第8図	遺構配置図	15	第24図	遺構外出土遺物	(石器2)	42
第9図	RA01竪穴住居跡	17	第25図	遺構外出土遺物	(石器3)	43
第10図	焼土 (1)	18	第26図	遺構外出土遺物	(石器4)	44
第11図	焼土 (2)	20	第27図	遺構外出土遺物	(石器 5)	45
第12図	土坑・陥し穴状遺構	22	第28図	遺構外出土遺物	(石器6)	46
第13図	堀跡 (1)	23	第29図	遺構外出土遺物	(石器7)	47
第14図	堀跡 (2)	24	第30図	遺構外出土遺物	(石器8)	48
第15図	溝跡·····	25	第31図	遺構外出土遺物	(石器 9)	49
第16図	縄文早期遺物分布図 (1) 27・	28	第32図	鉄器・銭貨		50
第17図	縄文早期遺物分布図 (2) 29・	30	第33図	長瀬遺跡群と本流	遺跡 57	• 58
<b>公工</b> 場	<b>李</b> [] 太					
釜石道						
第1図	遺跡位置図	84	第8図	出土遺物分布図	(1) 97	• 98
第2図	周辺の地形図	86	第9図	出土遺物分布図	(2) 99	100
第3図	土層断面柱状図	87	第10図	遺構外出土遺物	(土器1)	103
第4図	周辺の遺跡	88	第11図	遺構外出土遺物	(土器 2)	104
第5図	掘立柱建物跡	93	第12図	遺構外出土遺物	(石器1ほか)	105
第6図	土坑	94	第13図	遺構外出土遺物	(石器2)	106
第7図	釜石遺跡遺構配置図 95.	96				

## 写真図版

## 米沢遺跡

写真図版 1	調査前現況	61	写真図版13
写真図版 2	遺跡近景	62	写真図版14
写真図版3	RA01竪穴住居跡·······	63	写真図版15
写真図版 4	焼土 (1)	64	写真図版16
写真図版 5	焼土 (2)	65	写真図版17
写真図版 6	遺物分布(縄文早期)ほか	66	写真図版18
写真図版7	陥し穴状遺構・土坑	67	写真図版19
写真図版8	堀跡	68	写真図版20
写真図版 9	<b>溝跡</b>	69	写真図版21
写真図版10	調査状況	70	写真図版22
写真図版11	遺構内・外出土遺物(土器1)…	71	
写真図版12	遺構外出土遺物(土器 2)	72	

写真図版13	遺構外出土遺物	(土器3)	•••••	73
写真図版14	遺構外出土遺物	(土器4)	•••••	74
写真図版15	遺構外出土遺物	(石器1)	•••••	<b>75</b>
写真図版16	遺構外出土遺物	(石器2)	•••••	76
写真図版17	遺構外出土遺物	(石器3)	•••••	77
写真図版18	遺構外出土遺物	(石器4)	•••••	78
写真図版19	遺構外出土遺物	(石器5)	•••••	79
写真図版20	遺構外出土遺物	(石器6)	•••••	80
写真図版21	遺構外出土遺物	(石器7)	•••••	81
写真図版22	遺構外出土遺物	(石器8・	その他	<u>1</u> )
				82

## 釜石遺跡

写真図版 1	遺跡全景ほか 115	
写真図版 2	調査区近景 116	
写真図版3	1 ・ 2 号掘立柱建物跡 117	
写真図版4	1 号土坑ほか 118	
写直図版 5	遺物出土状況 (縄文前期) 110	

写真図版6	遺物出土状況(縄文早期) 1	20
写真図版7	遺構外出土遺物(土器1) 1	21
写真図版8	遺構外出土遺物(土器 2) 1	22
写真図版 9	遺構外出土遺物(石器1ほか)… 1	23
写真図版10	遺構外出土遺物 (石器2) 1	24

## 米 沢 遺 跡

**所 在 地** 二戸市米沢字長瀬27-1ほか

委 託 者 農林水産省東北農政局

馬淵川沿岸農業水利事業所

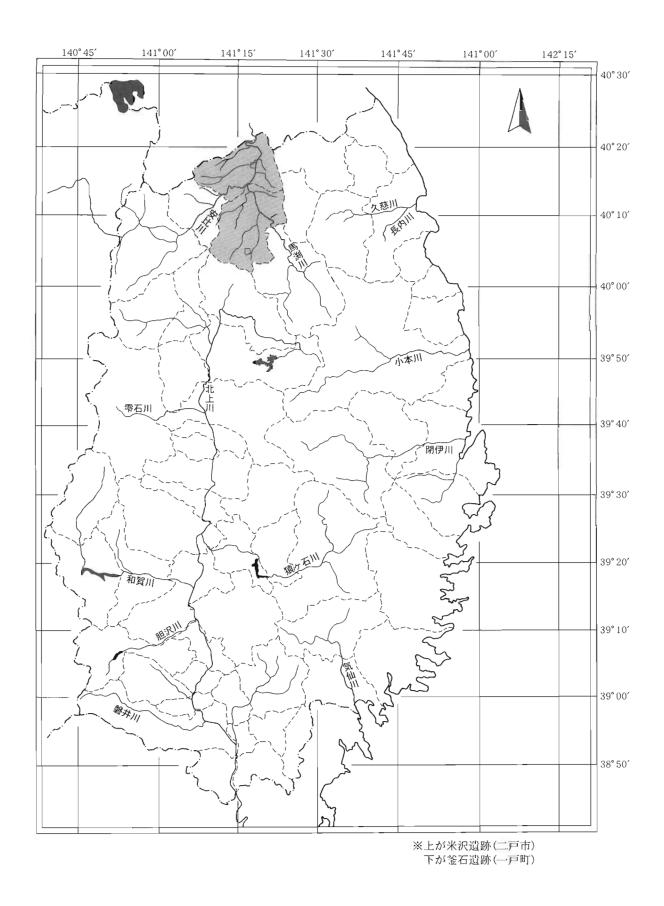
事 業 名 馬淵川農業水利

発掘調査期間 平成13年4月16日~6月7日

調査対象面積 600㎡

発掘調査面積 600m²

遺跡番号・略号 IE99-0390・MΖ-01



第1図 岩手県図

#### I 調査に至る経過

本地区は、岩手県北部を貫流する馬淵川の沿岸に位置し、二戸市及び一戸町にまたがる2,810haの畑作農業地帯である。この地域は干害施設が未整備のため、作物の生育期間における降水量不足のため、干害による被害がしばしば生じており、農業生産の阻害要因となっていた。このため、2,590haの干害を目的に新規水源として、一戸町大志田地区の馬淵川支流平糠川に大志田ダム、下流の二戸市米沢地区の馬淵川に米沢揚水機場等を築造する工事を進めている。

この米沢揚水機場周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地があり、過去には二戸バイパス関連や現在では東北新幹線関連で発掘調査を実施していることから、米沢揚水機場関連についても同様の調査が必要と判断された。これにより、岩手県文化課へ平成13年度発掘調査の要請を行い、文化財保護法第57条の3第1項の規定により、平成12年12月5日岩手県教育委員会あて発掘届の通知をした。

これに対し、平成12年12月19日付け教文第7-248号にて発掘調査を実施するよう通知があり、平成13年3月1日付け教文第1342号によって平成13年度に米沢遺跡の発掘調査をおこなうこととした。発掘届は平成13年3月29日付けで教育委員会(教育長)宛で提出しました。

調査は 開告手県文化振興事業団に委託し、平成13年4月16日から同年6月7日まで現地調査 (600㎡) 等を実施した。

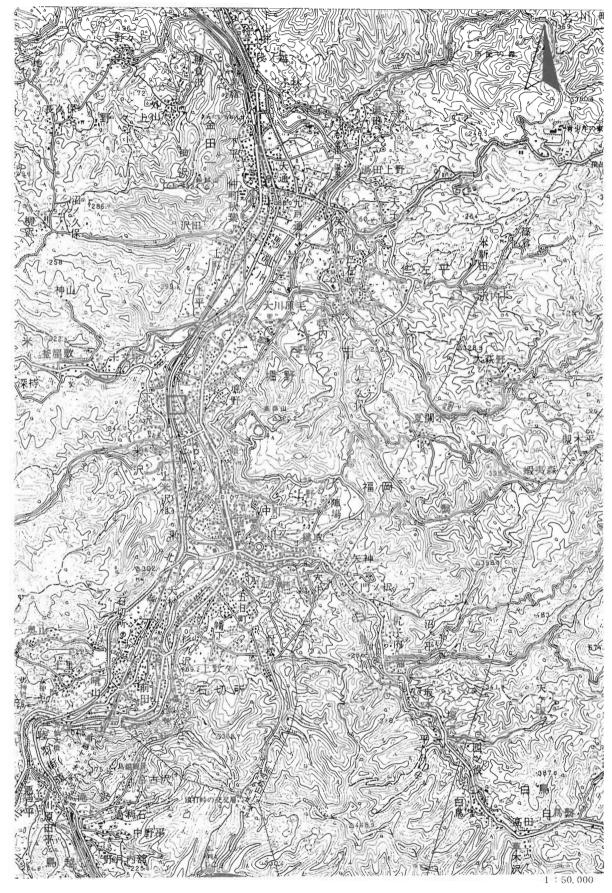
### Ⅱ 遺跡の立地と環境

#### 1 遺跡の位置

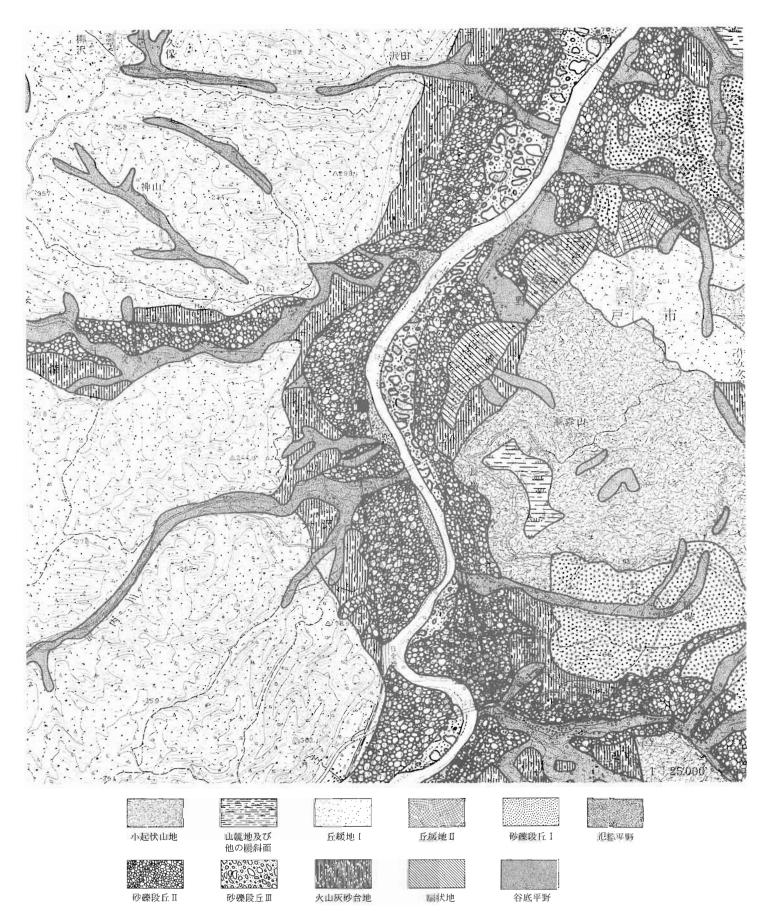
米沢遺跡は岩手県二戸市米沢字長瀬27-1ほかに所在し、東日本旅客鉄道東北本線斗米駅の北北東約400 mの地点にある。遺跡の所在する二戸市は面積が238.17k㎡、盛岡市から北へ約64km、岩手県の北端部に位置しており、北側は青森県の三戸町、同名川町、西側は青森県田子町、浄法寺町、東側は九戸村、軽米町、南側は一戸町に隣接している。

#### 2 地形と立地

二戸市は東に北上山地、西に奥羽山脈に挟まれ、中心を馬淵川が南北に流れる。市街地からは望むことができないが、西側に稲庭岳(標高1,078m)、西岳(標高1,018m)より連なる奥羽山脈が、西にせまる標高200~300mの丘陵の背後にある。馬淵川は、幹線流路延長142kmの河川で、葛巻町東端部の北上山地を源とし、葛巻町、一戸町、二戸市、青森県三戸町を流れ、八戸市で太平洋にそそいでいる。馬淵川の大部分は、



第2図 遺跡位置図



第3図 地形分類図

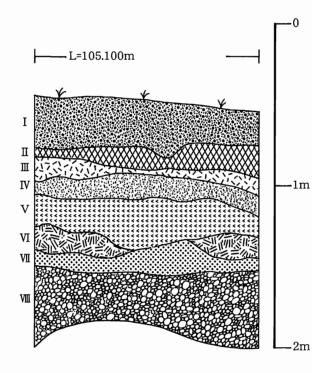
狭い河岸段丘と深い浸食谷が続く。二戸市の周辺では、一戸町の北端部の鳥越付近で東に大きく屈曲し、二戸市石切所付近まで、狭谷を流れる。さらに北流して二戸市下山井から三戸町梅内にかけても、流れは複雑に屈曲し、山地のせまる狭谷を流れる。この二戸市石切所と下山井の間、約8kmの区間は、馬淵川は緩やかに曲流し、最大幅が約1.5kmの谷底平野が形成されている。この谷底平野は、高さや生成時期によって、いくつかの段丘に区分することができる。上位より仁左平、福岡、長峰、中野、堀野、中曽根の各段丘である(松山1981)。松山氏によれば、堀野段丘は馬淵川東岸の矢沢から堀野付近及び杉ノ沢付近と、西岸の下米沢から石切所付近にかけて分布する。数mの段丘礫層の上に南部浮石層を伴う黒色土層をのせる点では中野段丘と同様であるが、段丘面傾斜がやや大きく、また段丘縁と馬淵川面との比高が15~18mと小さいので異なるとしている。なお、福岡段丘は、下山井・中町秋葉から上平・米沢・上里・五日町付近と海上川・十文字川の地域に分布、低位の中町段丘とは15~20mの比高で接している。八戸浮石流凝灰岩に当たる火山灰流凝灰岩を主たる構成層とし、シラス台地としての性格をもっているとしている。

米沢遺跡は馬淵川の西岸、大部分は堀野段丘にのり、今回の調査区はその段丘縁辺部付近である。遺跡の中を南-北に走る国道4号バイパスの東側、馬淵川とに挟まれた地点を細長く南北に調査したことになる。現況は未舗装の狭い道路と畑地、雑木林であった。調査区付近の段丘面は小規模な沢による開析や段丘崖の崩れなどがみられ平坦な部分は少なかった。調査区は大きく北側、中央、南側に分けられるが、北側調査区には平坦な地形に沢の開析が入る。中央部調査区は緩斜面地形で段丘崖方向(南東)へ向け低くなっている。南側は調査区内では最も標高が低い。地形は平坦であるが、堆積土は薄く南部浮石層も見られなかった。

#### 3 基本層序

調査区が南北に細長いために、南側・中央部・ 北側の調査区では堆積状況が大きく異なっている ことが明らかになった。その中で最も状態の良い 北側調査区において基本土層柱状図を作成した (第4図)。

- 第 I 層 黒褐色土 (層厚: 20~50cm) 粘性やや有り、締まり有り。耕作土、地点によっては未舗装の道路で整地されている。
- 第II層 黒褐色土 (層厚: 5~35cm) 粘性・締ま やや有り。層中には、十和田 b 降下火山 灰を含む。
- 第Ⅲ層 中掫浮石(層厚:0~25cm)調査区北側では黒褐色土に中掫浮石が少量混じる程度、中央部調査区では中掫浮石の粒子の大きなものと、小さなものとが層を成して観察された。調査区南側ではⅢ層は見られずⅠ層下はⅧ層となる。遺構検出面。



第4図 土層断面柱状図



- 第Ⅳ層 黒色土 (層厚: 0~20cm) 粘性・締まりやや有り。層中には南部浮石を微量含み縄文時代前期の遺物が出土した。
- 第V層 黒色土(層厚:0~30cm) 粘性やや有り、締まり有り。層中には南部浮石を多量に含み縄文時代前期の遺物が出土した。遺構検出面。
- 第VI層 南部浮石 (層厚:  $0 \sim 25$ cm) 調査区北側でのみ見られる。中央部及び南側調査区は標高が $3 \sim 5$  m 程低く南部浮石の堆積は確認されなかった。
- 第Ⅲ層 暗褐色土 (層厚:10~15cm) 粘性・締まりやや有り。南部浮石粒を不規則に含む。縄文時代早期の 遺物が出土する。遺構検出面。
- 第Ⅷ層 褐色土(層厚:50~60cm) 粘性・締まりやや有り。八戸火山灰層。この下には八戸火山灰火砕流層 (シラス層) が確認されている。

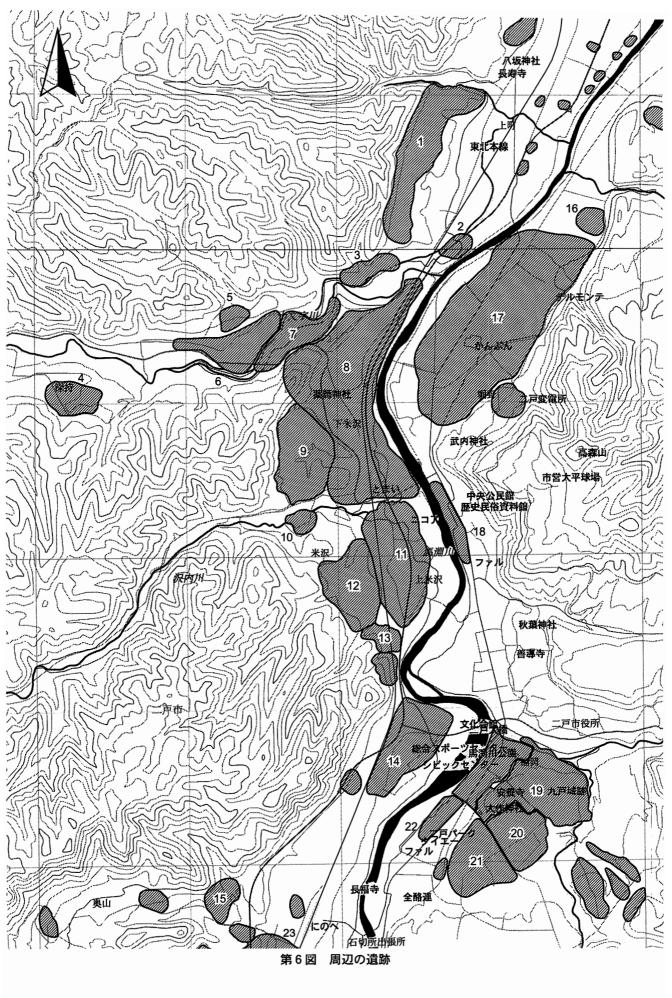
調査区の南側は第 I 層の次に第 II 層がくるため、遺構検出は第 II 層で行った。中央部調査区では第 II 層が見られなかったが遺構検出は北側調査区と同様に第 III 層上面・第 V 層・第 III 層において行った。十和田 a 降下火山灰は基本的に見られず、段丘縁辺部の一部が崩落してできた小規模な抉れた落ち込みに堆積しているのを確認しただけである。

#### 4 周辺の遺跡

米沢遺跡の周辺に分布する遺跡について、その分布図(第6図)と各遺跡の内容を簡単にまとめた一覧表を作成した。この中で本遺跡は米沢遺跡群の中に含まれて位置付けられている。

#### 米沢遺跡周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	上町	散布地	縄文・近世	縄文土器・弓場跡	金田一字上平、字 新田、日ノ沢	演舞場跡
2	上田面	集落跡	弥生、古代	方形周溝基、住居跡、 土師器、鉄製品	金田一字上田面	S51、52 県文化課が調査。二戸バイパ ス関連
3	海老田	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	金田一字海老田	
4	上野平	集落跡・散布 地	縄文・奈良・ 平安	縄文土器、土師器	下斗米字上野平、 八日市、米田平	主体部トレンチャーにより破壊。H7 年度市調査
5	十文字	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	下斗米字上野平	
6	釜屋敷	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	下斗米字釜屋敷	
7	細越	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	下斗米字細越	文献「古城館趾考」
8	米沢遺跡群(米 沢館・エン館)	集落跡・城館 跡	縄文、古代・ 中世	竪穴住居跡、工房跡、 土墳群	米沢字下平、長瀬、 家ノ上、荒谷	S47~52県文化課が調査。二戸バイパ ス関連
9	佐々木館(稲荷 館)	散布地・城館 跡	縄文・古代・ 中世	縄文土器、土師器、 堀	米沢字家ノ上	一部県道工事により削平。文献「古城 館趾考」
10	上平I	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	米沢字上平	
11	下村	集落跡	縄文(後期)、 古代	配石、住居跡	米沢字上平、上村、 下村、荒谷	S51県文化課が調査(二戸バイパス関連)、S60二戸市教委調査
12	上平Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	米沢字上平	
13	上平IV	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	米沢字上平	
14	中曽根	集落跡	縄文・古代・ 中世	住居跡、円形周溝、土墳跡		S52 (市道中曽根線) 、S53~54 (二 戸バイパス関連) 調査一二戸市教委 (1978)
14	中曽根II	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡、縄文土 器		S53・54調査、二戸市教委(1981)
15	火行塚	集落跡	縄文・弥生・ 古代	縄文前期住居跡、弥 生包含層、弥生土器 群、土師器		S53・54岩埋文センター調査。二戸バイパス関連
16	大川原毛	散布地	縄文	縄文土器		
17	堀野	集落跡・祭祀 跡	縄文・古代	古墳、蕨手刀、竪穴 住居、配石		S 28、37~39岩大発掘調査
18	長嶺	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	福岡字長嶺	



No.	遺跡名	種別	時 代	遺構・遺物	所在地	備考
19	九戸城(白鳥城、 福岡城)	城館跡	中近世	石垣、堀跡、石類、 枡形		S10国指定。本丸、二ノ丸、三ノ丸 (指定地外) 松ノ丸、石沢館、若狭館 からなる
20	在府小路	散布地・城館 跡	縄文・中近 世	縄文土器、堰跡、陶 磁器		九戸城関連遺址
21	八幡下	散布地	縄文	縄文土器(晩期)		
22	橋場	城館跡	縄文・中世	縄文岩偶(晩期)、 土塁(既破壊)		S57二戸市教委調査
23	上里	集落跡・城館 跡	縄文・中世	大型住居跡、フラス コ土坑群、堀跡、人 骨、獣骨、土製品		S53・54岩埋文センター調査。二戸バイパス関連S60~62二戸市教委調査。

#### Ⅲ 調査の方法と室内整理

#### 1 調査の方法

#### (1) グリッドの設定と遺構名

グリッドは平成 $10 \cdot 11$ 年に調査された米沢遺跡の設定と対応させ平面直角座標(第X系)に合わせた。調査区内に基点を数ヶ所設け、これを東西及び南北方向に結んで基準線を設定した。各遺跡ごとにこの基準線を延長して大グリッドは一辺が100m、小グリッドは大グリッドの各辺を20等分して一辺5 mとしている。大グリッドの北西端を起点として東西方向には $I \cdot II \cdot III \cdots$ の番号、南北方向には $A \cdot B \cdot C \cdots$ のアルファベットを付して $I \cdot A \cdot II \cdot A$ と呼称した。さらに小グリッドも西から $1 \cdot 20$ 、北から $1 \cdot 20$ 、北から $1 \cdot 20$  により、基準杭の座標は以下の通りである。

基1 X=31,850.000·Y=39,250.000 補1 X=31,830.000·Y=39,255.000

補2 X=31,850.000 · Y=39,255.000 補3 X=31,925.000 · Y=39,195.000

補4 X=31,945.000·Y=39,195.000

#### (2) 粗掘り・遺構検出

雑物撤去後に調査区内にトレンチを設定し遺物の包含状況、遺構の確認面を把握した。遺物の出土が極めて少ない地点は重機を用いて表土・耕作土並びに中掫浮石層を除去した。ただ遺物を多く包含する層は人力によって掘り下げていくことにした。

遺構の確認は中掫浮石層上面・中掫浮石除去後の黒色土面、そして南部浮石層直下の暗褐色土層で行い、これを、ジョレン、両刃鎌で平滑にしプランを確認するようにした。

#### (3) 遺構の命名

遺構名は遺構略号に検出順に算用数字を付して以下のように行っている。

竪穴住居跡…RA01 土坑・陥し穴状遺構…RD01~ 焼土・炉跡…RF01~ 堀・溝跡…RG01~

#### (4) 遺構の精査と遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構を4分法、土坑類・焼土については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真の撮影は、精査の各段階において適宜これを行った。遺構の平面実測にあたっては原則として簡易遣り方測量で5mグリッドを1mに細分したメッシュを用いて行った。また平板測量も用いた。実測図は原則として1/20の縮尺を用い、平面図と断面図を作成した。なお、焼土・炉・埋設土器については1/10・溝跡は1/50の縮尺を用いた。遺構内出土の遺物は、埋土の場合上部・下部に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を付け、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、南部浮石層より上面はグリッド毎に出土した層位を記して取り上げ、南部浮石層より下層から出土した遺物は可能な限り個々に付番し、その位置を記録して分布図(1/20)を作成して取り上げた。

#### (5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、 $6 \times 7$  cm判カメラ(モノクロ)と35mm判カメラ 2 台(モノクロ、カラー・リバーサル)を使用した。この他にポラロイドカメラを補助的な用途として用いた。撮影に当たっては撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。航空機による空中写真は見合わせた。

#### 2 室内整理

室内での作業は、遺構図面の点検と修正及びトレース、遺物の注記、接合・復元を優先させて行った。次に仕分け・登録、写真撮影・実測・拓本の作成を並行してすすめた。この後実測図の点検とトレースを行い、図版・写真図版の作成を順に行った。個々の整理方法及び図版の凡例は下記の通りである。

#### (1) 遺構

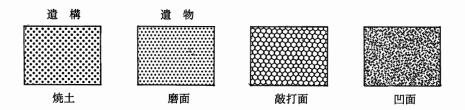
遺構配置図は発掘調査時に作成した図面をもとに1/300で掲載した。

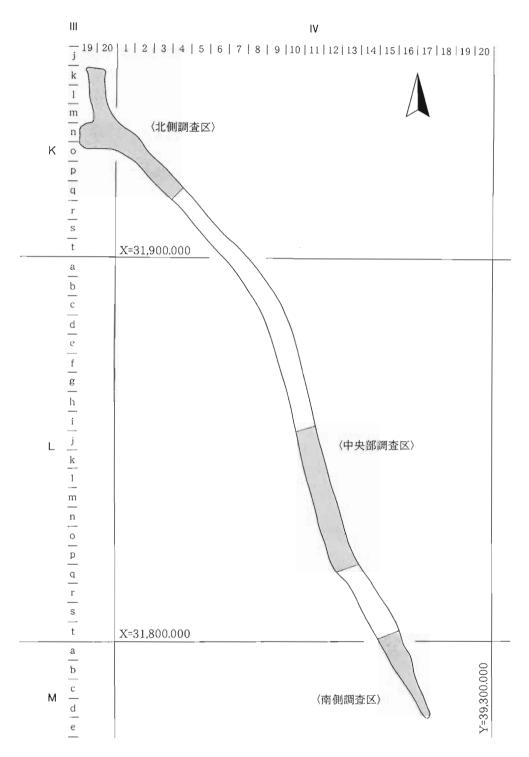
各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。竪穴住居跡・竪穴状遺構 $\cdots$ 1/40、焼土・炉 $\cdots$ 1/40、土坑 $\cdots$ 1/40、堀・溝跡 $\cdots$ 平面1/200、断面1/40

#### (2) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの(口縁・底部が1/5以上残存)に限ったが、一部は平面実測して掲載した。また、時間的制約から器形が単純なものは拓本を付して代用した。掲載遺物の縮尺率は下記の通りであるが、これらにも一部変更があり図版には縮尺率を付けた。

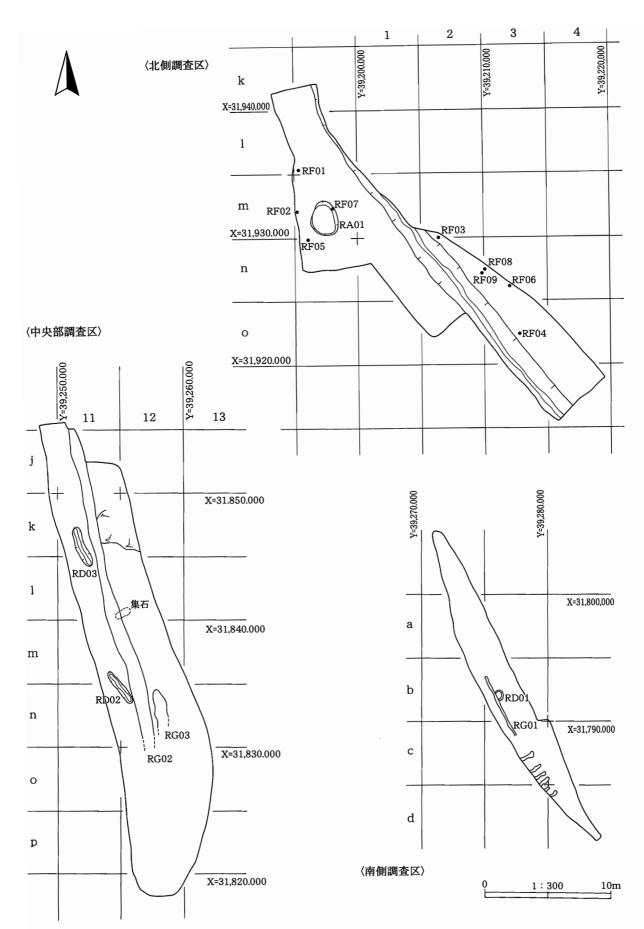
土器・礫石器・拓本…1/3、大型の土器・石器…1/4、その他の遺物…1/2・1/3 なお、遺物写真の縮尺については、概ね実測図に準じている。また、実測図版中にある石器の使用痕の表現や、使用したスクリントーンの指示については以下に示した。





大グリッド:100×100m 小グリッド:5×5m

第7図 調査区全体図



第8図 遺構配置図

#### IV 検出された遺構と遺物

#### 1 竪穴住居跡

#### RA01竪穴住居跡(第9図・写真図版3)

北側調査区にあたるKIIIm20グリッドに位置しており、段丘崖までは最短で約35mを測る。WI a 層まで面的に掘り下げた段階で、その上位に堆積しているはずの南部浮石(VI層)による不整な円形状の広がりとしてプランを確認した。規模は開口部径2.8×2.1m、深さは最大で32cmを測る。平面形は不整な長円形で、底面は平坦にはならず中央部分が最も深くなっている。本遺構を多少深めに掘削し断面観察で埋土と床面及び壁面の境界を辿ったところこのような形状に掘り込まれていると判断した。壁は南側壁よりも北側の壁がより緩やかに立ち上がっているように観察された。埋土は一応3層に大別した。何れも基本的には自然堆積としてよいと思われる。炉跡と思われる痕跡は床面からは確認できなかった。また柱穴も床面及び遺構の周囲からは検出されなかった。南側の壁際やその周辺に多量の自然礫及び礫石器類が縄文時代早期の土器と共に出土している。何れも本遺構に伴うか関係のあるものとして搬入されたものであろう。

遺物 (第18図・写真図版11) は縄文時代早期の土器がT-14コンテナで0.5箱ほど出土している。5には口唇部から口縁部にかけて横位に連続して刻み目が、体部には貝殻条痕文が施されている。6・8・9には斜位と横位に貝殻腹縁文が施文されている。7には文様は施されていない。遺構検出状況や出土遺物から縄文時代早期に属する遺構であると判断される。

#### 2 焼土遺構

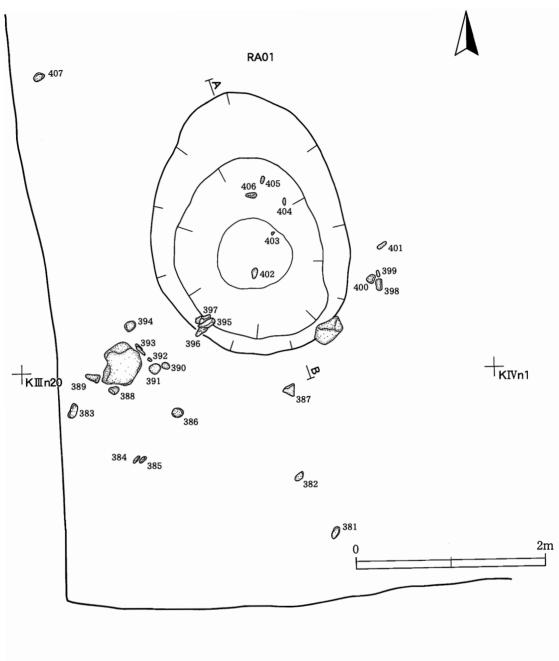
9基(箇所)を登録した。何れの焼土も北側調査区(段丘崖からは20~30m程内側)において、南部浮石 層を除去した段階で検出されている。

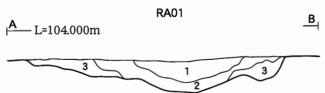
#### RF01焼土遺構(第10図・写真図版4)

KⅢm20グリッドに位置する。南部浮石を取り除いたあとのⅦ a 層で検出された。140×75㎝の範囲に大きく二つの広がりとして図示しているが、精査中に上面を削りすぎたためである。最大 8 ㎝程の厚さがあり、現地性の焼土でよいと思われる。遺構検出面から縄文時代早期の遺構である。

#### RF02焼土遺構(第10図・写真図版4)

K III m 20グリッドにおいてVII a 層で検出された。縄文時代早期の竪穴住居跡(RA01)より西側へ1.5 mのところに位置している。焼土の広がりが $225 \times (75)$  cmで西側は調査区外へ延びており、最大で16 cmの厚さを測る。現地性焼土でよいと思われ、層位的に縄文時代早期に位置付けられる。

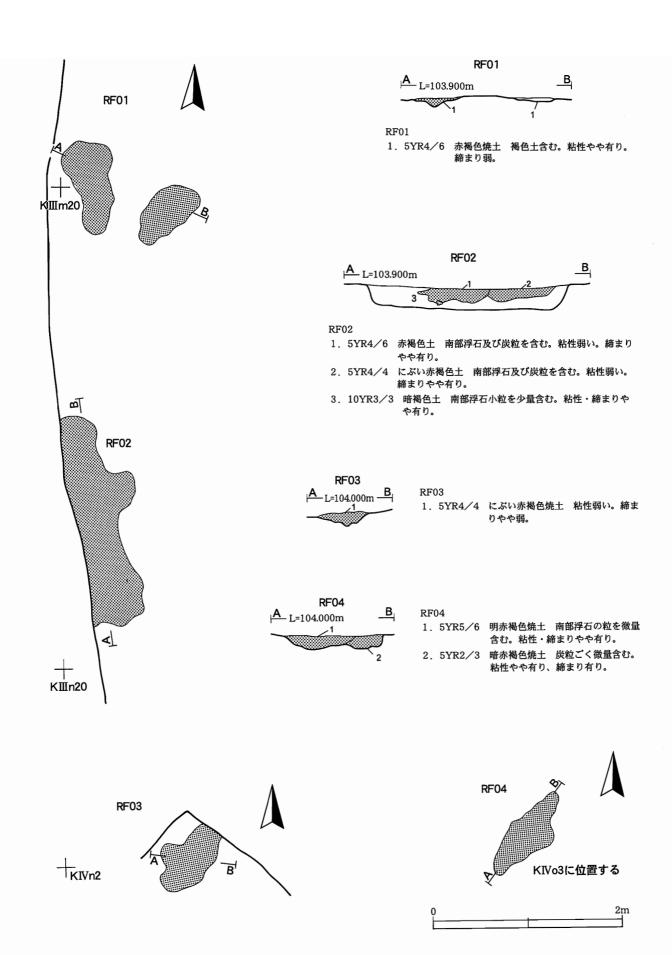




#### RA01

- 1. 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石少量含む。粘性やや有り、締まり有り。
- 2. 10YR3/2 黒褐色土 極小粒浅黄橙色浮石 (八戸か) 多量に含む。粘性やや有り、締まり有り。
- 3. 10YR3/4 暗褐色土 黄橙色土ブロック含む。粘性やや有り、締まり有り。

第9図 RA01竪穴住居跡



第10図 焼土(1)

#### RF03焼土遺構(第10図・写真図版4)

 $K \mathbb{N}$  n 2 グリッドに位置し、 $\mathbb{N}$  a 層面にて検出された。 $80 \times 55 \text{cm}$  の範囲に焼土の広がりを確認したが、北東側は若干調査区外へ延びていく。現地性の焼土と思われ、最大14 cm の厚さで焼土層が形成されていた。遺構検出面から縄文時代早期の遺構といえよう。

#### RF04焼土遺構 (第10図・写真図版4)

K № o 3 グリッドにおいてWI a 層面で検出された。104×46cmの範囲に最大14cmの厚さで焼土層が形成されているように観察された。現地性焼土でよいと思われ、時期は検出された層位から縄文時代早期に属する。

#### RF05焼土遺構(第11図・写真図版5)

 $K \coprod n 20$ グリッドから $\bigvee$  a 層面にて検出された。縄文時代早期の竪穴住居跡(RAO1)のすぐ西側、1 m程のところに位置している。 $135 \times 33$  cm の範囲に最大15 cm の厚さで焼土層がみられた。現地性の焼土と思われ、時期は層位的に縄文時代早期に属する。

#### RF06焼土遺構 (第11図)

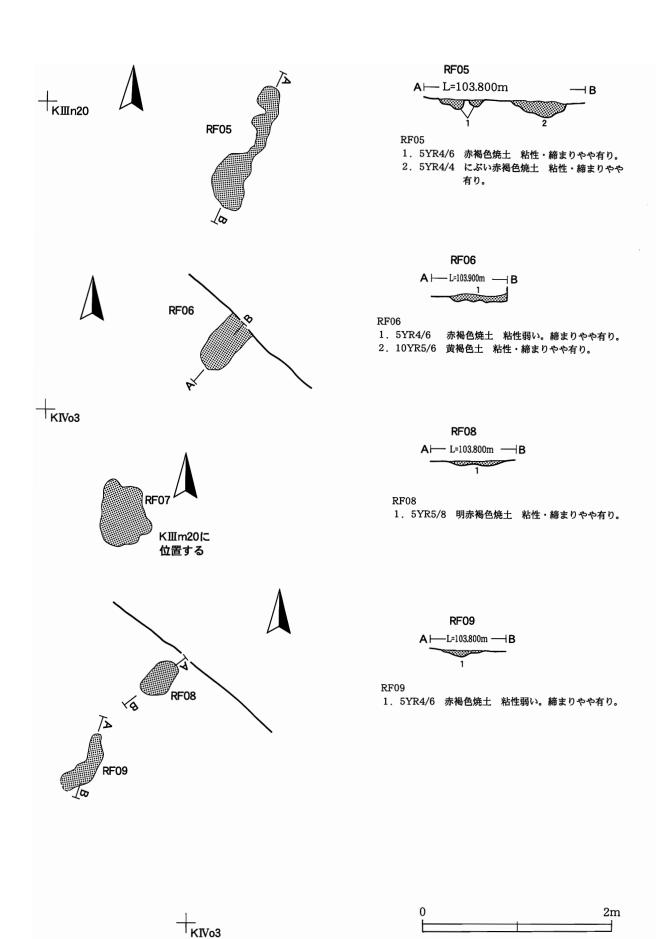
KIVn3グリッドに位置する。VIa層面で検出された。北東側が調査区外に若干延びているが、検出した 範囲は60×33cmで最大6cmの厚さで焼土層が分布していた。周囲からは縄文時代早期の土器が一定量出土し ている。現地性焼土とみられ、遺構検出面から縄文時代早期に位置付けられる。

#### RF07焼土遺構(第11図・写真図版5)

KIIIm20グリッドに位置し遺構検出面はWIa層面に相当する。縄文時代早期の竪穴住居跡(RA01)を検出中に焼土の広がりらしきものを70×54cmの範囲で確認し、精査したが断面での観察では焼土層のはっきりとした分布を把握することはできなかった。上面を削りすぎたことによるものか、或いは誤認の可能性もある。

#### RF08焼土遺構 (第11図・写真図版5)

K № n 2 グリッドに位置し、W a 層面で検出された。R F 0 9 が南西側に隣接している。43×27 cmの範囲に最大 5 cmの厚さで焼土が形成されていた。現地性焼土でよいと思われ、時期は遺構検出面から縄文時代早期といえる。



第11図 焼土(2)

#### RF09焼土遺構(第11図・写真図版5)

#### 3 陥し穴状遺構

中央部調査区(L W k 11・L W n 12グリッド)において 2 基の陥し穴状遺構を検出した。段丘崖からは約10~15m程内側に入った所で、地形的には平坦面から段丘崖へ向かう緩斜面に立地している。

#### RD02陥し穴状遺構 (第12図・写真図版7)

LIV n 12グリッドにおいて中掫面 (IV層上面) にて検出された。平面形は細長い楕円形を呈し、長軸方向は北西-南東方向で、等高線にほぼ直交する。検出面での規模は290×50cm、深さは114cmを測る。 V層面で掘り足りないことが判明し、再度精査して図面を合成した。底部へ行くほど幅は狭くなり八戸火山灰面を若干掘り込んでいる。副穴は把握できなかった。埋土は自然堆積の様相を呈し、壁面崩落土が主に堆積していた。遺構検出面から縄文時代前期及びそれ以降に属する遺構と見られる。

遺物 (第18図・写真図版11) は土器1・2が出土しているが、何れも地紋のみで時期が判然としない。

#### RD03陥し穴状遺構 (第12図・写真図版7)

LIV k 11グリッドに位置し、中掫面 (IV層上面) にて検出された。平面形は長楕円形を基調とし、長軸方向は北西−南東を向いている。検出面での規模は306×72cm、深さは147cmを測る。 V 層面で掘り足りないことが判明し、再度掘り直して図面を合成した。底部へ行くほど幅は狭くなり八戸火山灰面を45cm程掘り込んでいる。副穴は把握できなかった。埋土は自然堆積の様相を呈し、壁面崩落土が多く堆積していた。遺構検出状況から縄文時代前期以降に属すると思われ、RD02とも位置関係から時期的に近いと推測される。

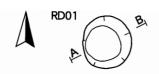
遺物は(第18図・写真図版11)土器3・4が出土している。4は口縁部を無文帯とし、体部には羽条縄文を施している。

#### 4 堀 跡

#### RG04堀跡(第13・14図・写真図版8)

北側調査区(KIII k 20~KIV p 4 グリッド)に位置し、南部浮石面(VI層上面)にて検出された。南東-北西方向へほぼ直線的に33m程確認され両端はそれぞれ調査区外に延びている。上幅は検出面で2.2~1.6m、薬研堀状を呈し深さは現表土から2.1~1.9mを測る。埋土は自然堆積の様相を呈し、黒褐色土を主体としつつ壁崩落土とみられる南部浮石や中掫浮石などが流れ込んだように堆積していた。

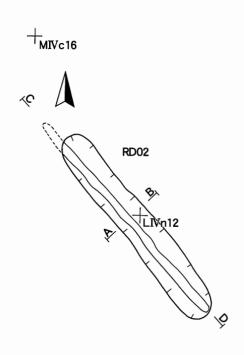
堀内部の平場は検出された堀の東側にあたる。平場の殆どは調査区外にあり、現況は畑地及び屋敷となっ

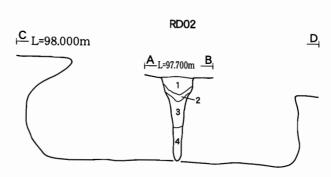




#### RD01

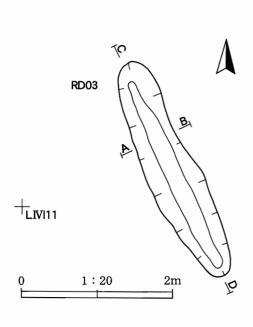
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
- 2. 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色プロック多量に含む。粘性・ 締まりやや有り。

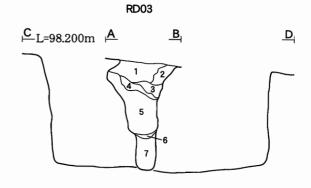




#### RD02

- 1. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。
- 2. 10YR3/2 黒褐色土 中掫浮石微量含む。粘性・締まりやや有り。
- 3. 10YR2/1 黒色土 南部浮石・中掫浮石少量含む。粘性やや有り、 締まり弱い。
- 4. 10YR2/1 黒色土 南部浮石少量含む。粘性やや有り、締まり弱い。

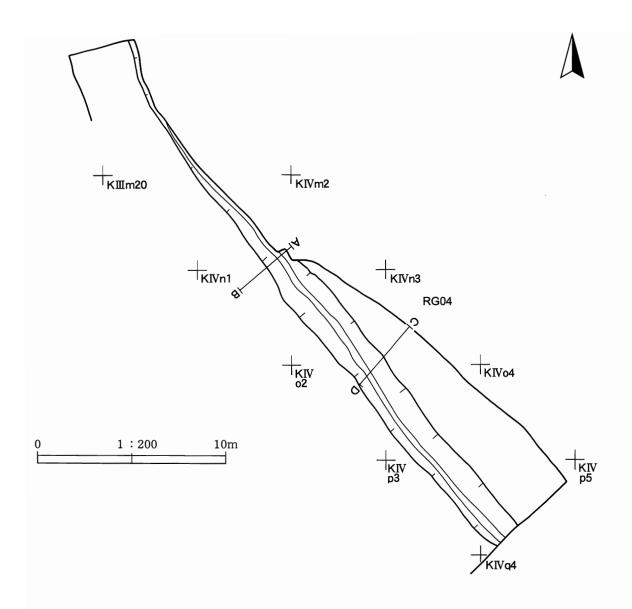


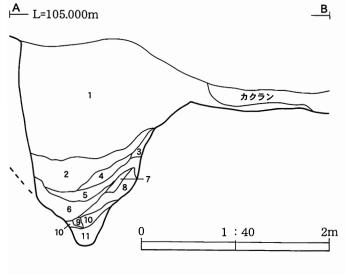


#### RD03

- 1. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り、締まり弱い。
- 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり弱い。
- 3. 10YR2/3 黒褐色土 中掫浮石含む。粘性弱い。締まりやや有り。
- 4. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り、締まり弱い。
- 5. 10YR3/2 黒褐色土 中掫浮石微量含む。粘性・締まりやや有り。
- 6. 10YR3/4 暗褐色土 褐色土との混合土。粘性やや有り、締まり弱い。
- 7. 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土・黄褐色土ブロック少量含む。粘性やや 有り、締まり弱い。

第12図 土坑・陥し穴状遺構

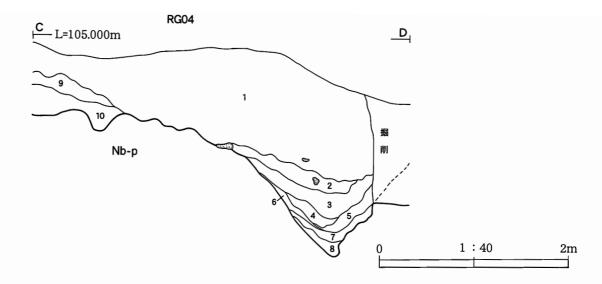




第13図 堀跡(1)

#### RG04 A-B

- 1. 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石ごく微量含む。粘性・ 締まりやや有り。
- 2. 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石微量含む。粘性・締ま りやや有り。
- 3. 10YR4/4 褐色土 黒褐色土混じる。粘性・締まりや や有り。
- 4. 10YR2/1 黒色土 南部浮石微量含む。粘性・締まり やや有り。
- 5. 10YR2/1 黒色土 南部浮石多量含む。粘性・締まり
- やや有り。 6. 10YR2/1 黒色土 南部浮石微量、八戸火山灰微量含む。粘性やや有り、締まり弱い。
- 7. 3. 10YR4/4 褐色土 黒褐色土混じる。粘性・締ま りやや有り。 8. 10YR5/8 黄褐色土 粘性・締まり弱い。
- 9. 2.5YR7/3 浅黄色砂 黒色土混じる。粘性・締まり弱 67
- 10. 2.5YR7/3 浅黄色砂 粘性なし。締まりやや有り。 11. 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石少量含む。粘性やや有り。締まり弱い。



RG04 C-D

- 1. 10YR2/3 黒褐色土 十和田b・南部浮石微量含む。粘性・締まりやや有り。
- 2. 7.5YR1.7/1 黒色土 南部浮石ごく微量含む。粘性弱い。締まり 有り。
- 3. 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土・南部浮石との混合土。粘性弱い。 締まりやや有り。
- 4. 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石微量含む。粘性・締まりやや有り。
- 5. 10YR2/1 黒色土 南部浮石多量に含む。粘性・締まりやや有り。
- 6. 10YR5/6 黄褐色土 粘性弱い。締まりやや弱。
- 7. 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石少量含む。粘性・締まりや や有り。
- 8. 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石少量含む。粘性弱い。締ま りやや有り。
- 9. 10YR3/3 暗褐色土 中掫浮石含む。粘性・締まりやや有 り.
- 10. 10YR2/1 黒色土 南部浮石多量に含む。粘性・締まりや や有り。

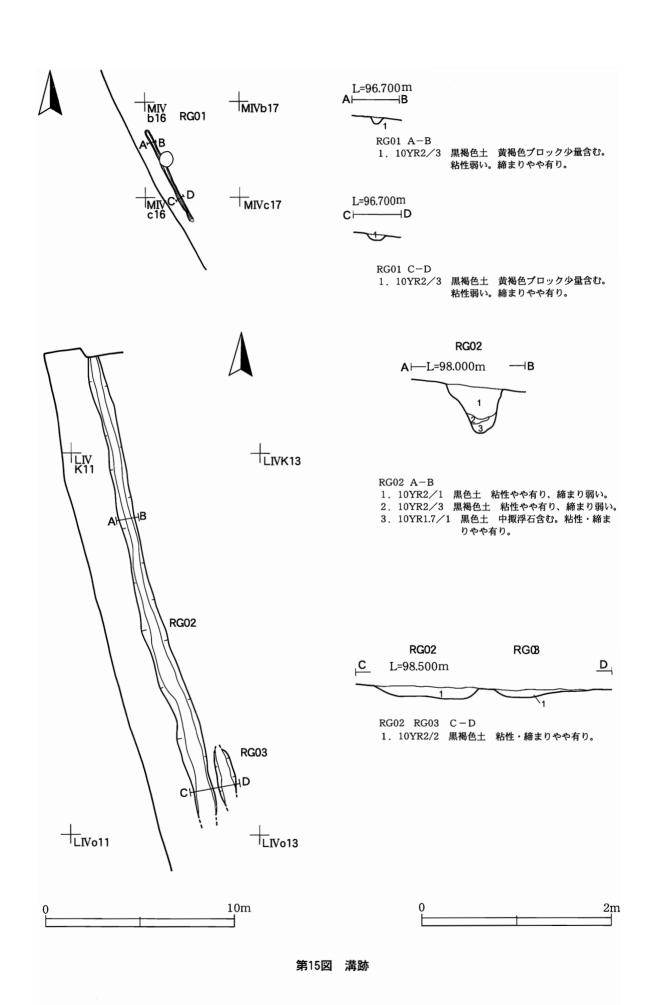
第14図 堀跡(2)

ている。調査区内では堀に関係する遺構は検出されていない。反対に堀の外側は国道から段丘下の馬淵川へ下りていく未舗装の狭い道路となっており、堀はこの畑地と道路の境に沿って検出された。現地形観察から、堀は調査された北端からさらに12m程北側に延びてから東側に方向を変え段丘崖へ達しているようである。一方、調査された南端からさらに直線的に40~50m程延びたところで小規模な沢の開析にぶつかって、東側の段丘崖へと続いている。つまり段丘縁辺部をコ字状に区画する堀の一部を調査したことになる。

本遺構にともなう遺物は出土していないため、確証はないが現段階では遺構の時期を中世と考えたい。

#### 5 溝 跡

#### RG01溝跡(第15図・写真図版9)



-25--

#### RG02溝跡(第15図・写真図版9)

中央部調査区のL  $\mathbb{N}$  j 11~L  $\mathbb{N}$  n 12グリッドに位置し、断面観察から  $\mathbb{N}$  層面で確認されたが精査は  $\mathbb{N}$  層面で行っている。北西-南東方向にほぼ直線的に24.7m程延びており、北側は調査区外へ続き、南側は浅くなってプランを確認できなくなる。上幅は $\mathbb{N}$  110~ $\mathbb{N}$  60cm、深さは最大で $\mathbb{N}$  51cmを測る。埋土は自然堆積で黒褐色土が主体である。出土した陶磁器の年代観から近代頃の遺構であろう。

#### RG03溝跡(第15図・写真図版9)

中央部調査区のL W n 12グリッドに位置し、断面観察から II 層面で確認されたが精査は W 層面で行っている。 R G O 2 の東側を接するように併行して北西 - 南東方向にほぼ直線的に2.8 m程確認された。上幅は最大で100cm程、深さは 7 cm 前後を測る。埋土は黒褐色土の単層で自然堆積でよいと思われる。出土遺物はないが R G O 2 と同様に近代頃の遺構と考えたい。

#### 6 土坑

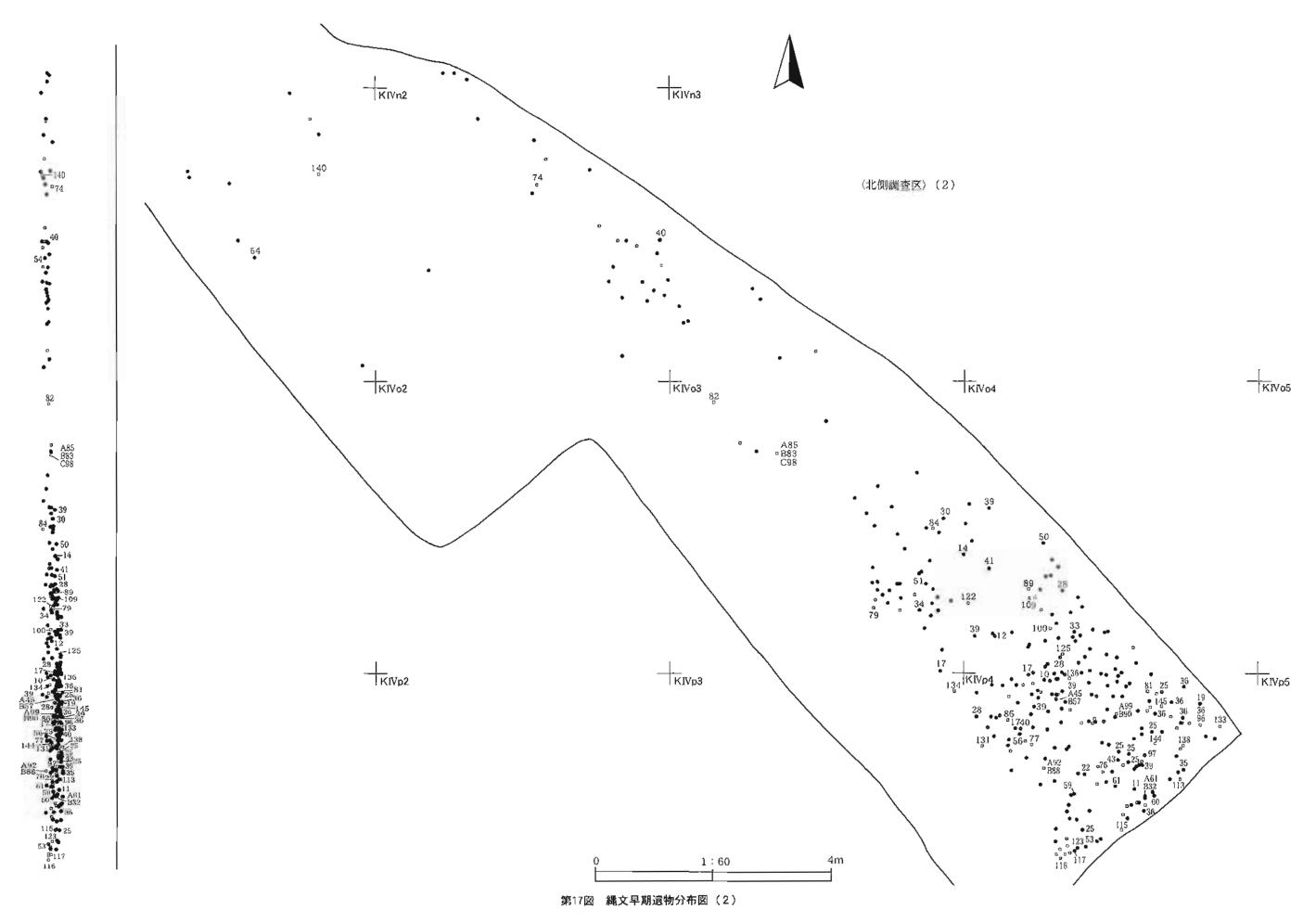
#### RD01 (第12図・写真図版7)

南側調査区にあたるMⅣ b16グリッドに位置し、表土を除去した段階(MI層面)で検出された。RG01 と重複関係にあり、本遺構の方が新しいと判断した。開口部径は69×68cmでほぼ円形を呈する。底面までは18cm程の深さがあり、底面はやや凹凸が認められ堅く締まるものではない。埋土は黒褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。出土遺物はなく時期決定の資料を欠くがRG01との重複関係も考慮して近世及びそれ以降の時期に位置付けたい。

#### 7 集石

中央部調査区、LN112グリッドにおいて中掫浮石層を除去した段階(N層)で自然礫のまとまりを検出した(写真図版10)。径 $15\sim35$ cm程の無加工の河原石が、他の地点と比べ寄り集まった状態で検出されたため平面図と写真により記録をとった。集石の下に何らかの遺構を伴うか掘り下げて見たが、そうした施設は周囲を含め確認されなかった。時期は検出面や周辺から出土している土器の特徴から縄文時代前期と考えられるが、人為的な施設なのか自然状態の一部なのか細長い調査区でもあり判然としない。また前期の遺構も今回の調査では検出されず、遺物も少量しか出土していない。





-29 · 30-

#### 8 出土遺物

本遺跡の今回の調査で出土した遺物は、コンテナ(42×32×30cm)約10箱である。そしてその9割位は縄文早期の面であるVII層からの出土である。この他に表土やV層からも若干出土している。種類としては縄文土器、石器、須恵器、金属製品、銭貨がある。

#### (1) 土器

出土した土器はコンテナ( $42\times32\times30$ cm)約6箱である。記載にあたっては、縄文時代早期… I 群、前期 … II 群、中期…II 群、IV 群…その他の時期区分を行い、これらのなかでの小分類は1 類、2 類…として表した。小分類については従来の土器編年に則り、各土器形式を参考にした。

#### 第 I 群土器 (第18~21図・写真図版11~14)

縄文時代早期の土器群である。今回の調査では北側調査区の南部浮石層(VI層)直下のVII層からのみ出土する。可能な限りこのVII層から出土する土器と石器は1点ごとに記録を取って取り上げてきた(第16・17図・写真図版6)。分布図を作成してみると北側調査区の中でも出土量に偏りがあるように見える。一つはRA 0 1 竪穴住居跡が検出された周辺(KIIIm20~KIIIn20グリッド)と北側調査区の中でも南端部付近(KIV o 3~KIVp4グリッド)である。何れもVII層(層厚20㎝前後)の中に包含されていたもので、この層を堆積土の色調や遺物の在り方から分層することは不可能であると判断した。そのため個々の遺物の分布図と土器の形態分類(従来示されている土器編年を意識して)とを対比させ、そこから何らかの傾向を導き出せないか試みたがそれは後述したい。

#### 第I群a類

深鉢尖底の土器で貝殻腹縁文、刻目状連続刺突文、沈線文などで文様を構成し、体部には貝殻条痕文、貝 殻腹縁文を施す土器群。

10・11は口唇部に絡条体圧痕、口縁部に4段の刻目状連続刺突文を配し、胴部には貝殻条痕文を施文している。同一個体であろう。12・13・22は胴部破片で貝殻条痕文が施文されている。14~21・25は口唇部に絡条体圧痕、口縁部に刻目状連続刺突文を配し、胴部には貝殻腹縁文が施文されている。17には補修孔がある。25には口唇部に細い沈線が巡り、内面はよく磨かれている。23・24は胴部破片で縄文を施している。層位的に第 I 群とした土器と一緒に出土しており本類に含めたい。26~29は刻目状連続刺突文、沈線文、貝殻腹縁文を施文する口縁部文様帯をもつものである。沈線は体部にも延び、文様帯は体部にも配置されるものがある。29は先細りの底部付近に貝殻を押し引きしている。繊維も本類の中では比較的多く入っている。30~33は貝殻条痕文が細かく施文されているものをまとめてみた。31の口縁部は山形突起状になりそうである。

これらの土器群は文様の特徴などから主に青森県東部から岩手県北部にかけて分布する白浜式、並びに寺の沢式よりも古手に比定される土器群と思われる。

#### 第I群b類

深鉢尖底の土器で口縁部は平縁もしくは辺の長さが違う山形突起をもち、口縁部には横位、縦位、斜位に 貝殻腹縁文を多用して文様を構成し、体部にも貝殻腹縁文が施される。

34は口縁部に横位に貝殻腹縁文を施し、35では横位と斜位に施した貝殻腹縁文で口縁部文様帯を構成する。36~43はとくに口縁部文様帯をもたず、斜位・縦位に貝殻腹縁文が施文されている。42は貝殻条痕文の上に斜位・横位の貝殻腹縁文を施文している。44は底部破片で本類に含めてよいものか自信はない。45・46も貝殻腹縁文による口縁部文様帯をもつものである。47・53には辺の長さが違う山形突起が付き、口縁部文様帯には貝殻腹縁文の他に細沈線が用いられている。48~51・54・55は体部の貝殻腹縁文が矢羽状に施文されているものである。51には細沈線が横走している。52は貝殻腹縁文による幾何学的な文様をつくりだしている。このような文様構成を持つ土器群は岩手県北部から青森県東部を中心に分布する寺の沢式に類似していると思われる。

#### 第I群c類

深鉢尖底の土器で平縁及び波状口縁を呈する。貝殻の腹縁をキザミ目状、貝殻の背を押し引きした文様を特徴としている土器群を本類とした。こうした特徴をもつ土器は従来から設定されている土器型式の中では 吹切沢式に相当するものと思われる。今回の調査では縄文早期の土器の中で最も出土量が少なく十数片しか 出土していない。

56は器面が煤により見えにくいが斜位に貝殻の背を押し引き若しくは貝殻腹縁文を施文している。口縁部に補修孔がある。57・58は口縁部にキザミ目状圧痕による文様帯をもつ。59~61は貝殻の背を押引きし、文様をつくりだしている土器である。59は波状口縁で口縁部に沈線と横位連続刺突文で文様帯を構成している。60・61は同一個体と思われる。

#### 第11群土器 (第21図・写真図版14)

縄文時代前期の土器群である。何れも中央部調査区の南部浮石層(VI層)上部にあたる V 層からの出土でコンテナ( $42 \times 32 \times 30$  cm) 1 / 4 箱ほど出土している。第 I 群とした土器よりも胎土に繊維を含み、やや軟質なものが多い。斜縄文を施文する62と羽状縄文を施す $63 \sim 65$ とがある。土器の天地もあまり自信がない。こうした特徴から前期初頭及びその前後に位置付けられる土器群であろう。

#### 第三群土器 (第22図・写真図版14)

縄文時代中期の土器群である。北側調査区において  $I \sim III$  層からコンテナ( $42 \times 32 \times 30$  cm) 1 / 4 箱ほど 出土した。66 は波状口縁に山形突起をもち、突起部分には隆帯による装飾が施されている。口縁部下に沈線 による文様を配すようである。円筒土器上層 e 式期頃で大木系土器の影響を受けたものと思われる。 $67 \sim 70$  は中期中葉に位置付けられる大木 8 b 式に比定される土器群である。隆沈線による渦巻き文を基調とした文様が施文されている。70 は時期が下るかもしれない。

#### 第Ⅳ群土器 (第22図・写真図版14)

71は身の浅い器形となりそうな無文の土器で器面は磨かれ、段違いの口縁部突起には刺突が施されている。 72は胴部の破片で細沈線による三角形と円形の文様が施文されている。73・159は平安時代の須恵器甕であ

#### 陶磁器 (第22図・写真図版14)

160は中央部調査区のⅢ層付近から出土した磁器碗で外面に簡略された梵字文を施す。18世紀後半頃の肥前産であろう。161はK № n 1 グリッドの I 層から出土した陶器の甕類で内面は鉄釉、外面は藁灰釉がかけられている。19世紀頃の在地産と思われる。162は陶器擂鉢で内外面に鉄釉が掛かる。時期・産地は判然と

しないが近代以降であろう。163も陶器擂鉢の口縁部で中央部調査区のIII層付近から出土した。19世紀以降で産地不明である。164は中央部調査区のIII層で出土した。陶器の鉢類であろうか。高台を除く内外面には鉄釉がかけられている。19世紀以降の在地産と思われる。

# (2) 石器

米沢遺跡出土の石器はコンテナ(42×32×30cm)で約6箱分である。その大半は縄文時代早期の面(VII層)からの出土で、それ以外のものは微量であった。内訳は石器観察表及び構成表のとおりである。縄文時代早期の石器組成と見なして差し支えなく、その中から代表的なもの75点を掲載した。分類は大工原(1997)を引用し、その中に本遺跡出土の石器をあてはめていった。よって出土していない器種も存在する。

# ①石鏃 (第23図・写真図版15)

出土した全てを掲載している。74は無茎鏃で抉りが浅くつくられている。75も無茎鏃と思われる。76~78は有茎鏃である。鏃身と茎部の境がはっきりせず作りも似通っている。

#### ②石錐(第23図·写真図版15)

1点のみの出土であった。79を石錐と分類 したが、有形石鏃の可能性もある。その際は 天地が逆となるであろう。

# 遺跡全体の石器器種構成

石器系列	器 種	個 数	重量(kg)	実測数
	石鏃	5	0. 007	5
	石錐	1		1
	スクレイパーA類	19	0. 27	12
	石匙A類			
	RFA	10	0. 07	9
A類(押圧 剥離系列)	楔形石器			
本川西田木ブリノ	円盤状石器			
	異形石器			
	石槍			
	石匙状石器			
	A類の剥片等	26	0.09	0
	石核	5	0. 01	1
	打製石斧			
	スクレイパーB類	6	0. 98	4
	石匙B類			
B類(直接	RFB	1	0. 03	0
打擊系列)	円盤状石器			
	ミニチュア打斧			
	礫器			
	B類の剥片等	7	0. 25	0
	磨石	18	11. 6	13
C 1 % (T/	凹石	15	6. 1	12
C 1 類 (形 状選択系列)	石皿			
0000000	スタンプ形石器			
	特殊磨石			
C 2 類 (形	敲石	5	2. 28	3
状非選択系	砥石			
列)	台石	5	21. 34	4
	石棒			
D類(非機	石剣			
能系列)	多孔石			
	岩版			
E類(機能	磨製石斧	8	1. 39	8
上類 (機能 系列)	磨製石器			
	石錘			
	分類不明	6	0. 17	0
	自然礫	93	17. 7	0

# ③スクレイパーA類 (第23図・写真図版15)

調整段階に押圧剥離を多用することにより製作されるスクレイパーを本類にまとめた。80はほぼ全面に剥離加工がなされ整形されている。81~91は基本的に片面加工で縁辺部を主要な刃部として使用しているものである。83~87は長さに対して幅の狭い剥片の両側辺及び端部に刃部加工が施された石器である。88~91は長さと幅の差があまりない剥片の1~3縁辺に刃部加工が施された石器である。

# ④リタッチド・フレイクA類 (第24図・写真図版15)

使用痕を有する剥片・細部に微細な加工をもつ剥片を本類に含めた。10点程が出土しておりその中から9点を掲載した(92~100)。92~95は不定形な剥片の先端部や尖頭部に加工痕や使用痕を持ち、96~100は鋭利な縁辺部に加工痕や使用痕が観察される。

## ⑤石核(第24図・写真図版15)

遺跡からは5点出土しているが、その中で1点(101)のみを掲載した。ほぼ全面に縦横の剥離が見られる。

#### ⑥石斧 (第24・25図・写真図版16)

8点が出土してその全てを掲載している。側面から見て刃先がほぼ中央にくるもの103・107・108と、どちらかに寄り片刃状になるもの102・104~106とがある。106・108は刃こぼれしているが109は直接打撃により刃部を作りだしているので打製石斧としてもよいと思われる。107には側面に粗い剥離と擦痕がついており刃部欠損後に転用されている。

### 縄文時代早期の石器器種構成

石器系列	器 種	個 数	重量 (kg)	実測数
	石鏃	5	0. 007	5
	石錐	1		1
	スクレイパーA類	19	0. 27	12
	石匙A類			
A NEW CARRIES	RFA	9	0. 07	9
A類(押圧 剥離系列)	楔形石器			
4.14年/ビンゴ	円盤状石器			
	異形石器			
	石槍			
	石匙状石器			
	A類の剥片等	26	0. 09	0
	石核	5	0. 01	1
	打製石斧			
	スクレイパーB類	6	0. 98	4
	石匙B類			
B類(直接	RFB	1	0. 03	0
打撃系列)	円盤状石器			
	ミニチュア打斧			
	礫器			
	B類の剥片等	7	0. 25	0
	磨石	15	11. 6	13
C 1 % /T/	凹石	13	6. 1	12
C 1 類 (形	石皿			
TONO (ESO)	スタンプ形石器			
	特殊磨石			
C 2 類 (形	敲石	5	2. 28	3
状非選択系	砥石			
列)	台石	5	21. 34	4
	石棒			
D類(非機	石剣			
能系列)	多孔石			
	岩版			
口緒 /機能	磨製石斧	8	1. 39	8
E類(機能 系列)	磨製石器			
71.747	石錘			
	分類不明	6	0. 17	0
	自然礫	93	17. 7	0

## ⑦スクレイパーB類(第25・26図・写真図版16・17)

調整段階に直接打撃を多用しているもの、石材が石斧や磨石・凹石などと共通するものを本類に含めた。 出土した6点の中から4点を掲載している。110・111は単なる自然礫かもしれない。112は細長い砂岩の長辺に刃部を作りだしている。113は石錘状に両端に抉りが見られるもので、1点のみの出土である。

## ⑧磨石・凹石・敲石 (第26~29図・写真図版17~19)

自然礫を利用したこれらの石器は一つの石器で複数の使われ方をしているものもあり、複合するものはよ

## り使用頻度の多いと考えられる器種に含めた。

114~124は磨石である。出土した18点中13点を掲載している。器面の広い部分(表裏面及び全面)に使用 痕を有するもの114~117と、狭い面(側面)を使用しているもの118~122に大きく分けられる。123・124は 全面を使用しているように感じたが、単なる自然礫が持ち込まれたものなのかもしれない。125は砥石であ る。

127~138は凹石である。15点が出土、その内12点を掲載した。基本的に器面の広い部分、表裏面に使用痕が見られる。130・132は敲石と複合するもの、136は磨石と複合するものである。

139~141は敲石である。130・132は凹石と機能が複合しているものである。139は細長い礫の両先端部に使用痕が確認された。140・141は広い面に若干使用痕がみられた。

#### 9台石 (第30図・写真図版20・21)

4点出土し、その全てを掲載した(142~145)。扁平で大きな自然礫を遺跡内に搬入し台石として用いていたようである。この台石の付近から縄文早期の土器及び各種石器類が密に出土する傾向にあった。

#### ⑩その他 (第31図・写真図版22)

 $146\sim149$ は使用の痕跡がはっきり確認されず、同じ石材、似たような形状をした礫である。掲載した 4 点のほかに  $2\sim3$  点は出土していたかもしれない。どういった目的で遺跡に持ち込まれたものなのか詳細は不明である。

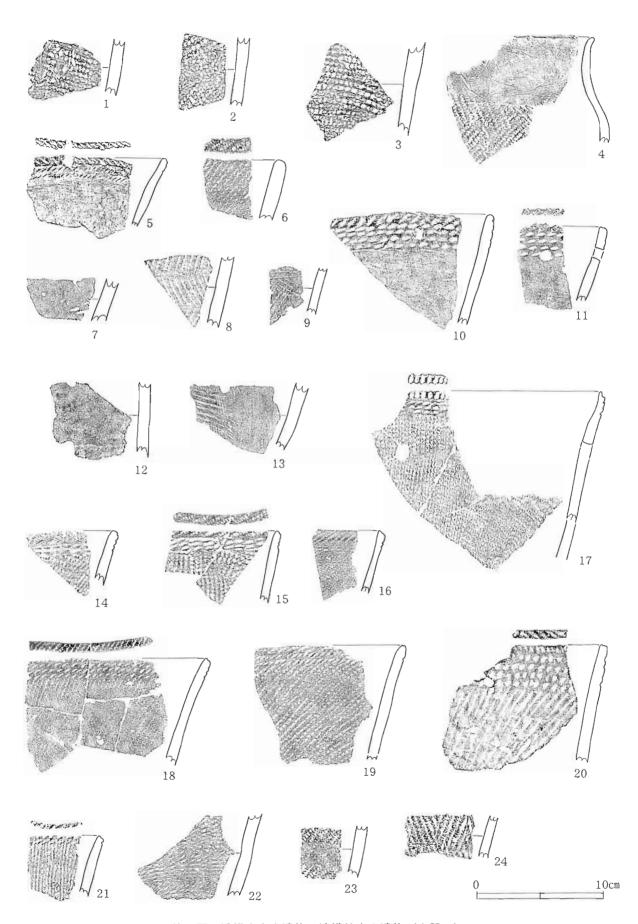
#### (3) その他の遺物

### 鉄器 (第32図・写真図版22)

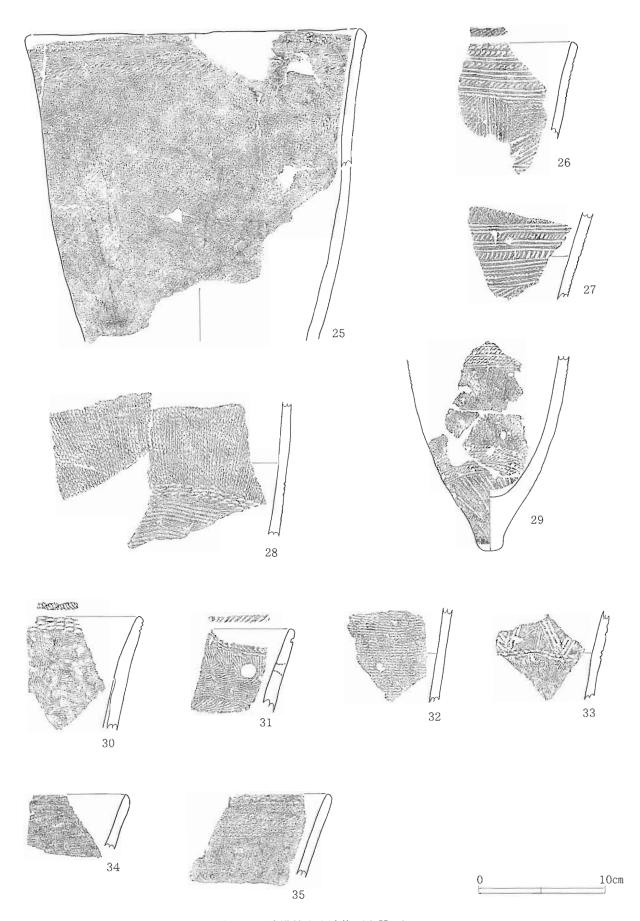
150は遺跡の立地する段丘面より 1 段低い面を試掘した際、表土から50cm程掘り下げた段階で出土した刃物である。長さは20.5cmを測るが刃先は欠損している。近世及びそれ以降の可能性が高い。151はK IV m 1 グリッドの I 層から出土した釘である。時期は判然としない。152は中央部調査区の I  $\sim$  III 層で出土した角釘である。時期は近世頃であろうか。

#### 銭貨 (第32図・写真図版22)

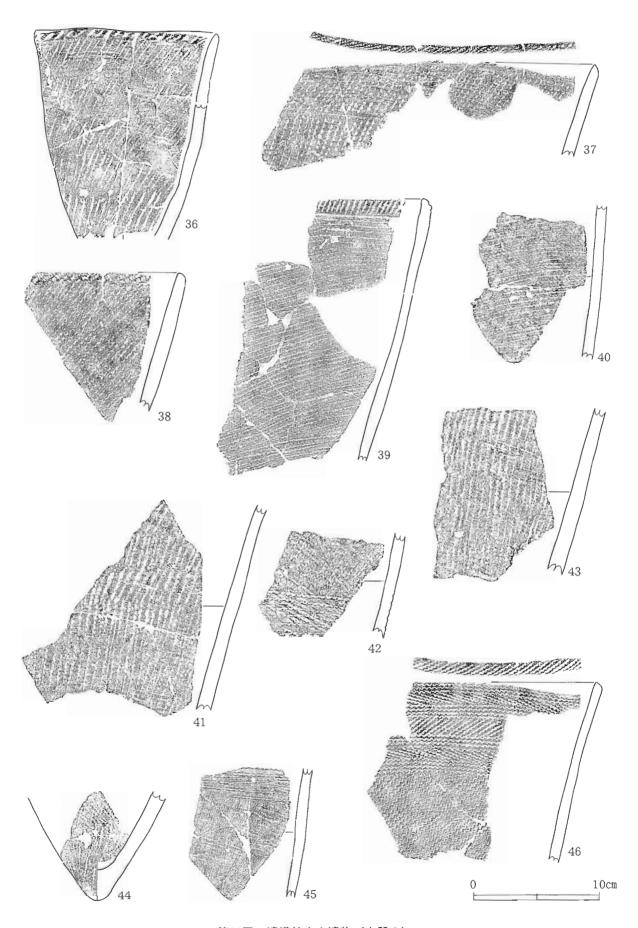
出土した6点全てを掲載している。寛永通寶(新寛永)4点と判読できない銭貨2枚が出土している。これらが中世まで遡るか判然としない。



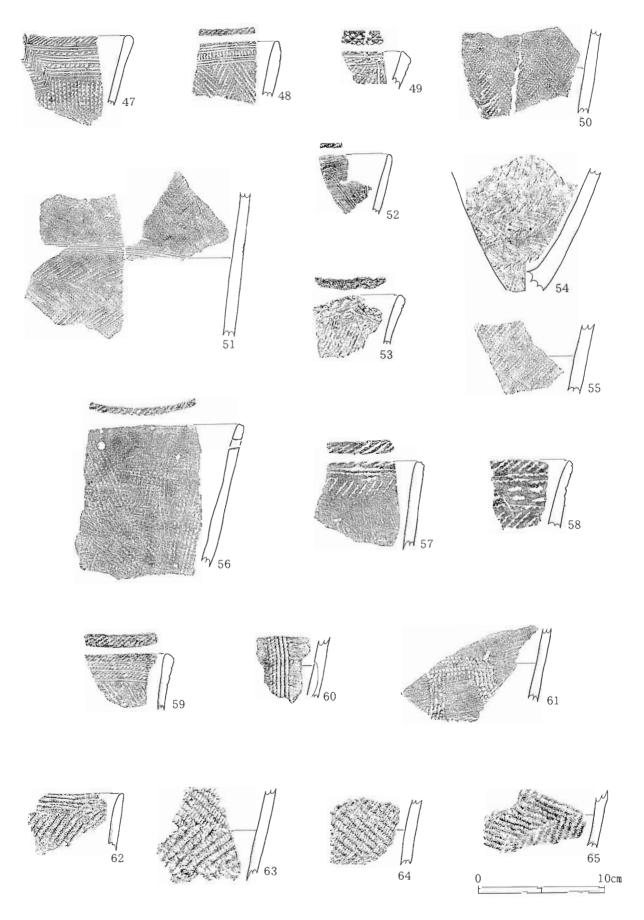
第18図 遺構内出土遺物・遺構外出土遺物(土器 1)



第19図 遺構外出土遺物(土器2)

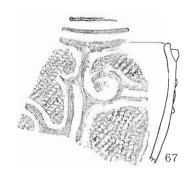


第20図 遺構外出土遺物(土器3)

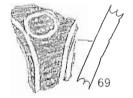


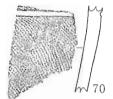
第21図 遺構外出土遺物(土器 4)





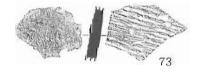












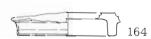






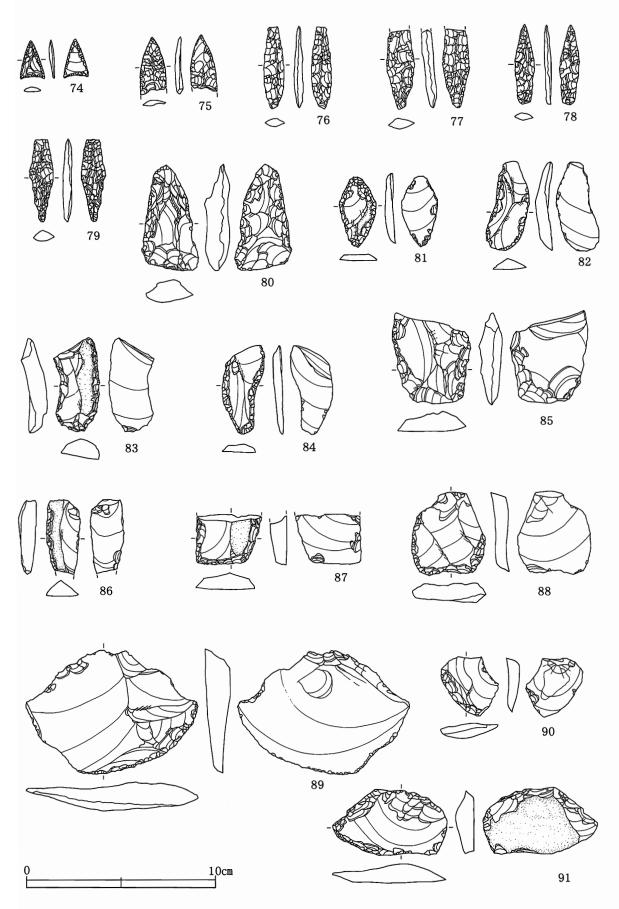




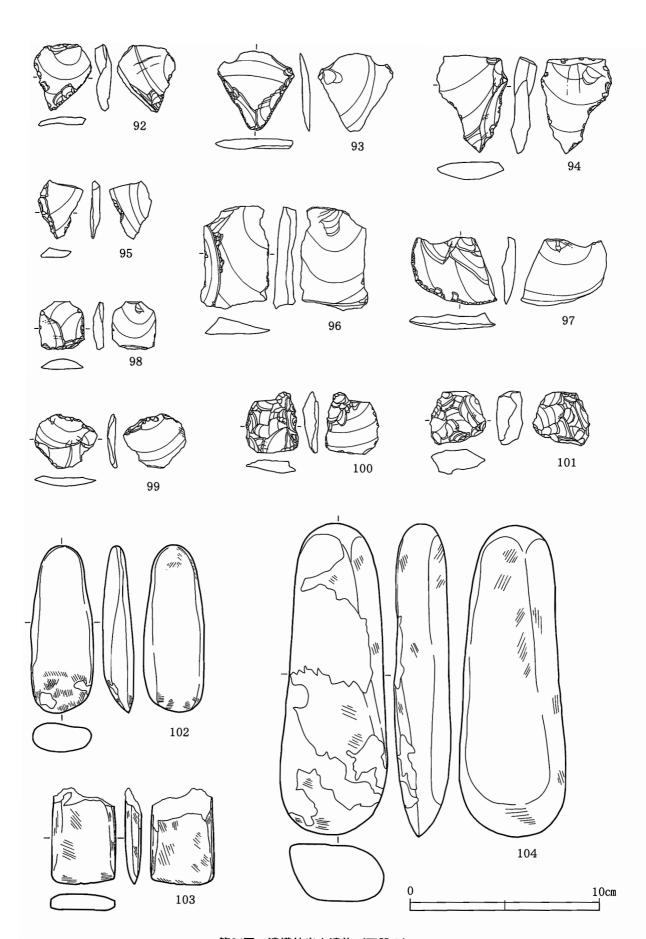




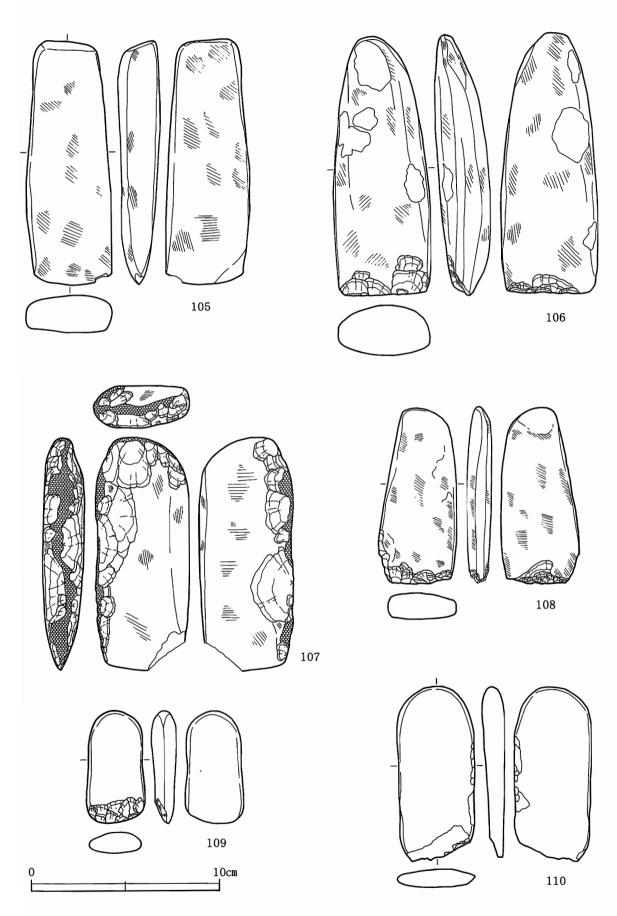
第22図 遺構外出土遺物(土器5)



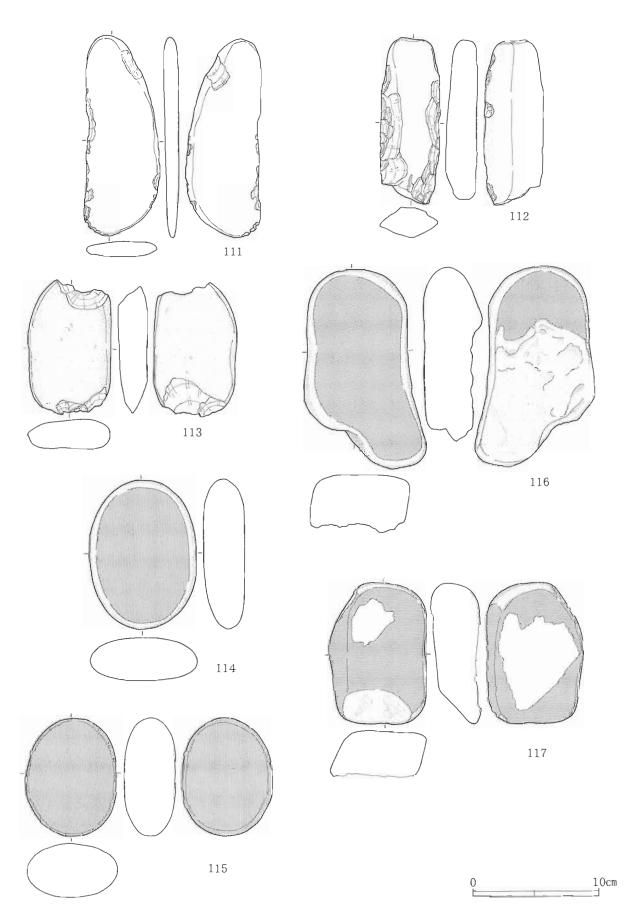
第23図 遺構外出土遺物(石器1)



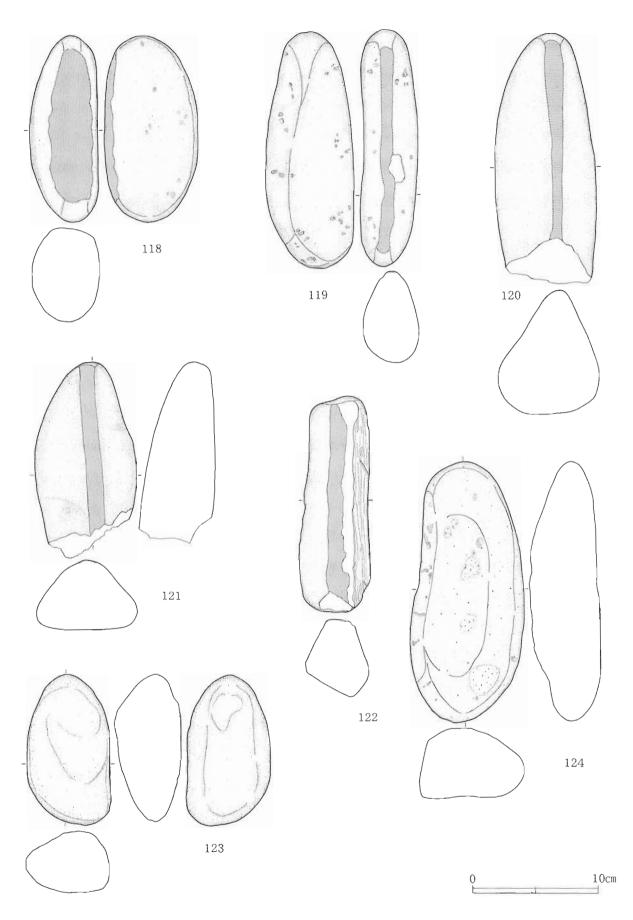
第24図 遺構外出土遺物(石器2)



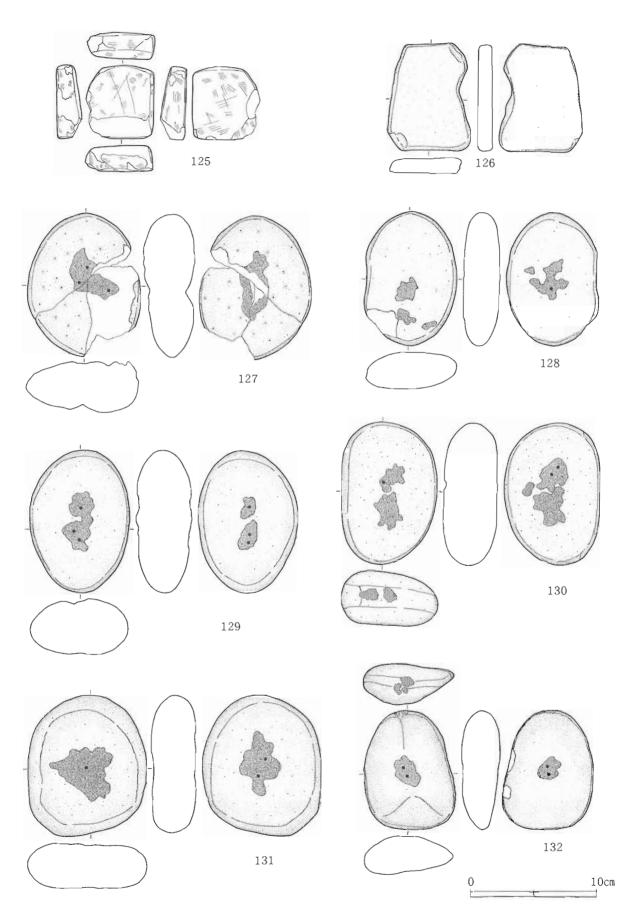
第25図 遺構外出土遺物(石器3)



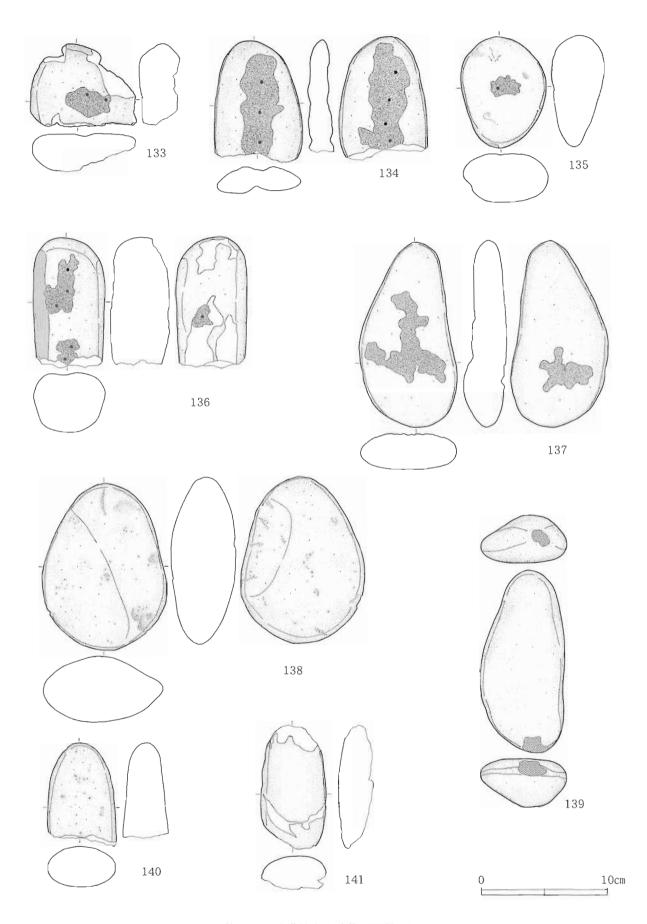
第26図 遺構外出土遺物(石器4)



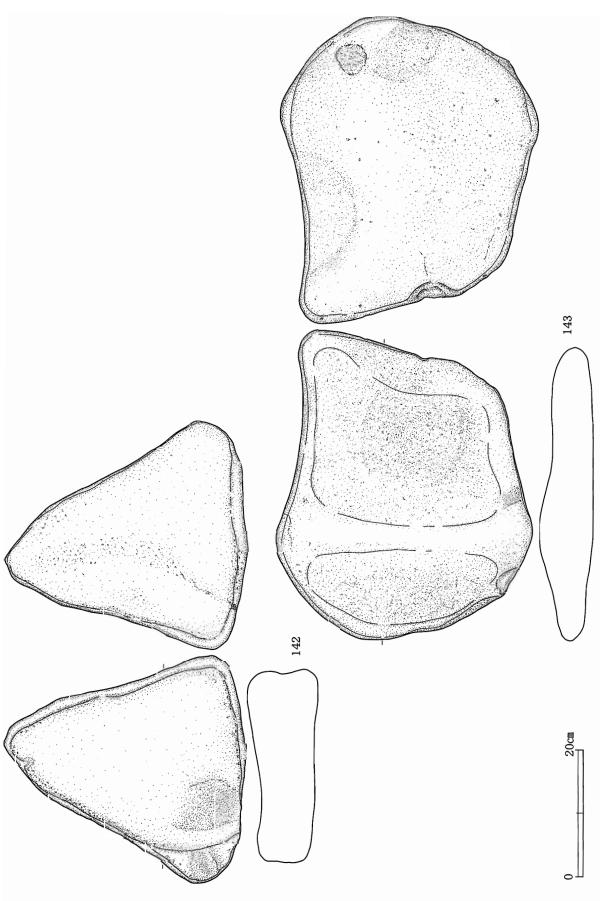
第27図 遺構外出土遺物(石器5)



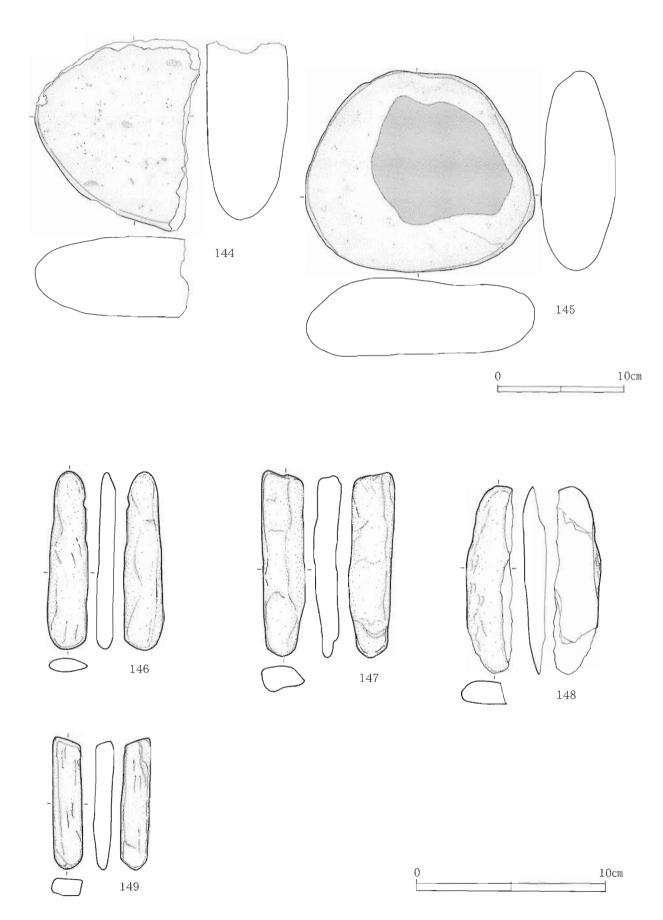
第28図 遺構外出土遺物(石器6)



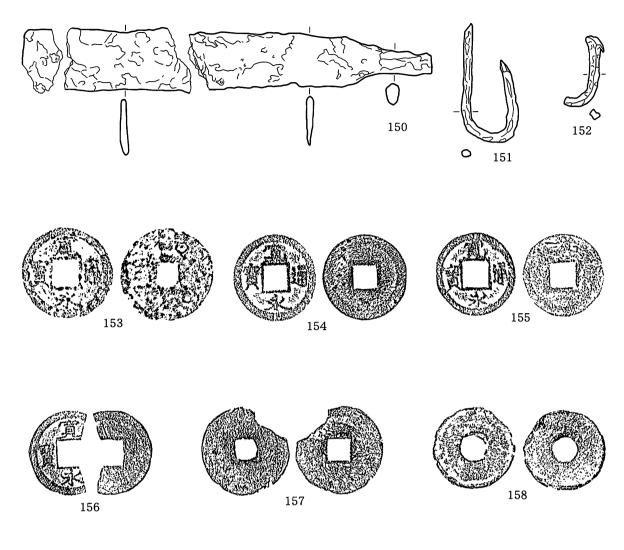
第29図 遺構外出土遺物(石器7)



第30図 遺構外出土遺物(石器8)



第31図 遺構外出土遺物(石器9)



鉄器は1/2 銭貨は原寸

# 土器観察表

2		玩宗女				a) street
3   1   1   1   1   1   1   1   1   1	仮番	掲載番号	出土地点	器種	文 様 の 特 徴	分類
10   1   1   1   1   1   1   1   1   1	4	1	RD02埋土			
7	3	2		深鉢		
1	6	3	RD03埋土	深鉢		
15   15   16   16   16   16   16   16	7	4	RD03埋土	深鉢	口縁:無文 体部:綾繰文RL	IIIか
19   6   R A 0   1   1   1   1   1   1   1   1   1	99	5	RA01埋土東半部・	涇盆小庄	口長・刻み日 口縁:雄位連続前空文 休部:目费条痕文	Ιa
1	33	٦	KIII n 20VII a層	不野大风		
11   1   12   10   12   13   14   15   15   15   15   15   15   15	19	6	RA01埋土西半	深鉢尖底	口唇:絡条体圧痕 口縁:貝殼腹緣文	Ιb
11 20㎡ 4回   17 3	11	7	RA01埋土西半・K	海針小底	<b>は</b> 郊・目	Tа
10   10   10   10   10   10   10   10	11	'		休野大瓜	<b>中</b> 郎・	
25   10   KW 0 - 4   Tig   Tig	37	8	RA01埋土西半			
11   K P D 4   N P	10	9	RA01埋土東半	深鉢尖底		
44   13   K   W   10   図   四番   一般	25	10	KNo4 WIa層	深鉢尖底		
44   13   K III 119   Yia A	23	11	KNp4 VII層			
14   K   III 120   甲a原   原幹失成   口唇:粉条体圧痕文 口燥:機位連筋神突文 体部:貝殻条食文   1 a   1 a   1 k   III 19 m   a   II a   III   IIII   III   III   IIII   III   III	40	12				
15   15   K     11   12   12   18   K     11   18   18   14   18   18   18	44	13	KIII 119 WI a層			
10   K   M   10   W   a   M   深幹失底   日報: 結条体圧痕文 口縁: 横位連続刺突文 体部: 貝殻酸除文 補係孔   I a   M   M   M   M   M   M   M   M   M						
17		15				
10	24	16		深鉢尖底	口唇:絡条体圧痕文 口縁:横位連続刺突文 体部:貝殻腹縁文	Ia
12   18   K   K   12 0   V   N   N   対数失底   口唇・体部:貝殻酸較文 口部:核位連密神突文   1 a   1 a   1	30	17		深鉢尖底	口唇:絡条体圧痕文 口縁:横位連続刺突文 体部:貝殻腹縁文 補修孔	Ιa
31	19	18	-,	<b>涇</b> 盆	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	I a
31   20						
15   21						
48   22   K N P 4   VII						
5         23         KIII n 20         収 a 層         不明         体部:機文上R         1 a           6         24         KIII n 20         収 a 層         不明         体部:機糸文か         1 a         1 a           15         26         K W D 4 収 回層         深鉢         口唇:貝殻腹縁文 口縁:親沈秋之良         1 a         1 b           43         27         K III 1 20         収 a 層         深鉢之成         上         28         K V 0 4 ~ D 4 収 a         深鉢之成         本部:貝殻腹縁文 九線         大 放 線文文         1 a           1         28         K V 0 4 ~ D 4 収 a         深鉢之成         本部:貝殻腹縁文 九線         機位連続刺突文 不可:巨殼条痕文         1 a           2         29         K V D 4 収 a         深鉢文成         本部:貝殻腹縁文 別目状連続刺突文・不可:巨殼条痕文         1 a           4         30         K W D 4 収 a         深鉢文成         本部:貝殻腹縁文 上標条痕文         1 a           4         31         X K I I I I I I I I I I I I I I I I I I						
6   24   KIII 20 VI a 層		_				
25 KNp4 型層   深鉢火底	-					
15   26   K    K    K    K    K    K    K						
10   20   K       10		<del> </del> -				
1 28	15	26	KIIIm19 VII層	深鉢尖底		Ιbか
1         28         KNO4~p4 VIIa         深鉢尖底         体部:貝殻腹線文         別目状連続刺突文その下に貝殻条痕文         Ia           2         29         KNP4 VIIB         深鉢尖底         体部:横位連続刺突文、比線         貝殻腹線文 底部:貝殻条痕文         Ia           7         30         KNO3 VIIa MI         深鉢尖底         口唇:絡条体圧痕文         口線:横位連続刺突文 体部:貝殻条痕文         Ia           50         32         KNP4 VIIB         深鉢尖底         内唇:絡条体圧痕文         口器:機位連続刺突文 体部:貝殻条痕文         Ia           36         33         KNP4 VIIB         深鉢尖底         口唇~体部:貝殻腹線文         Ib           34         34         KNP4 VIIB         深鉢尖底         口唇~体部:貝殻腹線文         Ib           36         35         KNP4 VIIB         深鉢尖底         口唇~体部:貝殻腹線文         Ib           36         KNP4 VIIB         深鉢尖底         口唇~体部:貝殻腹線文         Ib           10         37         KNP4 VIIB         深鉢尖底         口唇~口線:貝殻腹線文         Ib           4         39         KNP4 VIIa         深鉢尖底         口唇~口線:貝殻腹線文         Ib           32         40         KNP1 2·P4 VIIa         深鉢尖底         口線一段腹線文         Ib           27         41         KNP4 VIIB         深鉢尖底         体部:貝殻腹線文         Ib           29         4	43	27	KIII 1 20 VII a BB	深鈦少库		I a
1         28         層         深鮮失底         体部:貝殻酸棘文         刻目状態制突之その下に貝殻染痕文         1 a           2         29         K N D 4         U層         深鮮失底         任部:競砂速転制突文         比較、貝殻酸酸文         底部・貝殻酸酸の押し引き         1 a           46         31         K III 119         Ψα 届         深鮮失底         口唇:絡条体圧痕文         口線:横位連続刺突文         体部:貝殻索痕文         1 a           50         32         K N V A         Ψα 届         深鮮失底         任部:貝殻桑水食文         1 a           36         33         K N V A         Ψα 届         深鮮失底         日唇一口髮、貝殼酸酸文         1 b           16         35         K N D 4         Ψ面         深鮮失底         口唇一体部:貝殼酸酸文         1 b           10         37         K N D 4         Ψ面         深鮮失底         口唇一口縁・貝殼酸酸文         1 b           10         37         K N D 4         Ψ面         深鮮失底         口唇一口縁・貝殼酸酸文         1 b           4         39         K N D 4         Ψα 周         深鮮失底         口唇・絡条体圧痕         1 b           32         40         K N D 4         Ψα 周         深鮮失底         日         大		<del> </del>				
2 29 K N V D 4 V M M	1	28	_	深鉢尖底	体部:貝殻腹縁文 刻目状連続刺突文その下に貝殻条痕文	Ιa
7   30   K   V o 3   VII a   M   深鉢失底   口唇:絡条体圧痕文   口縁:横位連続刺突文   体部:貝殻疾痕文   I a   1 a   K   II   II   VII a   M   深鉢失底   口唇:良殻疾痕文   I a   T   X   X   V   VII   M   X   X   X   V   VII   M   X   X   X   X   X   X   X   X   X	2	29		深鉢尖底	体部:横位連続刺突文・沈線   貝殻腹縁文   底部:貝殻腹縁の押し引き	Ιa
46   31   K       11   V   1   a						
50   32   K N p 4   知層   深鉢尖底   体部:貝殻条痕文   1 a   36   33   K N o 4   N a 層   深鉢尖底   体部:貝殻条痕文   1 b   1 a   34   34   K N o 3   N a 層   深鉢尖底   口唇~口縁:貝殻腹縁文   1 b   35   K N p 4   N a	-	_				
36   33   K N O 4   Wa 層   深鉢尖底   体部:沈緑・横位連統刺突文・貝殻条痕文   1 a   34   34   K N O 3   Wa 層   深鉢尖底   口唇~口縁:貝殻腹縁文   1 b   35   K N P 4   Wa 層   深鉢尖底   口唇~体部:貝殻腹縁文   1 b   36   K N O 4 ~ D 4   Wa 層   深鉢尖底   口唇~中体部:貝殻腹縁文   1 b   10   37   K N P 4   Wa   深鉢尖底   口唇~口縁:貝殻腹縁文   1 b   10   37   K N P 4   Wa   深鉢尖底   口唇~口縁:貝殻腹縁文   1 b   10   38   K III 120   Wa a 層   深鉢尖底   口唇~口縁:貝殻腹縁文   1 b   1 b   1   1   1   1   1   1   1						
34   34   K IV o 3   VII a   M   R   R   R   R   R   R   R   R   R	_	_				
16   35   K N p 4   YIM		_				
10   37   K V P 4 V II M	$\overline{}$	_				
10   37   K V p 4 V II						
10   37   K N p 4   VII 層   深鉢尖底 口唇~口縁:貝殻腹縁文   I b   13   38   K III 1 20   VII a 層   深鉢尖底 口唇:角殻腹縁文   I b   15   X N o 4 ~ p 4   VII a 層   深鉢尖底 口縁・貝殻腹縁文   I b   32   40   K N n 2 · p 4   VII a 層   深鉢尖底 体部:貝殻腹縁文   I b   38   42   K III 1 20   VII a 層   深鉢尖底 体部:貝殻腹縁文   I b   38   42   K III 1 20   VII a 層   深鉢尖底 体部:貝殻腹縁文   I b   38   42   K III 1 20   VII a 層   深鉢尖底 体部:貝殻腹縁文   I b   1 b   1 b   1 b   1 c   VII a 層   深鉢尖底 広部:貝殻腹縁文   I b		36		深鉢	口晉~口稼:貝殼腹稼又	Ib
13   38   K     1 20   W   a	10	37		深鉢尖底	口唇~口縁:貝殼腹緣文	Ιb
4       39       K N o 4 ~ p 4       VII a 層       深鉢尖底       口縁~体部:貝殻腹縁文       I b         32       40       K N n 2 · p 4       VII a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         27       41       K N v 0 4       VII a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         38       42       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         29       43       K N v p 4       VII 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         3       44       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       D 縁~体部:貝殻腹縁文       I b         12       45       K N v p 4       VII a 層       深鉢尖底       D 縁~体部:貝殻腹縁文       I b         14       46       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       D 長 · が違う山形突起       口唇:貝殻腹縁文       D 縁 · 沈線・貝殻腹縁文       I b         47       47       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       D 唇 · 見殻腹緣文       D 縁 · 沈線・貝殻腹縁文       I b         10       48       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       D 唇 · 見殻腹緣文       D 縁 · 沈線・貝殻腹縁文       A 体部:貝殻腹緣文       I b         20       49       R A O 1 埋土東半       深鉢尖底       体部:貝殻腹緣文       D 縁 · 沈線・ 具殻腹緣文       I b         41 <td>13</td> <td>38</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	13	38				
1 b   23   40   K N n 2 · p 4   VII a   深鉢尖底   体部: 貝殻腹縁文						
32 40 層     深鉢尖底 体部: 貝殻腹縁文     Ib       27 41 K N o 4 VII a 層     深鉢尖底 体部: 貝殻腹縁文     Ib       38 42 K III 1 20 VII a 層     深鉢尖底 体部: 貝殻腹縁文     Ib       29 43 K N p 4 VII 層     深鉢尖底 体部: 貝殻腹縁文     Ib       3 44 K III 1 20 VII a 層     深鉢尖底 広部: 貝殻腹縁文     Ib       12 45 K N p 4 VII 層     深鉢尖底 口縁~体部: 貝殻腹縁文     Ib       47 47 K III 1 20 VII a 層     深鉢尖底 口唇: 貝殻腹縁文 口唇: 貝殻腹縁文 口縁: 沈線・貝殻腹縁文 Ib       17 48 K III I 20 VII a 層     深鉢尖底 口唇: 貝殻腹縁文 口縁: 沈線・貝殻腹縁文 体部: 貝殻腹縁文 Ib       20 49 R A 0 1 埋土東半     深鉢尖底 中部: 貝殻腹縁文     Ib       41 50 K N o 4 VII a 層     深鉢尖底 体部: 貝殻腹縁文     Ib       41 51 K N o 3 VII a 層     深鉢尖底 体部: 貝殻腹縁文・沈線     Ib       13 52 K III 1 20 VII a 層     深鉢尖底 上 D唇: 絡条体圧痕 口縁: 社線・貝殻腹縁文     Ib       54 K N n 1 VII a 層     深鉢尖底 底部: 貝殻腹縁文     Ib       8 55 K III 1 20 VII a 層     深鉢尖底 内景と表皮の上に腹縁文     Ib       21 56 K N P p 4 VII 層     深鉢尖底 内景を接近線での上に腹縁文     Ib       21 56 K N P p 4 VII 層     深鉢尖底 内景を接近線文の上に腹縁文     ID       21 56 K N P p 4 VII 層     深鉢尖底 内景を表皮の上皮を表皮を内上皮を表皮を上皮を表皮を上皮を表皮を上皮を表皮を上皮を表皮を上皮を表皮を上皮を表皮を上皮を上皮を上皮を上皮を表	4	39	I =	深稣尖底	口稼~体部:貝殼腹糠又	Ib
27       41       K V O 4       VII a層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         38       42       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         29       43       K N V D 4       VII a層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         3       44       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       口縁~体部:貝殻腹縁文       I b         12       45       K N V D 4       VII a層       深鉢尖底       口縁~体部:貝殻腹縁文       I b         14       46       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       口縁~体部:貝殻腹縁文       I b         47       47       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       口唇:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         17       48       K III I 20       VII a層       深鉢尖底       口唇:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         20       49       R A O 1 埋土東半       深鉢尖底       口唇:貝殻腹縁文       口唇:貝殻腹縁文       I b         41       50       K IV O 4       VII a層       深鉢尖底       本部:貝殻腹縁文・沈線       I b         14       51       K IV O 3       VII a層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕       口縁:沈線・貝殻腹縁文・沈線         15       52       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       近の長さが違う山形突起<	90	40	KNn2·p4 WIa	ガルトハニ	<b>计</b> 如 · 日热贴色 <del>*</del>	7.1
38   42   K   10   10   10   10   10   10   10	32	40		<b>休幹</b> 矢氐	14中・只放服稼人	I D
29       43       K № p 4       W I 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         3       44       K III 1 20       W I a 層       深鉢尖底       底部:貝殻腹縁文       I b         12       45       K № p 4       W I 層       深鉢尖底       口縁~体部:貝殻腹縁文       I b         14       46       K III 1 20       W I a 層       深鉢尖底       口縁~体部:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         47       47       K III 1 20       W I a 層       深鉢尖底       辺の長さが違う山形突起       口唇:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         17       48       K III m 20       W I a 層       深鉢尖底       口唇:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         20       49       R A 0 1 埋土東半       深鉢尖底       口唇:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         41       50       K № o 4       W a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文・沈線       I b         14       51       K № o 3       W a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文・沈線       I b         13       52       K III 1 20       W a 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕       口縁:九線・貝殻腹縁文・沈線       I b         35       53       K № p 4       W I 層       深鉢尖底       近の長さが違う山形突起       口唇:絡条体圧痕       口縁:沈線・貝殻腹縁文・沈線・貝殻腹縁文・沈線・貝殻腹縁文・北線・貝殻腹縁文・北線・貝殻腹縁文・北線・貝殻腹縁文・大	27	41	KNo4 WIa層	深鉢尖底	体部:貝殼腹緣文	Ιb
3   44   K   11   12   V   12   M   12   M   16   M   16   M   17   M   16   M   17   M   17   M   18   M	38	42		深鉢尖底	体部:貝殼腹緣文	Ιb
12   45   K   V p 4   VII	29	43				Ιb
14   46   K   1   1 20   VII a 層   深鉢尖底   口縁~体部:貝殻腹縁文   I b   47   47   K   II 1 20   VII a 層   深鉢尖底   辺の長さが違う山形突起   口唇:貝殻腹縁文   口縁:沈線・貝殻腹縁文   I b   17   48   K   III m 20   VII a 層   深鉢尖底   口唇:貝殻腹縁文   口縁:沈線・貝殻腹縁文   A		44		深鉢尖底	底部:貝殼腹緣文	Ιb
47       47       KⅢ 120       Ⅶ a層       深鉢尖底       辺の長さが違う山形突起       □唇:貝殻腹縁文       □縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         17       48       KⅢ m20       Ⅷ a層       深鉢尖底       □唇:貝殻腹縁文       □縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         20       49       R A 0 1 埋土東半       深鉢尖底       □唇:貝殻腹縁文       □縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         41       50       K N o 4       Ⅷ a層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文・沈線       I b         14       51       K N o 3       Ⅷ a層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文・沈線       I b         13       52       K Ⅲ 1 20       Ⅷ a層       深鉢尖底       □唇:絡条体圧痕       □縁: 対線・貝殻腹縁文・沈線       I b         35       53       K N p 4       Ⅷ 層       深鉢尖底       辺の長さが違う山形突起       □唇:絡条体圧痕       □縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         54       K N n 1       Ⅷ a層       深鉢尖底       底部:貝殻腹縁文       I b         8       55       K Ⅲ 1 20       Ⅷ a層       深鉢尖底       体部:貝殻魚線文       I b         21       56       K N p 4       Ⅷ 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕か       □縁・体部:貝殻の背を押し引き 補修孔       I c						Ιb
17       48       KIIIm20       VII a層       深鉢尖底       口唇:貝殼腹縁文       口縁:沈線・貝殼腹縁文       I b         20       49       RA01埋土東半       深鉢尖底       口唇:貝殼腹縁文       口縁:沈線・貝殼腹縁文       I b         41       50       K IV o 4       VII a層       深鉢尖底       体部:貝殼腹縁文       I b         14       51       K IV o 3       VII a層       深鉢尖底       体部:貝殼腹縁文・沈線       I b         13       52       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕       口縁:貝殼腹縁文・沈線       I b         35       53       K IV p 4       VII 層       深鉢尖底       近の長さが違う山形突起       口唇:絡条体圧痕       口縁:沈線・貝殼腹縁文       I b         54       K IV n 1       VII a層       深鉢尖底       底部:貝殼腹縁文       I b         8       55       K III 1 20       VII a層       深鉢尖底       体部:貝殼条痕文の上に腹縁文       I b         21       56       K IV p 4       VII 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕か       口縁~体部:貝殼の背を押し引き 補修孔       I c						Ιb
20       49       R A O 1 埋土東半       深鉢尖底       口唇:貝殻腹縁文       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         41       50       K IV o 4       VII a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文       I b         14       51       K IV o 3       VII a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文・沈線       I b         13       52       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕       口縁:貝殻腹縁文・沈線       I b         35       53       K IV p 4       VII 層       深鉢尖底       辺の長さが違う山形突起       口唇:絡条体圧痕       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         54       K IV n 1       VII a 層       深鉢尖底       底部:貝殻腹縁文       I b         8       55       K III 1 20       VII a 層       深鉢尖底       体部:貝殻条痕文の上に腹縁文       I b         21       56       K IV p 4       VII 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕       口縁~体部:貝殻の背を押し引き 補修孔       I c	47	47		深鉢尖底		Ιb
41   50   K № 0 4   WI a 層   深鉢尖底   体部:貝殻腹縁文   I b     14   51   K № 0 3   WI a 層   深鉢尖底   体部:貝殻腹縁文・沈線   I b か     13   52   K Ⅲ 120   WI a 層   深鉢尖底   口唇:絡条体圧痕   口縁:貝殻腹縁文・沈線   I b か     35   53   K № p 4   WI 層   深鉢尖底   辺の長さが違う山形突起   口唇:絡条体圧痕   口縁:沈線・貝殻腹縁文   I b						Ιb
14       51       K № 0 3       WI a 層       深鉢尖底       体部:貝殻腹縁文・沈線       I b か         13       52       K III 1 20       WI a 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕       口縁:貝殻腹縁文・沈線       I b         35       53       K № p 4       WI 層       深鉢尖底       辺の長さが違う山形突起       口唇:絡条体圧痕       口縁:沈線・貝殻腹縁文       I b         54       K № n 1       WI a 層       深鉢尖底       底部:貝殻腹縁文       I b         8       55       K III 1 20       WI a 層       深鉢尖底       体部:貝殻条痕文の上に腹縁文       I b         21       56       K № p 4       WI 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕か       口縁~体部:貝殻の背を押し引き       補修孔       I c						
13   52   K   120   W   a 層   深鉢尖底   口唇:絡条体圧痕   口縁:貝殻腹縁文・沈線   I b   35   53   K   V p 4   W   I 層   深鉢尖底   辺の長さが違う山形突起   口唇:絡条体圧痕   口縁:沈線・貝殻腹縁文   I b   1 b   1 b   1 b   1 c   1 b   1 c   1 b   1 c	-					Ιb
35   53   K N p 4 N m m m m m m m m m m m m m m m m m m						Ιbか
54       K IV n 1       WI a 層       深鉢尖底       底部:貝殻腹縁文       I b         8       55       K III 1 20       WI a 層       深鉢尖底       体部:貝殻条痕文の上に腹縁文       I b         21       56       K IV p 4       WI 層       深鉢尖底       口唇:絡条体圧痕か       口縁~体部:貝殻の背を押し引き       補修孔       I c	-					
8       55       KⅢ 120       WI a層       深鉢尖底       体部: 貝殻条痕文の上に腹縁文       I b         21       56       KⅣ p 4       WII層       深鉢尖底       口唇: 絡条体圧痕か       口縁~体部: 貝殻の背を押し引き       補修孔       I c	35					
21 56 KNp4 VII層 深鉢尖底 口唇:絡条体圧痕か 口縁~体部:貝殻の背を押し引き 補修孔 I c						
42   57   K N p 4 NI層   深鉢尖底   口唇:貝殻腹縁文 口縁:貝殻の腹縁をキザミ目状   I c						
	42_	57	KNp4 VII層	深鉢尖底	口唇:貝殻腹縁文 口縁:貝殻の腹縁をキザミ目状	I c

仮番	掲載番号	出土地点	器種	文様の特徴	分類
2	58	KIIIm19 VII層	深鉢尖底	口唇:貝殻腹縁文 口縁:貝殻の腹縁をキザミ目状 体部:貝殻腹縁文	Ιc
28	59	KNp4 Ⅷ層	深鉢尖底	口唇:貝殻腹縁文 口縁:横位連統刺突文・沈線 体部:貝殻の背を押し引 き	Ιc
26	60	KNp4 VII層	深鉢尖底	体部:貝殻の背を押し引き	Ιc
49	61	KNp4 VII層	深鉢尖底	体部:貝殻の背を押し引き	Ιc
17	62	LIVI10 V層	深鉢	口縁:縄文LR 繊維	II
16	63	L IV 1 12 V 層	深鉢	口縁:縄文LR 繊維	II
1	64	KIII 1 20 VII a層	深鉢	体部:羽状縄文RL 繊維	II
2	65	L N 1 12 V 層	深鉢	体部:羽状縄文RL 繊維	II
9	66	R G04埋土	深鉢	口縁:山形突起・隆帯 体部:沈線 縄文LR	III
18	67	L N j 10 N 層	深鉢	口縁:隆帯と沈線で渦巻き文・縄文RL	III
11	68	KNo3 V層	深鉢	体部:隆帯と沈線で渦巻き文 縄文RL	III
5	69	RD03埋土	深鉢	体部:沈線文・縄文無節か	III
8	70	R G04埋土	深鉢	体部:沈線・縄文RL	III
	71	中央調査区試掘 I ~III 層	鉢	口唇: 沈線と起点に刺突 口縁: 無文	īV
	72	RA01埋土西半	鉢	体部:細沈線による三角・円形の文様	IV

# 石器観察表

312A   85   K   V o 3   VI a 層   S c A   4.6   2.1   0.5   4.53   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   緩   1.0   1.0   1.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   緩   1.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   月岩 (奥羽山脈)   上面加工   5.0   月岩 (奥羽山脈)   日本   5.0   月北   5.0		
221   75   K   W m 1   W a 層   石鏃 (2.9)	考	
101   76   K V P 4   VII a   M   石酸		
340   77   K V P 4   VII a		
520   78   前面		
520   78		
521   80   80   80   80   80   80   80   8		
S21   80	信ない	
369   82   K   V o 3   VII a		
312 B   83   K   V   O 3   VII a		
312A   85   K   V o 3   VI a 層   S c A   4.6   2.1   0.5   4.53   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   緩   1.0   1.0   1.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   緩   1.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   1.0   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月面加工   5.0   月岩 (奥羽山脈)   片面加工   5.0   月岩 (奥羽山脈)   上面加工   5.0   月岩 (奥羽山脈)   日本   5.0   月北   5.0		
312A   85   K N o 3   VII a 層   S c A   (4.4)   5.7   1.0   21.97   頁岩 (奥羽山脈)   一部両面加工	・凹刃	
312A   85   K N O 3   VII a M	い凹凸刃	
131   87   K V m 1   VII a M		
131   81   81   81   81   81   81   81	端部は欠損	
310   89   K N D 4   VII a 層   S C A   6.6   6.6   6.2   1.2   71.17   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工 凸 148 B   90   K N D 4   VII a 層   S C A   3.1   3.1   0.5   5.36   頁岩 (奥羽山脈)   一部両面加工 口 30   91   K N M 1   VII a 層   S C A   3.5   6.1   1.0   23.35   頁岩 (奥羽山脈)   一部両面加工 ている。	縁と端部を刃部	
148B   90   K V P 4   VII a層   S c A   3.1   3.1   0.5   5.36   頁岩 (奥羽山脈) 一部両面加工	i角な刃部	
130   91   K N m 1   VII a 層   S c A   3.5   6.1   1.0   23.35   頁岩 (奥羽山脈)   一部両面加工でいる。		
130   91   K N m 1   VII a 層   S c A   3.5   6.1   1.0   23.35   頁岩 (奥羽山脈)   でいる。   1427A   92   K N p 4   VII a 層   R F A   3.5   3.1   0.4   5.10   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   1474   94   K III m 20   VII a 層   R F A   4.1   4.0   0.6   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   1474   94   K III m 20   VII a 層   R F A   5.5   3.7   1.0   11.55   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   522   95   R D O 3 M L 广埋   R F A   3.0   2.2   0.5   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   146   97   K N p 4   VII a 層   R F A   3.5   4.1   0.8   10.64   頁岩 (奥羽山脈)   仲國加工   仲國加   中國加		
523   93   KIII 120   VII a層   RFA   4.1   4.0   0.6   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   474   94   KIII 120   VII a層   RFA   5.5   3.7   1.0   11.55   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   522   95   RD 0 3 M U 八埋   RFA   3.0   2.2   0.5   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   522   95   L   RFA   3.0   2.2   0.5   頁岩 (奥羽山脈)   側縁に微細な   522   95   K N D 4   VII a層   RFA   3.5   4.1   0.8   10.64   頁岩 (奥羽山脈)   片面加工   月面加工   日面加工   日面加		
RFA   S.5   S.7   S.5   J.5   J.		
522     95     上     RFA     3.0     2.2     0.5     頁岩 (奧羽山脈)       57     96     KNP4     WI a層     RFA     5.4     3.7     0.9     14.59     頁岩 (奧羽山脈)     側縁と頂辺部       146     97     KNP4     WI a層     RFA     3.5     4.1     0.8     10.64     頁岩 (奥羽山脈)     片面加工       312C     98     KNP4     WI a層     RFA     2.5     2.4     0.6     3.63     頁岩 (奥羽山脈)     片面に微細な       148A     99     KNP4     WI a層     RFA     2.9     3.3     0.4     3.43     頁岩 (奥羽山脈)     情面に微細な       352     100     KNO4     WI a層     RFA     3.2     2.8     0.7     6.33     頁岩 (奥羽山脈)     主として側縛       524     101     KNP4     WI a層     残核     3.0     2.8     1.1     11.80     頁岩 (奥羽山脈)     小型       384     102     KIII n 20     WI a層     磨製石斧     8.8     3.3     1.5     80.41     頁岩 (奥羽山脈)     小型 片刃的       475     103     KIII n 20     VII a層     磨製石斧     (5.0)     3.4     0.9     23.55     頁岩 (北上山地)     欠損品       532     104     KIV p 4~04     增加     層製石斧     16.4     5.7     3.0     428		
572     95     土     RFA     3.0     2.2     0.3     貝名 (奥羽山脈)     側縁と頂辺部       57     96     K N P 4     VII a 層     R F A     5.4     3.7     0.9     14.59     頁岩 (奥羽山脈)     伸縁と頂辺部       146     97     K N P 4     VII a 層     R F A     3.5     4.1     0.8     10.64     頁岩 (奥羽山脈)     片面加工 一       312 C     98     K N P 4     VII a 層     R F A     2.5     2.4     0.6     3.63     頁岩 (奥羽山脈)     片面に微細な       148 A     99     K N P 4     VII a 層     R F A     2.9     3.3     0.4     3.43     頁岩 (奥羽山脈)     (海細な剥離が)       352     100     K N P 4     VII a 層     残核     3.0     2.8     1.1     11.80     頁岩 (奥羽山脈)     小型       524     101     K N P 4     VII a 層     磨製石斧     8.8     3.3     1.5     80.41     頁岩 (奥羽山脈)     小型     片刃的       475     103     K III m 20     VII a 層     磨製石斧     (5.0)     3.4     0.9     23.55     頁岩 (北上山地)     欠損品       532     104     K IV p 4 ~ 0 4     增加     層製石斧     16.4     5.7     3.0     428.97     砂岩 (北上山地)     ア場合     (北上山地)     ア銀雨加工       530     106	.剥雕	
The part		
312		
148A   99   K V D 4   V II a層   R F A   2.9   3.3   0.4   3.43   頁岩 (奥羽山脈)   微細な剥離が   352   100   K V D 4   V II a層   R F A   3.2   2.8   0.7   6.33   頁岩 (奥羽山脈)   主として側縁   524   101   K V D 4   V II a層   残核   3.0   2.8   1.1   11.80   頁岩 (奥羽山脈)   小型   1384   102   K III n 20   V II a層   磨製石斧   8.8   3.3   1.5   80.41   頁岩 (奥羽山脈)   小型   片刃的   475   103   K III n 20   V II a層   磨製石斧   5.0   3.4   0.9   23.55   頁岩 (北上山地)   欠損品   F		
352   100   K N O 4   VII a 層   R F A   3.2   2.8   0.7   6.33   頁岩 (奥羽山脈)   主として側縁   524   101   K N P 4   VII a 層   残核   3.0   2.8   1.1   11.80   頁岩 (奥羽山脈)   小型   小型   384   102   K III n 20   VII a 層   磨製石斧   8.8   3.3   1.5   80.41   頁岩 (奥羽山脈)   小型   片刃的   475   103   K III m 20   VII a 層   磨製石斧   (5.0)   3.4   0.9   23.55   頁岩 (北上山地)   欠損品   532   104   K N P 4 ~ O 4     座製石斧   16.4   5.7   3.0   428.97   砂岩 (北上山地)   231   105   K III n 20   VII a 層   磨製石斧   12.9   4.6   2.0   224.46   頁岩 (北上山地)   フ部再加工力   230   106   K N O 3   VII a 層   磨製石斧   13.6   5.2   2.7   279.84   砂岩 (北上山地)   刃部再加工力		
The image		
Second	おに微細な剥離	
475     103     K III m20     WI a 層     磨製石斧     (5.0)     3.4     0.9     23.55     頁岩 (北上山地)     欠損品       532     104     K IV p 4 ~ o 4 WI a 層     磨製石斧     16.4     5.7     3.0     428.97     砂岩 (北上山地)       231     105     K III n 20     VII a 層     磨製石斧     12.9     4.6     2.0     224.46     頁岩 (北上山地)       530     106     K IV o 3     VII a 層     磨製石斧     13.6     5.2     2.7     279.84     砂岩 (北上山地)     刃部再加工力		
Table   Tab	]	
532   104   VII a 層   磨製石斧   10.4   5.7   5.0   426.97   10.4		
530 106 KN 0.3 W 1 2 層 磨製石斧 13.6 5.2 2.7 279.84 砂岩 (北上山地) 刃部再加工か		
398   107   K	面と直接打撃による	
531 108 K N p 4 VII a 層 磨製石斧 9.3 4.2 1.4 90.36 頁岩 (奥羽山脈) 擦り切り 刃		
	丁撃による片刃	
525   110   K III 1 20   VII a層   S c B   (9.2)   4.1   1.2   64.76   頁岩 (北上山地)   一側辺に調整	<b>を 目立った磨痕な</b>	
528 111 KIVm 1 VII a層 S c B 15.6 6.0 1.2 183.88 頁岩(北上山地) 側縁部に不規		
527   112   K III 1 20   VII a層   S c B   (13.1)   4.8   2.5   203.14   砂岩 (北上山地)   片面加工   よる剥離	両側縁に直接打撃に ───	

	掲載		nn &	計	·側値(cr	1)	<b>香具(~)</b>	T 新 (本地)	
仮番	番号	出土地点・層位	器 種	長さ	幅	厚さ	重量(g)	石 質(産地)	J
318	113	KⅣp4 WIa層	ScB	10.5	6. 6	2. 4	272. 11	頁岩_(北上山地)	長縁部両端を直接打撃で調整
394	114	KIIIm20 VIIa層	磨石	11.8	8. 6	3. 6		安山岩(奥羽山脈)	片面のみか
313	115	KNp4 WIa層	磨石	9. 3	7. 2	4. 2		ひん岩(北上山地)	全面使用
431	116	KNp4 WIa層	磨石	15. 8	9. 7	3.8		安山岩(奥羽山脈)	両面
429	117	KNp4 WIa層	磨石	11. 2	7. 7	(4. 1)		安山岩(奥羽山脈)	3面
537	118	LIVk11 III層	磨石	14.8	7. 5	5. 4		砂岩(北上山地)	
395	119	KIIIm20 VIIa層	磨石	18. 7	7. 1	4. 3		砂岩(北上山地)	側縁部に擦面
535	120	LIVj10 IV層	磨石	(19. 3)	10. 4	7. 8		砂岩(北上山地)	_
389	121	KIIIn20 VIIa層	磨石	(15. 6)	8. 1	6. 2	922. 76	安山岩(奥羽山脈)	側縁部に擦面
373	122	KNo4 VIIa層	磨石	17. 0	6. 9	5. 7	831. 21	頁岩(北上山地)	側縁部に擦面
434	123	KNp4 VIIa層	磨石	12. 0	6.8	5. 0	552. 65	砂岩(北上山地)	自然礫か
534	124	L IV j 10 IV層	磨石	20. 5	9. 2	5. 3	2278. 28	砂岩(北上山地)	使用痕あまり顕著ではない
173	125	KNo4 VIIa層	磨石	5. 8	5. 4	2. 1	51. 24	凝灰岩(奥羽山脈)	概ね全ての面を使用
526	126	KIII120 VII a層	磨石	8. 6	6. 7	1. 3	124. 37	頁岩(奥羽山脈)	
397	127	KIIIm20 VIIa層	凹石	11. 2	9. 1	4. 1	329. 34	砂岩(北上山地)	両面
407	128	KIIIm20 VIIa層	凹石	10.6	7. 4	3. 0	319. 38	安山岩(奥羽山脈)	両面
388 · 390	129	KIII n 20 VII a層	凹石	11. 2	8. 0	4. 5		安山岩(奥羽山脈)	両面
400	130	KIIIm20 VIIa層	凹石	11. 3	7. 7	4. 4	568. 94	安山岩 (奥羽山脈)	3面
376	131	KNp4 VIIa層	凹石	11.1	9. 5	3. 6	566. 10	安山岩(奥羽山脈)	両面
536	132	LIVj11 II~III 層	凹石	9. 5	7. 3	3. 1	291. 15	, ,,==	
322	133	KIVp4 VIIa層	凹石	(6. 6)	(8. 5)	(3. 1)	161. 77	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
428	134	KNp3 Wa層		(9.8)	7. 1	2. 1		安山岩 (奥羽山脈)	両面
533	135	L IV j 10 V 層	凹石	8. 7	6.8	3. 8		安山岩(奥羽山脈)	磨石と複合
337	136	KNp4 W∏a層		(10. 3)	5. 7	4. 7		安山岩(奥羽山脈)	片面 敲石と複合
529	137	KIVm1 VIIa層		14. 6	7.8	2. 8		安山岩(奥羽山脈)	
321	138	KNp4 W∏a層		13. 2	10.0	5. 2	725. 19	安山岩(奥羽山脈)	焼けている?
402	139	KIIIm20 VIIa層		14. 4	6.8	3.8		安山岩(奥羽山脈)	端部
456	140	KⅣn 1 VIIa層		(8. 1)	5. 3	3. 2	212. 22		使用痕不明瞭
396	141	KIIIm20 VIIa層		(9. 9)	5. 3	(2.7)		頁岩 (奥羽山脈)	欠損品
477	142	KIIIm20 VIIa層	111 111					花崗斑岩(北上山地)	
476	143	KIII 1 20 VII a層	台石	41. 1	48. 8	8. 6	114300.00	凝灰岩 (奥羽山脈)	
380	144	KNp4 WIa層		(15. 3)	(13. 3)	6. 6	1516. 24	IME)	欠損品
327	145	KNp4 WIa層	台石	15. 9	18. 3	6. 2	2543. 10	安山岩(奥羽山脈)	

# 銭貨観察表

仮番	掲載番号	種類	出土位置	直径(cm)	重さ (g)	金属の種	鋳造年代	その他
544	153	寛永通寶	中央部調査区試掘中	2. 4	3. 57	鉄	1739~	
546	154	寛永通寶	出土地不明	2. 2	1. 78	銅	1697~	新寛永
541	155	寛永通寳	RG03埋土	2. 1	1. 97	銅	1697~	新寛永
543	156	寛永通寳	KIII 1 20 I ~III層	2. 2	1. 01	銅	1697~	新寛永
545	157	不明	氾濫原 II~III層	2. 3	2. 18	銅	-	
542	158	不明	KIVm1 I層	2. 2	1. 21	銅	_	

# Vまとめ

米沢遺跡群は馬淵川の西岸、北は十文字川、南は沢内川に挟まれるかたちで大部分は堀野段丘にのっている。南北最大2.5km、東西最大0.5kmと広大な地域が遺跡の範囲として括られており、この中には長瀬遺跡群、家ノ上遺跡、米沢館(エン館)などが含まれている。

今回の調査区は遺跡群の中央部東端にあたる段丘縁辺部付近である。遺跡の中を南-北に走る国道4号バイパスの東側、馬淵川とに挟まれた地点を細長く南北に調査したことになる。現況は未舗装の狭い道路と畑地、雑木林であった。調査区付近の段丘面は小規模な沢による開析や段丘崖の崩れなどがみられ平坦な部分は少なかった。調査区は大きく北側、中央、南側に分けられるが、北側調査区には平坦な地形に沢の開析が入る。中央部調査区は緩斜面地形で段丘崖方向(南東)へ向け低くなっている。南側は調査区内では最も標高が低い。地形は平坦であるが、堆積土は薄く南部浮石層も見られなかった。検出された遺構は竪穴住居跡1棟、焼土9基、陥し穴状遺構2基、集石1基、土坑1基、堀跡1条、溝跡2条である。

#### <縄文時代>

竪穴住居跡は北側調査区から検出され、出土遺物や遺構検出面から縄文時代早期のものと言える。平面形は不整な楕円形を呈し、径約2.7×2.0mと小型で内部から炉跡・柱穴は検出されなかった。しかし、縄文時代早期の遺物はこの住居跡及びその周辺に密に分布し、9基の焼土も付近から検出された。狭い北側調査区の割りには遺物がまとまって出土していること、隣接する長瀬B遺跡でも該期の竪穴住居跡が検出されていることから、付近に縄文時代早期の集落が展開していることは明らかである。北側調査区を起点として見れば東側は段丘縁辺部まで、南側は長瀬A遺跡の南端部付近、北側は長瀬B遺跡が位置する付近、西側は東北新幹線建設に伴って調査した地点が大凡の範囲になると想定される。

早期の遺物は北側調査区の南部浮石層(VI層)下のVII層からのみ出土する。可能な限りVII層から出土する土器と石器について1点ごとに記録を取り、分布図を作成してみると北側調査区の中でも出土量に偏りがあるように見られた。一つはRA01竪穴住居跡が検出された周辺( $KIIIm20\sim KIIIn20$ 0グリッド)、もう一つは北側調査区の中でも南端部付近( $KIV03\sim KIVp4$ 0ヴリッド)である。何れもVIIIの ( $IIIm20\sim KIIIn20$ 0が明層(層厚 $IIIm20\sim KIIIn20$ 0が明例の中に包含されていたもので、この層を堆積土の色調の違いや遺物の在り方から分層することは困難であると判断した。そのため個々の遺物の分布図と土器の形態分類(従来示されている土器編年を意識して)とを対比させ、そこから何らかの傾向を導き出せないか試みた。土器は文様の特徴から  $IIIIm20\sim KIIIn20$ 0を対比させ、そこから何らかの傾向を導き出せないか試みた。土器は文様の特徴から  $IIIIm20\sim KIIIn20$ 0を対比させ、そこから何らかの傾向を導き出せないか試みた。土器は文様の特徴から  $IIIIm20\sim KIIIn20$ 0を対比させ、そこから何らかの傾向を導き出せないか試みた。土器は文様の特徴から  $IIIIm20\sim KIIIn20$ 0を対比させ、それは土器型式でいえば白浜式・寺の沢式・吹切沢式に類似していると見た。特徴的な部位を中心に平面的な分布を検討したが、これといった傾向を見出すことはできなかった。垂直分布についても同様である。前述した土器型式の土器が今回の調査では混在するかたちで出土していると判断したい。なお $IIIIm20\sim KIIIn20$ 0を対したが、これといった傾向を見出すことはできなかった。垂直分布についても同様である。前述した土器型式の土器が今回の調査では混在するかたちで出土していると判断したい。なお $IIIIIn20\sim KIIIIn200$ 0を対しますることなどは傾向をしてあげられるが垂直分布では他の土器と分けることができない。

この他北側調査区では中期の土器も数点出土しており、周辺にはこの時期の遺構が存在する可能性が高い。 前期の遺構は中央部調査区から集石が1基検出され、遺物もこの付近からしか出土してない。長瀬B遺跡 から東側へ斜面地形を50m程(比高差4~5 m)下ったところが中央部調査区で、ここでは集石の他に陥し 穴状遺構が2基検出されている。集落は斜面地形を避け平坦面が多い長瀬遺跡群及びその西側に営まれてい

#### たと考えたい。

#### <古代>

今回の調査では須恵器の破片 2 点が中央部調査区から出土しただけであるが、長瀬遺跡群は奈良・平安時代の竪穴住居跡が多数検出されており、かなりの規模の集落であったと思われる。遺構は長瀬遺跡の調査区外にも延びることが確実で、西側の新幹線建設に伴う調査区まで広がっていることは判明している。加えて長瀬遺跡より 4~5 m低い南側調査区の更に南側約50mの畑地からも土師器・須恵器が表採できることから、何らかの遺構があると思われる。

#### <中世>

北側調査区にて堀跡1条が検出された。南東-北西方向へほぼ直線的に33m程確認され、両端はそれぞれ調査区外に延びている。上幅は検出面で2.2~1.6m、薬研堀状を呈し深さは現表土から2.1~1.9mを測る。埋土は自然堆積であった。堀内部の平場は検出された堀の東側にあたる。平場の殆どは調査区外にあり、現況は畑地及び家屋となっている。調査区内では堀に関係する遺構は検出されていない。反対に堀の外側は国道から段丘下の馬淵川へ下りていく未舗装の狭い道路となっており、堀はこの畑地と道路の境に沿うようなかたちで検出された。現地形観察から、堀は調査された北端からさらに12m程北側に延びてから東側に方向を変え段丘崖へ達しているようである。一方、調査された南端からさらに直線的に40~50m程延びたところで小規模な沢の開析にぶつかって、東側の段丘崖へと続いている。つまり段丘縁辺部をコ字状に区画する堀の一部を調査したことになる(第5図)。現時点では堀が複数巡るようには思えないので、段丘縁辺を1条の堀によって取り囲んだ単純な構造であったと推測される。時期については遺物を伴っているわけでもなく、中世に位置付けたのも筆者の推察でしかない。

堀跡の巡る内側は約900㎡の広さで、そこに建つ屋敷の方は名字を泉舘といい敷地内には屋敷墓が存在する。位置は敷地の最も南寄りのところで、墓石は判読できるものは江戸後期以降のものが多かったが、単なる河原石を据えたものもありそれらはもっと旧い筈である。家主の話によると先祖は南部家の家臣であったとのことで、蝦夷地にも赴いたそうであるが堀については、その存在を知らなかったようである。

この堀を巡らす区域を館跡や居館とするには調査区が限定されたものであるために判断は保留せざるを得ない。中世の遺構については北側200~300mに位置する長瀬C遺跡からは中世後半の竪穴住居跡10棟、堀跡1条、中近世の掘立柱建物跡3棟他が発見され多量の貨幣が出土している。銭貨の中には模鋳銭も多く含まれており、竪穴住居跡内でビタ銭の鋳造を行っていたと推測されている。同時存在していたか、堀の時期が判からないため不明であるが、仮に同時期であれば堀を巡らした地元有力者の屋敷と隣接する集落の一部といった関係になろうか。

#### ≪引用・参考文献≫

大川清 鈴木公雄 工楽善通編 1969 「縄文時代東北」『日本土器辞典』 雄山閣

富樫泰時 1989 「貝殼沈線文土器様式」『縄文土器大観』第1巻 小学館

名久井文明 1982 「貝殻文尖底土器」『縄文文化の研究3 縄文土器 I』 雄山閣

青森県教育委員会 昭和59年 「売場遺跡発掘調査報告書(第1・2次調査)」青森県埋蔵文化財調査報告書第93集

青森県教育委員会 昭和59年 「売場遺跡発掘調査報告書(第3・4次調査)大タルミ遺跡発掘調査報告書」青森県埋蔵文化 財調査報告書第93集

青森市螢沢遺跡発掘調査団 1979 「螢沢遺跡 青森市新団地造成計画に基づく戸山団地予定地内螢沢遺跡緊急発掘調査報告 書」

青森県八戸市教育委員会 昭和55・56年 「長七谷地遺跡発掘調査報告書 長七谷地2・7・8号遺跡」八戸市埋蔵文化財調 査報告書第8集

青森県八戸市教育委員会 昭和63年 「赤御堂遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集

励岩手県埋蔵文化財センター 昭和57年 「二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 長瀬B遺跡」岩手県埋文センター文化財調査報告書第36集

励岩手県埋蔵文化財センター 昭和58年 「長瀬C遺跡第2次発掘調査報告書 二戸バイバス関連遺跡発掘調査」岩手県埋文センター文化財調査報告書第51集

財治手県埋蔵文化財センター 昭和58年 「上里遺跡発掘調査報告書 二戸バイパス関連遺跡発掘調査」岩手県埋文センター 文化財調査報告書第55集

励岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平成13年 「米沢遺跡発掘調査報告書 東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業 関連遺跡発掘調査」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第376集

盛岡市教育委員会 2000 「屠牛場遺跡 第1次調査」『盛岡市内遺跡群』-平成11年度発掘調査外報-



# 写 真 図 版



北側調査区現況(右が国道4号)



中央部調査区現況(北から)



南側調査区現況(南から)



遺跡を一段低い面から



遺跡を対岸から

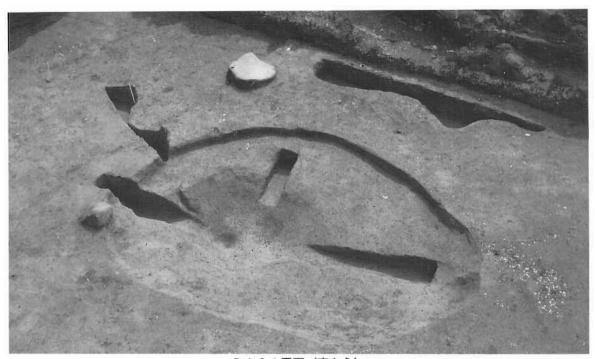
写真図版 1 調査前現況



北側調査区(北から)



中央部調査区(南から) 写真図版 2 遺跡近景



RA01平面(東から)



RA01断面(西から)

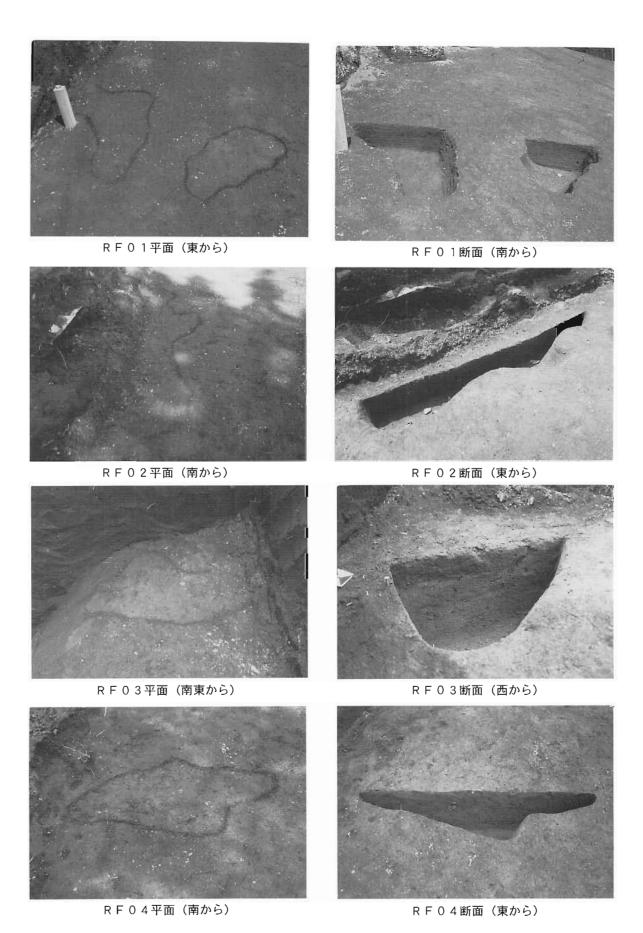


RA01断面(北側壁)

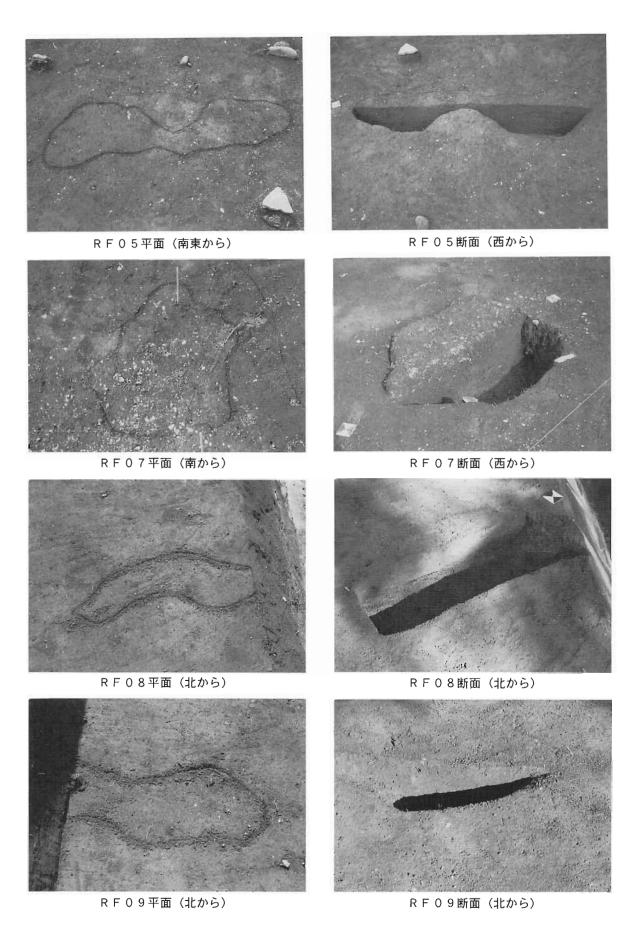


RA01断面(南側壁)

写真図版 3 RA01竪穴住居跡



写真図版4 焼土(1)



写真図版5 焼土(2)



集石(L IV k 11~ l 11)



遺物分布(早期·KIVp4)



遺物分布(早期・KIVp4)



遺物分布(早期・KIVp4)



遺物分布(早期・北側調査区)

写真図版 6 遺物分布(縄文早期)ほか



RD0 2 陥し穴状遺構平面



RD0 2 陥し穴状遺構断面



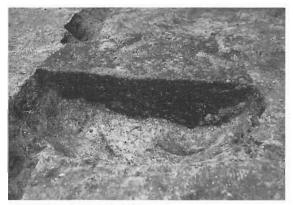
RD0 1土坑平面



RD0 3 陥し穴状遺構平面



RD0 3 陥し穴状遺構断面



RD0 1土坑断面

写真図版7 陥し穴状遺構・土坑



RG02断面(南から)



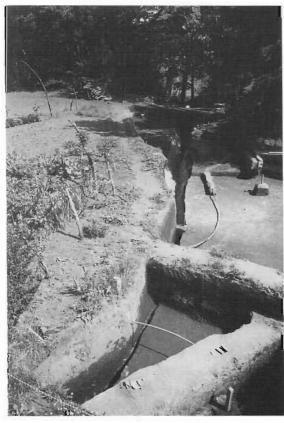
堀は沢へと達している



堀検出前の状況(北から)



R G 0 4 調査風景



RG04堀跡平面(北から)



RG04断面(西から)



RG04断面(北から)

写真図版8 堀跡



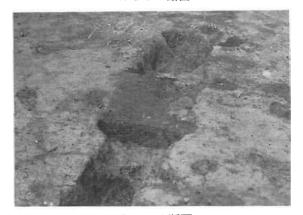
RG01溝跡平面(南から)



RG02・03溝跡平面(南から)



R G O 1断面



RG01断面



R G O 2 断面



RG02・03断面

写真図版 9 溝跡



北側調査区 (中掫直下面)



北側調査区(南部浮石直下面)



中央部調査区中掫面検出作業



中央部調査区中掫面(南から)



中央部調査区(中掫直下面)



北~中央部調査区完掘状況

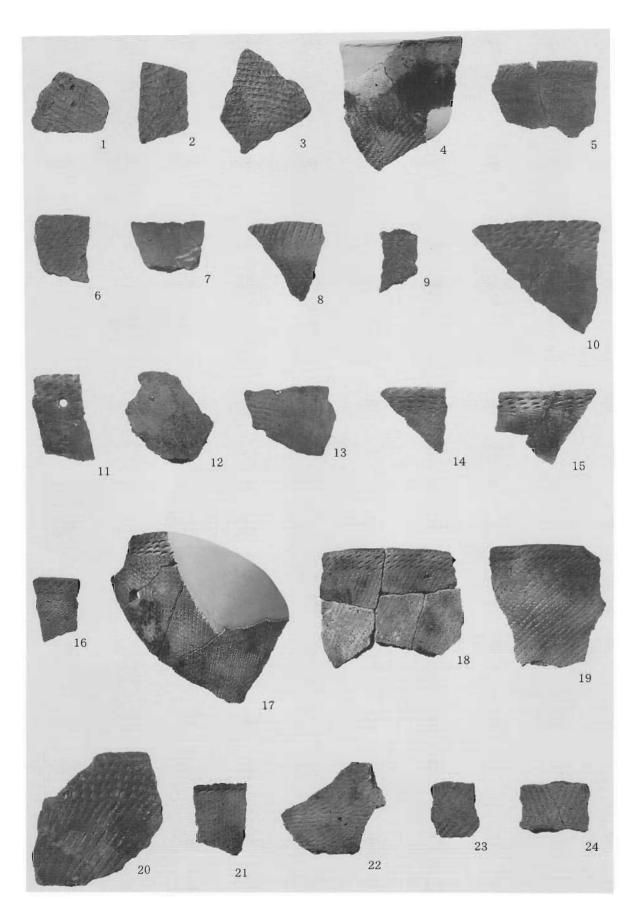


南側調査区調査風景

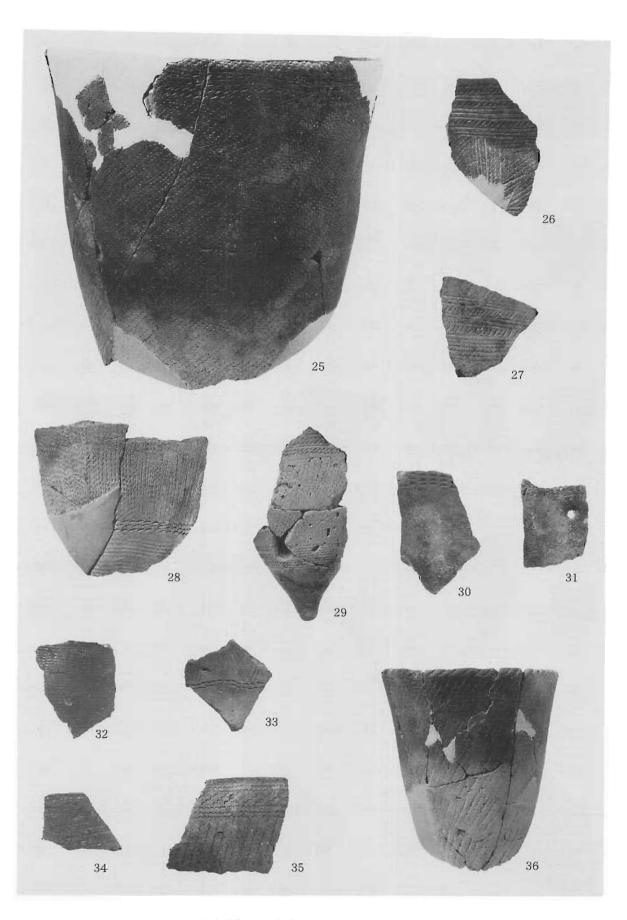


遺跡遠景(南東から)

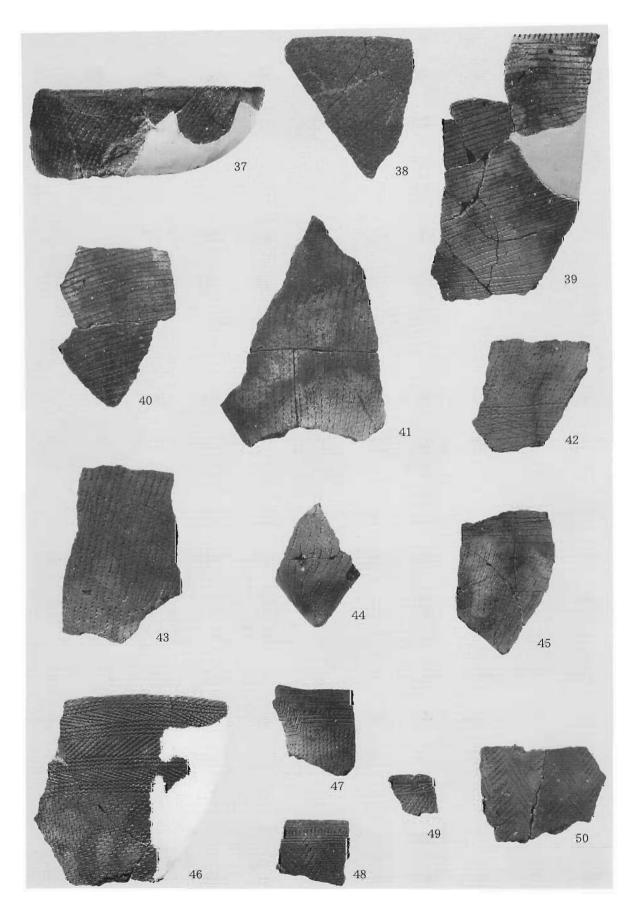
写真図版10 調査状況



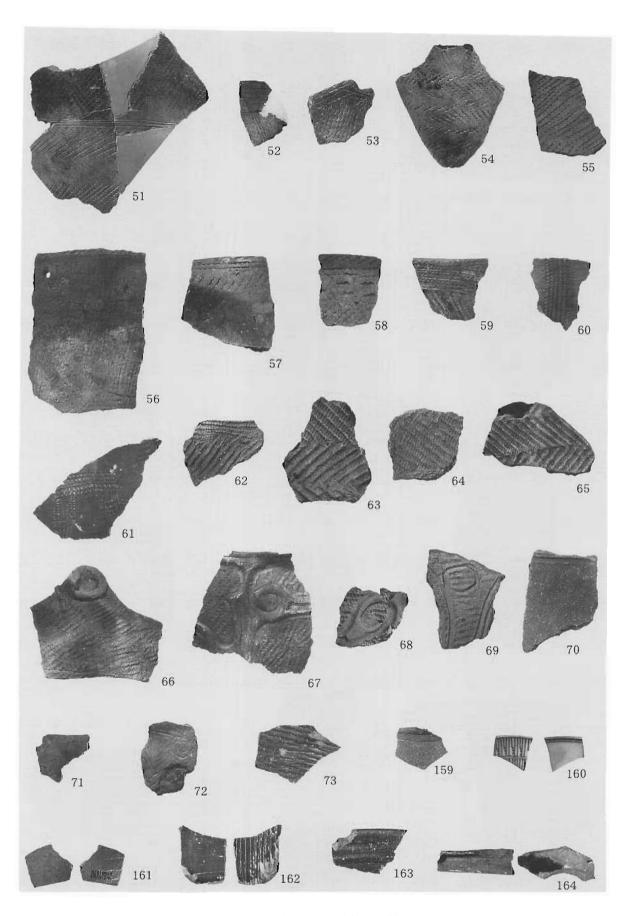
写真図版11 遺構内・外出土遺物(土器1)



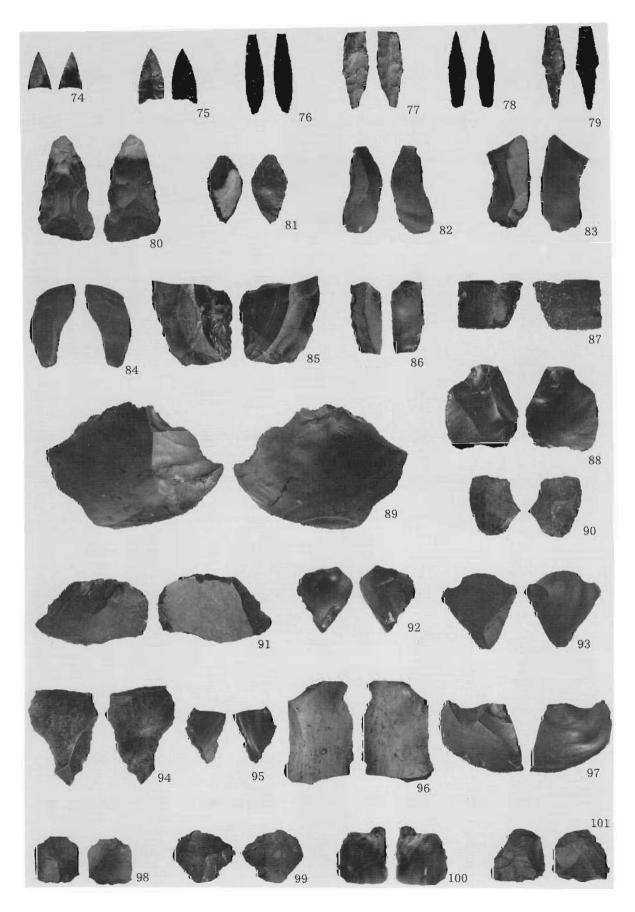
写真図版12 遺構外出土遺物(土器2)



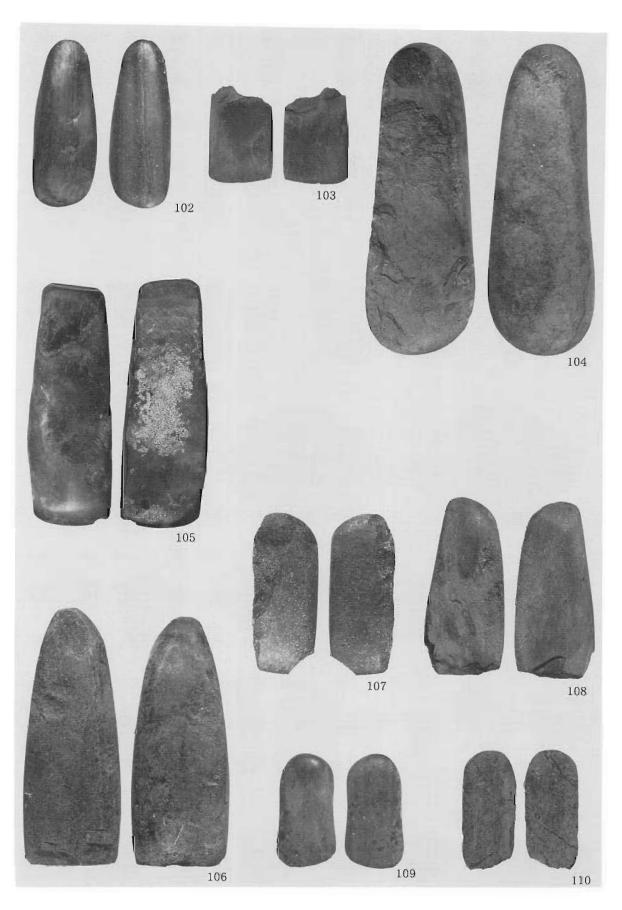
写真図版13 遺構外出土遺物(土器3)



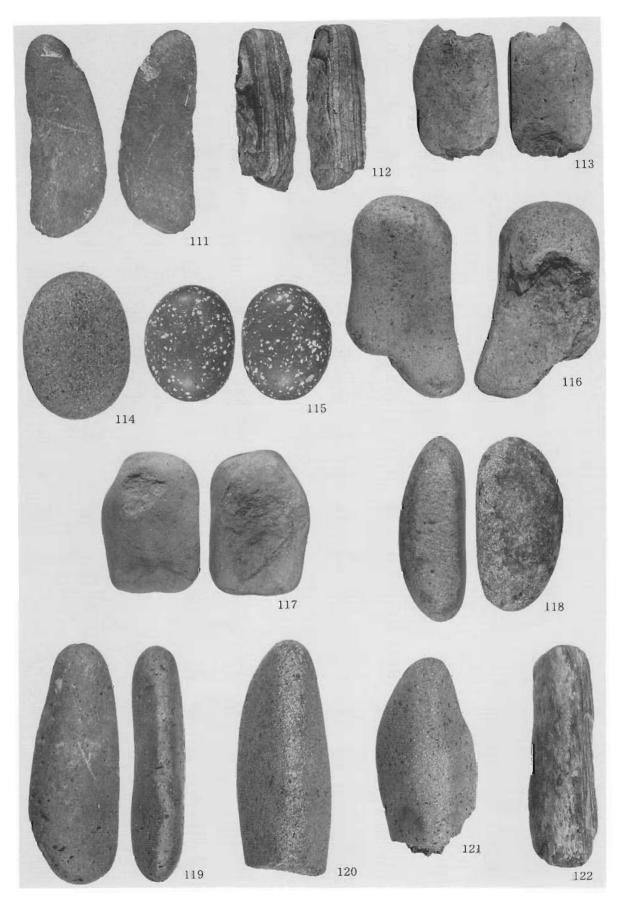
写真図版14 遺構外出土遺物(土器4)



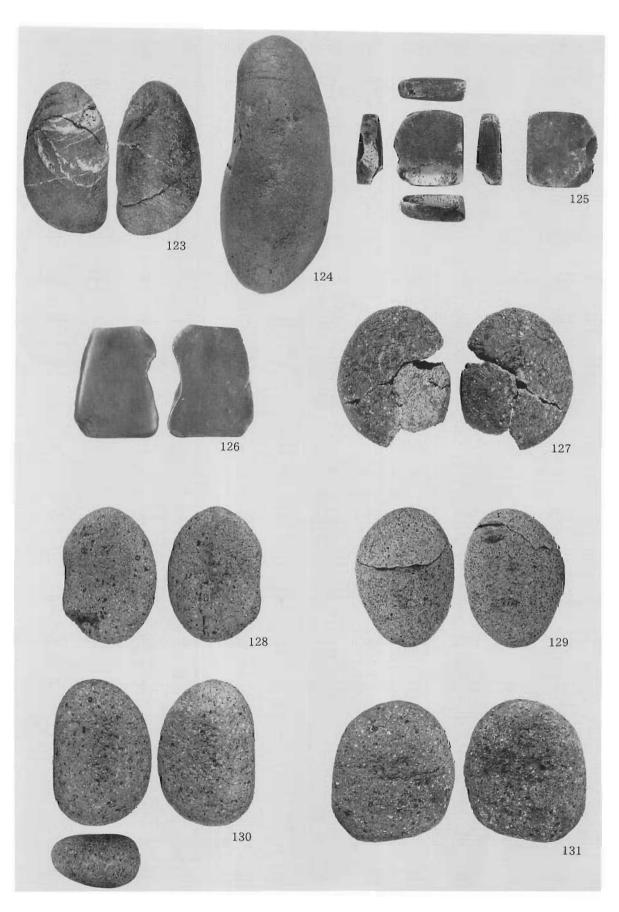
写真図版15 遺構外出土遺物(石器1)



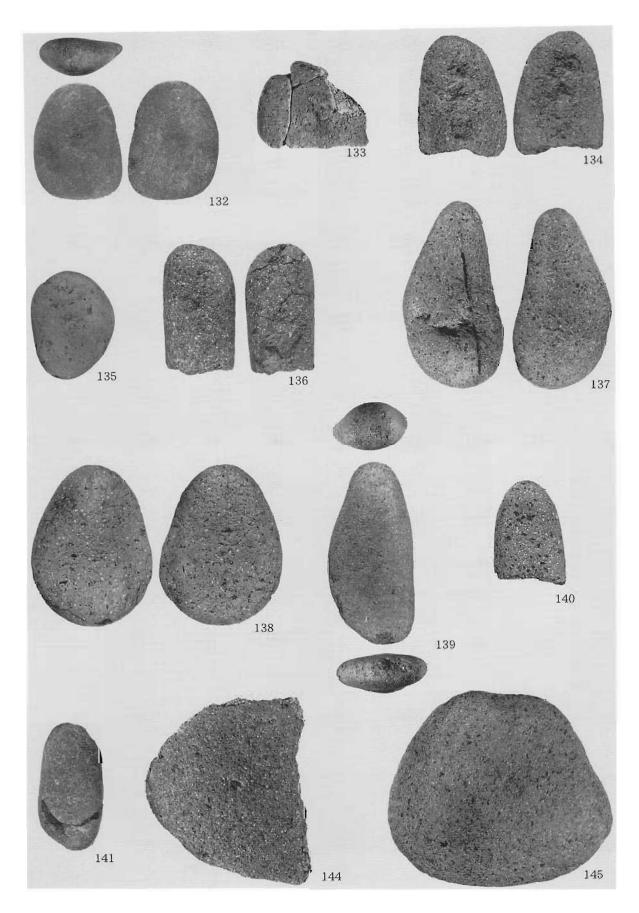
写真図版16 遺構外出土遺物(石器2)



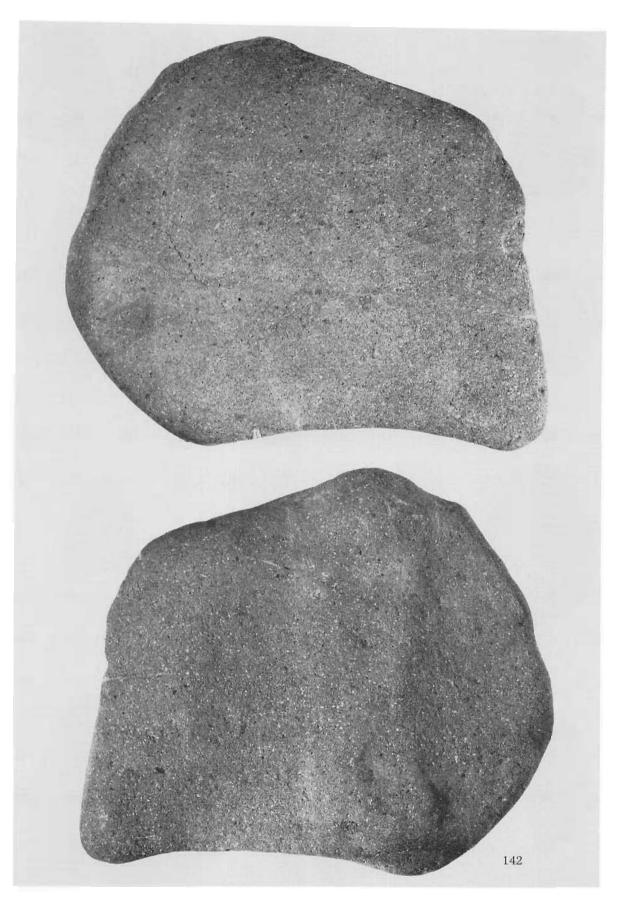
写真図版17 遺構外出土遺物(石器3)



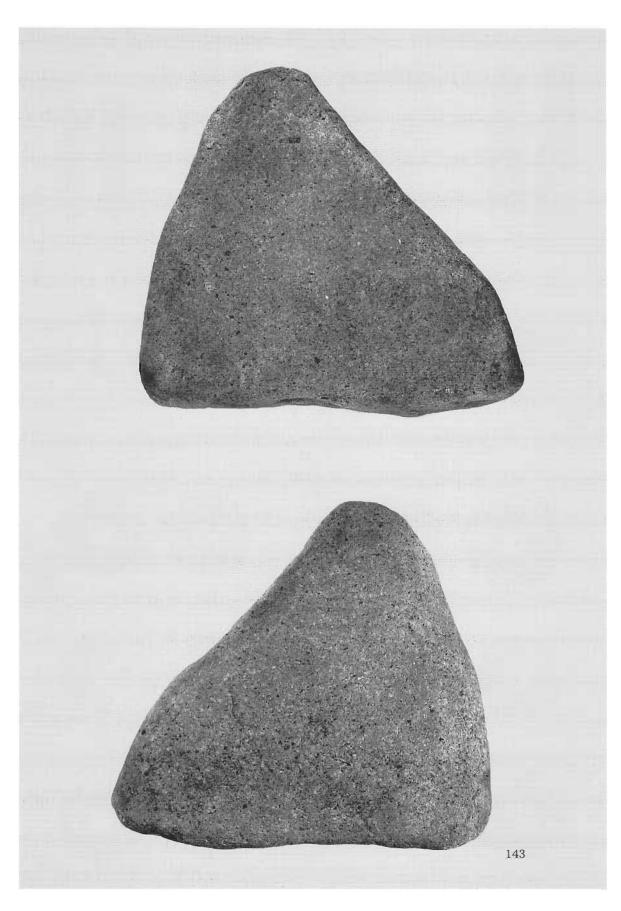
写真図版18 遺構外出土遺物(石器4)



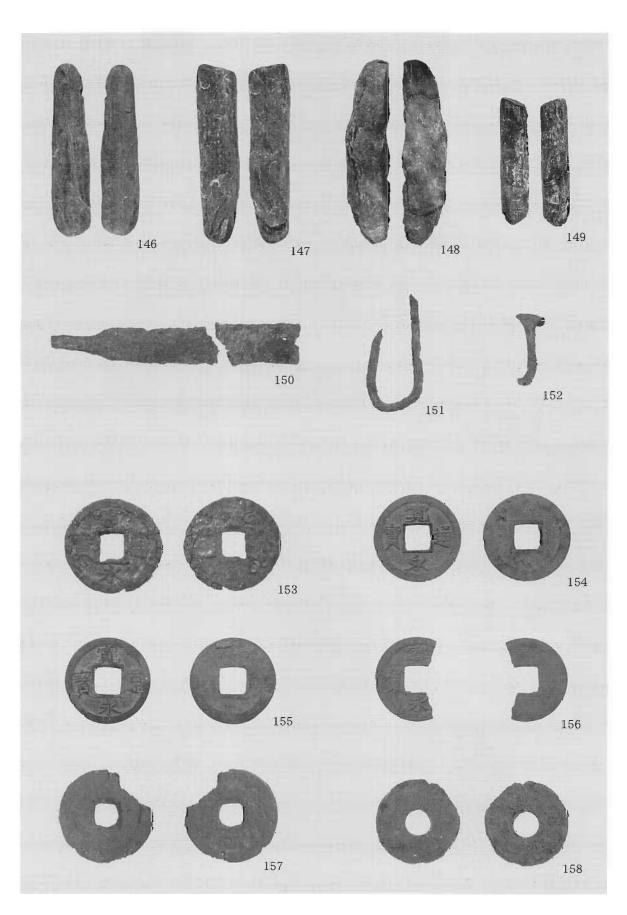
写真図版19 遺構外出土遺物(石器5)



写真図版20 遺構外出土遺物(石器6)



写真図版21 遺構外出土遺物(石器7)



写真図版22 遺構外出土遺物(石器8・その他)

# 釜石遺跡

所 在 地 一戸町平糠字釜石29-35ほか

委 託 者 農林水産省東北農政局

馬淵川沿岸農業水利事業所

事 業 名 大志田ダム建設

発掘調査期間 平成13年4月16日~7月31日

調査対象面積 5,000m²

発掘調査面積 5,000m²

遺跡番号・略号 JE69-0265・KI-01



第1図 遺跡位置図

# Ⅰ 調査に至る経過

本地区は、岩手県北部を貫流する馬淵川の沿岸に位置し、二戸市及び一戸町にまたがる2,810haの畑作農業地帯である。この地域は干害施設が未整備のため、作物の生育期間における降水量不足のため、干害による被害がしばしば生じており、農業生産の阻害要因となっていた。このため、2,590haの干害を目的に新規水源として、馬淵川支流の平糠川に大志田ダムを築造する工事を進めている。

この大志田ダムの湛水敷には周知の埋蔵文化財包蔵地があったため、岩手県教育委員会に依頼し、平成10年10月から平成11年4月にかけ11ヶ所の試掘調査を実施した。この試掘調査の結果、縄文時代に属する土器片と遺構が2箇所で発見されたため、工事着手前に記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、平成10年10月30日付け教文第816号により通知があった。

この通知を受け、岩手県文化課へ発掘調査の要請を行い、文化財保護法第57条の3第1項の規定により、 平成11年10月14日文化庁長官あて発掘届の通知をした。

これに対し、平成11年11月1日付け教文第7-221号にて発掘調査を実施するよう通知があり、平成13年3月1日付け教文第1342号によって平成13年度に釜石遺跡の発掘調査をおこなうこととした。発掘届は平成13年3月29日付けで教育委員会(教育長)宛で提出しました。

調査は

開査は

開告手

開発

開査

開査

に表記

に表記し、

平成13年 4 月16日から

同年 7 月31日まで

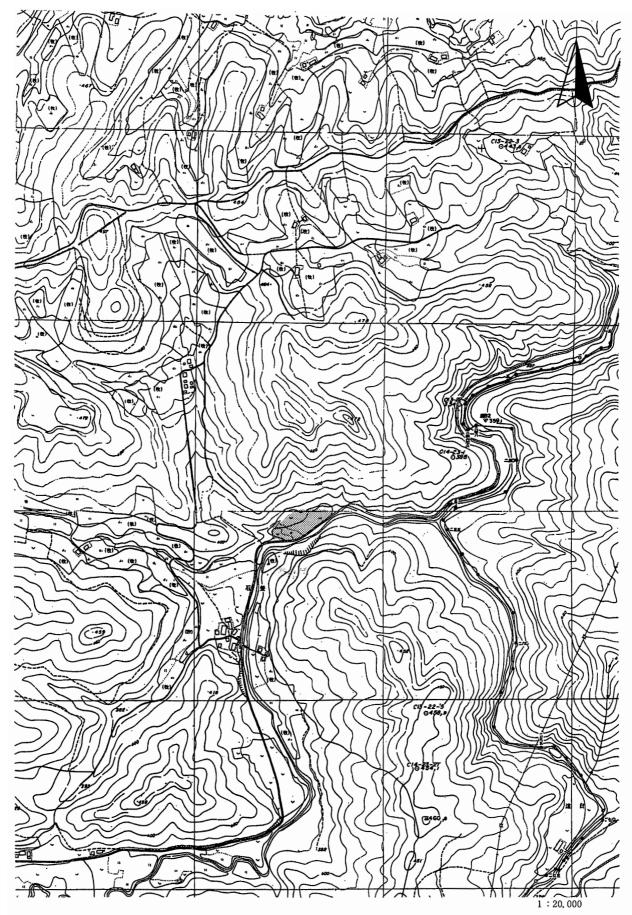
現地調査 (5,000㎡)

等を実施した。

# Ⅱ 遺跡の立地と環境

# 1 遺跡の位置・地形

釜石遺跡は岩手県二戸郡一戸町平糠字釜石29-35ほかに所在し、東日本旅客鉄道東北本線奥中山駅の東北東約5kmの地点にある(第1図)。遺跡の所在する一戸町は面積が29,858km、盛岡市から北へ約57km、岩手県の内陸北部に位置しており、北側は二戸市、西側は二戸郡浄法寺町、東側は九戸郡九戸村、岩手郡葛巻町、南側は岩手郡岩手町に隣接している。馬淵川の支流で一戸町南部にある西岳(標高1018m)を源流域とする平糠川が奥中山高原、山間部をぬって10kmほど下ったところに釜石の小さな集落がある。山地に囲まれ、狭いながらも谷底平野が盆地状に形成されており遺跡はその最も北側(下流)に位置している(第2図)。遺跡は平糠川左岸の緩斜面に立地し、北側に山地が迫り南側はすぐに平糠川となっている。標高は365m~374mで川との比高は3~4m程しかない。平糠川はこの後、山間部を北側に下り一戸町小鳥谷で馬淵川と合流し、二戸市から青森県に入り八戸湾に達する。



第2図 周辺の地形図

# 2 基本層序

遺跡は東西に約150m、南北に最大75 m程で標高差は約10mある。現況は休耕田及び畑地で地点により地層は一様ではない。その中で最も状態の良く、本遺跡を代表していると判断したVIC区(遺跡やや東側)での記録をもとにして基本土層柱状図を作成した(第3図・写真図版)。

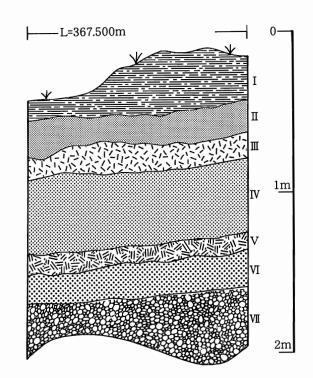
第 I 層 黒褐色土 草木根多、粘性・締まり弱。 (表土) 層厚:15~ 40cm

第II層 黒褐色土 中掫浮石を微量含む。 粘性・締まりやや有り。層厚: 15~35cm

第Ⅲ層 にぶい黄橙〜明黄褐色 中掫浮石。粒の細かいものとやや大きなものとがみられる。標高の低い所には堆積していない。

第 IV 層 黒色土 黄褐色浮石 (V 層)を 微量含む。粘性・締まりやや有 り。縄文時代前期の遺物が出土

する。層厚:40~50cm



第3図 土層断面柱状図

第Ⅴ層 明黄褐色 二の倉テフラ。粘性は無く締まっている。層厚:0~30㎝

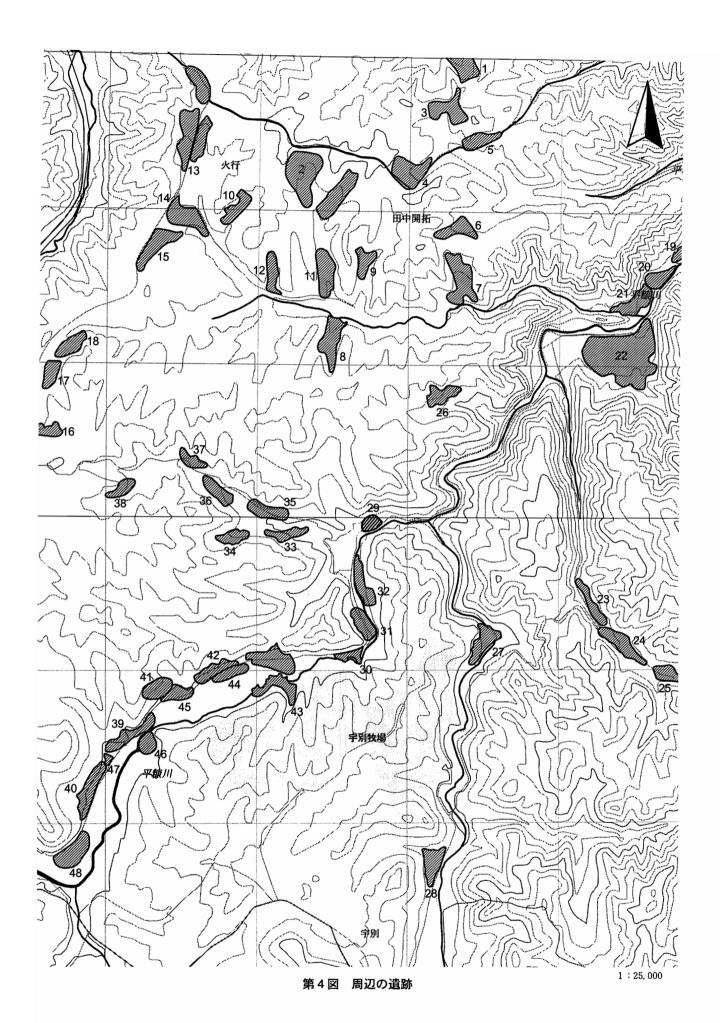
第Ⅵ層 黒色土~黒褐色土 粘性・締まりやや有り。縄文時代早期の遺物を包含する。層厚:5~30cm

第Ⅲ層 明黄褐色 八戸火山灰層 粘性・締まりやや有り。大小の自然礫含む。

遺構検出作業はⅢ層上面及びⅣ層面、次にⅤ層上面で行い、遺物の出土する場所では更にⅧ層面でも実施した。第Ⅴ層は標高の低い遺跡南側には堆積していないことが明らかとなった。

## 3 周辺の遺跡

釜石遺跡の周辺に位置する遺跡について、その分布図(第4図)と各遺跡の内容を簡単にまとめた一覧表 を作成した。



—88—

# 釜石遺跡周辺の遺跡一覧表

1	hat not by	CF DI	41 ±0	遺構・遺物	所 在 地	備考
No.	遺跡名	種別	時代	縄文土器	平糠野尻 釜石東司宅周辺	
1	野尻	散布地	縄文		平糠名子根121 峠仁助宅周辺	
	名子根I	散布地	縄文	縄文土器 (36.48)	平糠名子根99 笹山三太宅周辺	
2	名子根II	散布地	縄文	縄文土器(後期)	平糠名子根10 田ノ岡由太郎宅	
3	名子根III	散布地	縄文	縄文土器	周辺	
4	名子根 V	散布地	縄文	縄文土器	平糠名子根167 上坂与八宅周 辺	
5	 名子根 VI	散布地	縄文	縄文土器	平糠名子根167 小野寺信夫宅 周辺	
6	名子根VII	散布地	縄文	縄文土器	平糠名子根149 株野仁太宅周 辺	
7	名子根Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器、石鏃	平糠名子根158-4 長根与八宅 周辺	
8	名子根IX	散布地	縄文	縄文土器	平糠字名子根	
9	名子根X	散布地	縄文	縄文土器	平糠字名子根	
10	東火行Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器、石鏃	中山東火行 月折太郎宅周辺	
_		散布地	縄文	縄文土器	中山東火行 丹内宅周辺	
11	東火行Ⅱ			縄文土器	周辺 中山東火行 松原与八宅	
12	東火行Ⅲ	散布地	縄文		中山字西火行	
13	東火行Ⅳ	散布地	奈良・平安		中山字東火行	
14	東火行V	散布地	縄文	縄文土器		
15	新田	散布地	奈良・平安	土師器、須恵器、陶磁器	中山字新田	
16	小稲荷	散布地		縄文土器(晩期)? 弥生土器?	中山字小稲荷	
17	小稲荷II	散布地	縄文・中世		中山字小稲荷	
18	小稲荷III	散布地	縄文・近世	縄文土器(中期)、陶磁器	中山字小稲荷	
20	高間木Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器(後期)	平糠字髙間木	
21	岩木II	散布地	縄文	縄文土器(前・晩期)	平糠字岩木	
22	大志田	散布地	縄文	縄文土器(後期)、壷形土器、片口形 土器	平糠字大志田	
23	名越 I	散布地	縄文	縄文土器(前・後期)	宇別字名越 西館民次郎宅周辺	
24	名越II	散布地	縄文・近世		宇別字別名越 大欠竹夫宅	
25	名越Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	宇別字名越	
_			縄文	縄文土器	宇別字道白	
26	道白	散布地			宇別字道白	
27	道白II	散布地	縄文・近世			
28	武大敷	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	宇別字武大敷	#17 44 V#LU44
29	釜石	散布地	縄文	縄文土器(前・早期)	平糠字釜石29-35ほか	報告遺跡
30	釜石 I	散布地	縄文・弥生		平糠字釜石	
31	釜石II	散布地	縄文	縄文土器(早・前期)	平糠字釜石	
32	釜石III	散布地	縄文・奈良		平糠字釜石	H7新規、範囲拡
33	釜石IV	散布地	縄文	縄文土器 (後期)	平糠字釜石	大
34	釜石V	散布地	縄文	縄文土器(前期)	平糠字釜石	
35	釜石VI	散布地	縄文・平安		平糠字釜石	
36	釜石VII	散布地	縄文	縄文土器(早・中・後期)	平糠字釜石	
37	釜石Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器(前・晩期)、素焼き土石	平糠字釜石	
38	家向	散布地	縄文・平安	縄文土器(後・晩期)、土師器	中山字家向	
39	切掛	散布地	弥生	弥生土器、剥片	中山字切掛 西館直次郎宅周辺	** 0 00 HB
40		散布地	縄文	縄文土器 (中・後期)	中山字切掛	H7新規、範囲拡 大
41	切掛III	散布地	縄文・平安	縄文土器(早・後期)、土師器、磨石	中山字切掛	11 7 MC 4P 3E Mr mr Lb
42	切掛IV	散布地	縄文・古代		中山字切掛	H 7 新規要範囲修 正
43	切掛V	散布地	縄文	縄文土器(中・後・晩期)、磨石	中山字切掛	
44	切掛VI	散布地	縄文	縄文土器	中山字切掛	
45	切掛VII	散布地	縄文	縄文土器	中山字切掛	H7新規
46	切掛IX	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	中山字切掛	H 7 新規要範囲修 正
47	切掛X	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器	中山字切掛	H7新規要範囲修 正
48	軽井沢	散布地	縄文	縄文土器	中山字軽井沢	H7新規
10	T1.711/1	I BY 1125E	PEI A	1.EV TH	I PH I TEXT IV	1 471/24

# Ⅲ 調査の方法と室内整理

# 1 調査の方法

# (1) グリッドの設定と遺構名

 基1
 X=9,000.000
 · Y=38,800.000
 基2
 X=8,950.000
 · Y=38,800.000

 補1
 X=8,975.000
 · Y=38,750.000
 補2
 X=8,975.000
 · Y=38,780.000

 補3
 X=8,975.000
 · Y=38,800.000
 補4
 X=8,975.000
 · Y=38,820.000

### (2) 粗掘り・遺構検出

雑物撤去後に調査区内にトレンチを設定し遺物の包含状況、遺構の確認面を把握した。遺物の出土が極めて少ない地点及び層は重機を用いて表土並びに中掫浮石層を除去した。遺物を多く包含する層は人力によって堆積土を除去した。

遺構の確認は中掫浮石層上面・中掫浮石除去後の黒色土面、そして二の倉火山灰層直下の暗褐色土層で行い、これを、ジョレン、両刃鎌で平滑にしプランを確認するようにした。

#### (3) 遺構の命名

遺構名は検出順に算用数字を付して 1号〇〇跡・2号〇〇跡 とした。

## (4) 遺構の精査と遺物の取り上げ

検出された遺構は、土坑類・柱穴については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の 方法も併用した。記録として必要な図面及び写真の撮影は、精査の各段階において適宜これを行った。遺構 の平面実測にあたっては原則として簡易遣り方測量で5mグリッドを1mに細分したメッシュを用いて行っ た。また平板測量も用いた。実測図は原則として1/20の縮尺を用い、平面図と断面図を作成した。遺構内 出土の遺物は、埋土の場合上部・下部に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を 付け、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、中掫浮石層より上面はグリッド毎に出土した層位を記して取り上げ、中掫浮石より下層から出土した遺物は可能な限り個々に付番し、その位置を記録して分布図(1/20)を作成して取り上げた。

# (5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ(モノクロ)と35mm判カメラ2台(モノクロ、カラー・リバーサル)を使用した。この他にポラロイドカメラを補助的な用途として用いた。撮影に当たっては撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。航空機による空中写真は見合わせた。

# 2. 室内整理

室内での作業は、遺構図面の点検と修正及びトレース、遺物の注記、接合・復元を優先させて行った。次に仕分け・登録、写真撮影・実測・拓本の作成を並行してすすめた。この後実測図の点検とトレースを行い、図版・写真図版の作成を順に行った。個々の整理方法及び図版の凡例は下記の通りである。

# (1) 遺構

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面をもとに1/600で掲載した。

各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。掘立柱建物跡 1/100、土坑 1/40、出土遺物分布図 1/60

## (2) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの(口縁・底部が 1 / 5 以上残存)に限ったが、一部は 平面実測して掲載した。また、時間的制約から器形が単純なものは拓本を付して代用した。掲載遺物の縮尺 率は下記の通りであるが、これらにも一部変更があり図版には縮尺率を付けた。

土器・礫石器・拓本…1/3、大型の土器・石器…1/4、その他の遺物…1/2・1/3

なお、遺物写真の縮尺については、概ね実測図に準じている。また、実測図版中にある石器の使用痕の表現や、使用したスクリントーンの指示については以下に示した。



磨面



敲打面



凹面

# IV 検出された遺構と遺物

# 1 掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物跡(第5図・写真図版3)

<位置・重複関係>遺跡のほぼ中央部の緩斜面、VC4eグリッドに位置している。

<平面形式・建物方位>桁行3間(848cm)、梁間2間(276cm)の長方形プランである。桁行方向はN−65° −Eを示す。

<柱間寸法>様々な寸法が使用されており、基準寸法を見出すことができない。

<建物の性格>建物規模から作業小屋のような施設と考えられる。建物の北から西側を囲むように検出された柱穴列については、建物の一部若しくは建て替えとなる可能性もあるが、現時点では柵のような施設と位置付けておく。

<出土遺物>なし。

<時期>時期を判断する資料を欠くが概ね近世以降と思われる。

## 2号掘立柱建物跡 (第5図・写真図版3)

< 位置・重複関係>遺跡の中央部やや西側の斜面、ⅣC5cグリッドに位置している。南側及び東側が斜面下方にあたるため柱穴は削平され失われていると判断した。

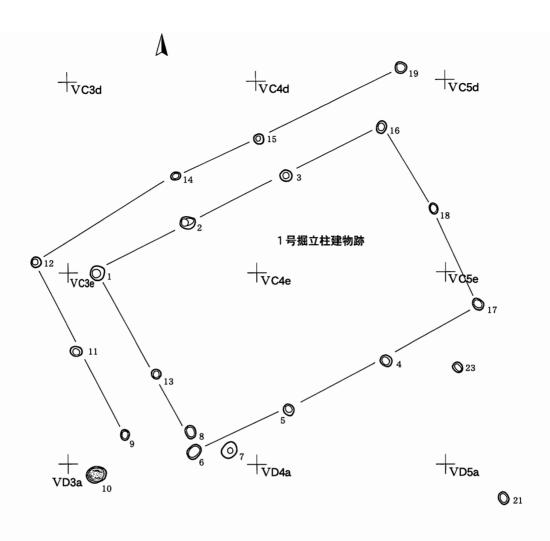
<平面形式・建物方位>桁行は検出された部分で848cm、梁間は112cm以上と推測される。桁行の軸方向はN−68°−Eを示す。

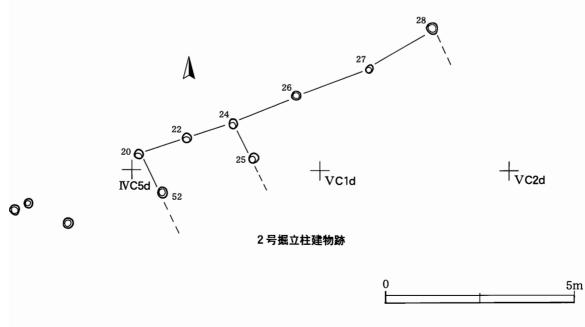
<柱間寸法>柱間寸法に規則性を見出すことはできない。柱筋も直線ではなく少し曲がっている。

<建物の性格>全容は不明であるが、作業小屋的な施設と思われる。

<出土遺物>なし。

<時期>1号掘立柱建物跡と同様に概ね近世以降と思われる。





第5図 掘立柱建物跡

## 2 土坑

1号土坑 (第6図・写真図版4)

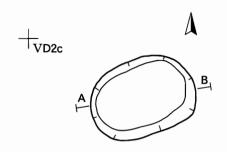
< 位置・重複関係>遺跡の南端部ほぼ中央にあたる VD2cグリッドに位置し、Ⅳ層面にて検出された。 <平面形・規模>平面形は小判形を呈し、開口部径 112×80cm、底部径98×62cm、深さは検出面から36 cmを測る。底面は概ね平坦で壁もほぼ垂直に立ち上がっている。底面まで掘り下げた段階で湧水があった。

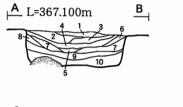
<埋土>自然堆積の様相を呈し、黒色土や灰黄褐色砂等が一気に流れ込んだような状況で堆積していた。 <遺物・時期>出土遺物は無いが、概ね近世及びそれ以降に属すると思われる。

# 3 出土遺物

釜石遺跡で出土した遺物を、ここで一括して扱うこととする。本調査で出土した遺物の総量は、当センターの大コンテナ(42×32×30cm)に換算して土器1箱強、石器1/3箱、煙管1点である。

本稿に掲載した遺物は通し番号となっており、土器、石器の順に時期及び器種を念頭に置いて配列し





0 2m

1号土坑

1. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。

10YR4/2 灰黄褐色砂 汚れている。粘性なし。締まり有り。
 10YR2/1 黒色土 地山ブロックごく微量含む。粘性・締ま

りやや有り。

4. 10YR2/1 黒色土 中掫浮石少量含む。粘性・締まりやや有

り。 5. 10YR2/1 黒色土 中掫浮石微量含む。粘性・締まりやや有

6. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。

7. 10YR6/6 明黄褐色火山灰に黒色土が少量混じる (Ch-pか)

粘性・締まりやや有り。

8. 10YR2/1 黒色土 地山ブロックごく微量含む。粘性・締まりやや有り。

9. 10YR2/1 黒色土 にぶい黄橙色火山灰ブロックをごく微量

含む。粘性・締まり有り。

10. 10YR2/1 黒色土 にぶい黄橙色火山灰ブロックを微量含む。 粘性・締まり有り。

# 第6図 土坑

た。紙面の関係からこの限りでないものもある。また、掲載遺物に関しては、他遺跡の事例を参考にし、若 干の分類を試みたが、報告者の力量不足から大枠を提示するに過ぎない。なお、縄文時代前期から早期にか けての土器及び石器については基本的に1点づつ記録をとり、出土状況を分布図(第8・9図)にして示し た。出土地点に関しては、観察表に記してあるが、算用数字による表記は図8、9のドット番号に対応する。

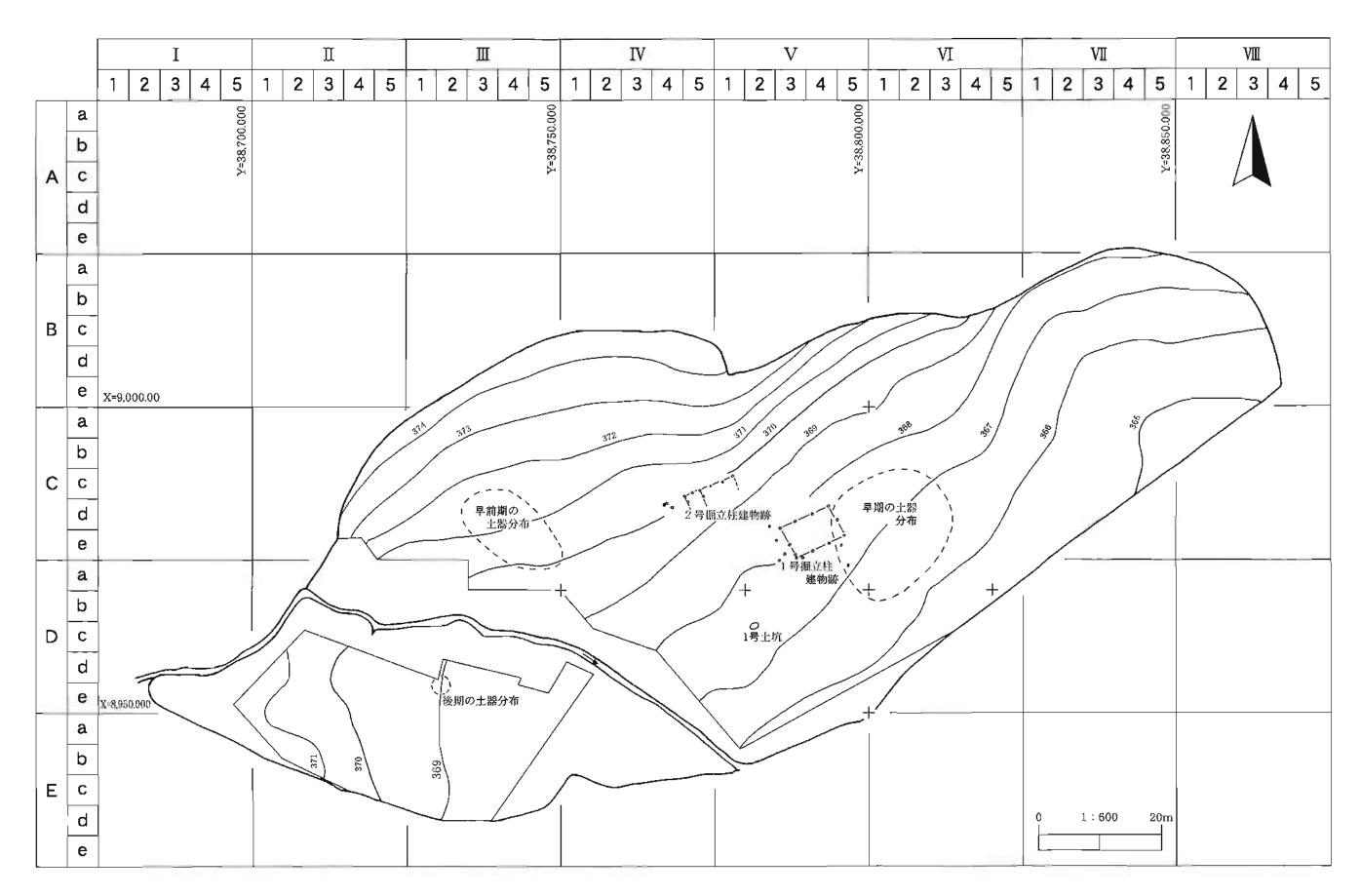
### (1) 土器

縄文時代早期、前期、後期の土器が出土している。主体は縄文時代前期初頭期から前葉期である。

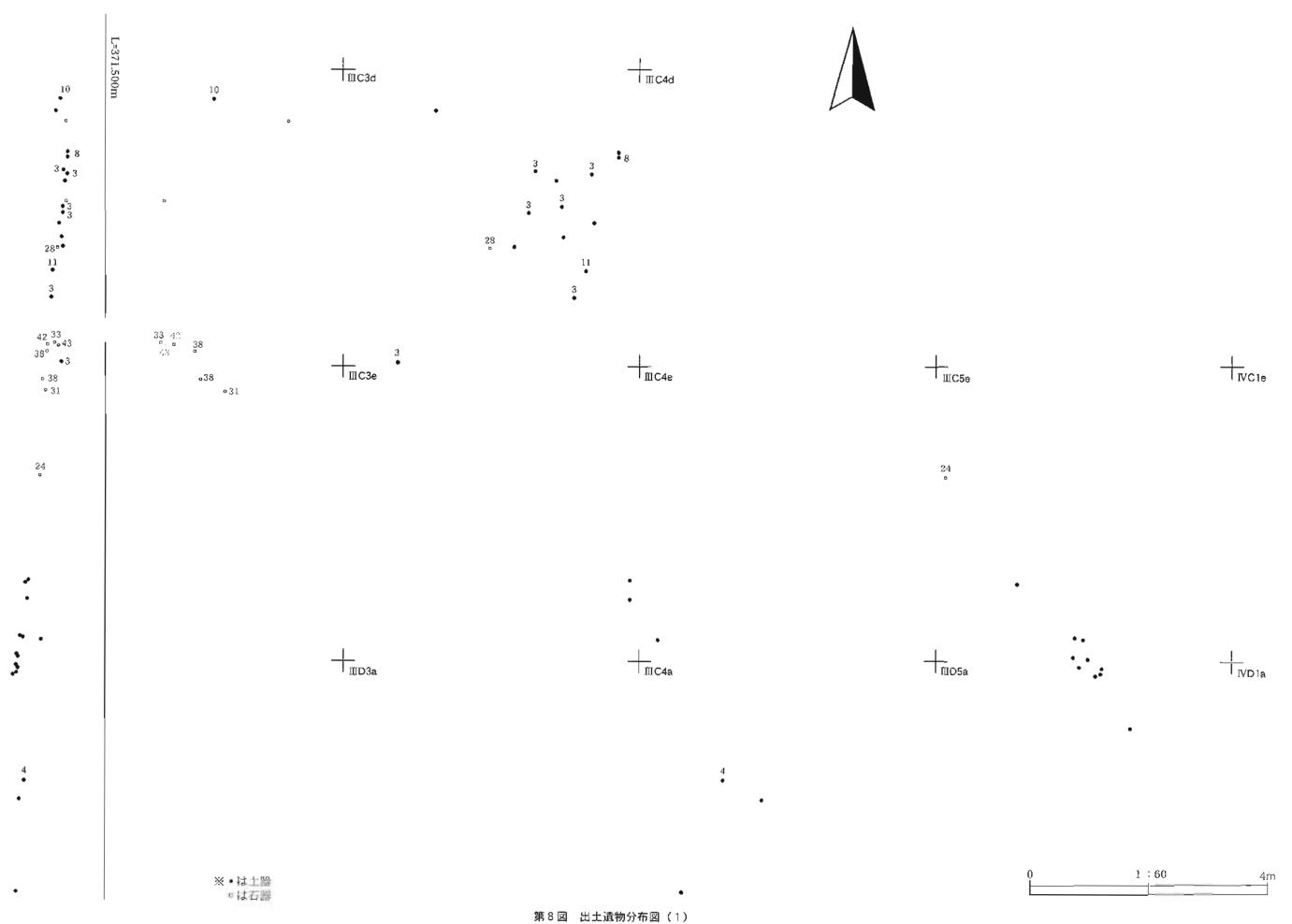
第 I 群土器(第10図・写真図版 7) は縄文時代早期の土器群である。文様の特徴などから以下のように細分した。

I群1類(1、3~4、6、9)

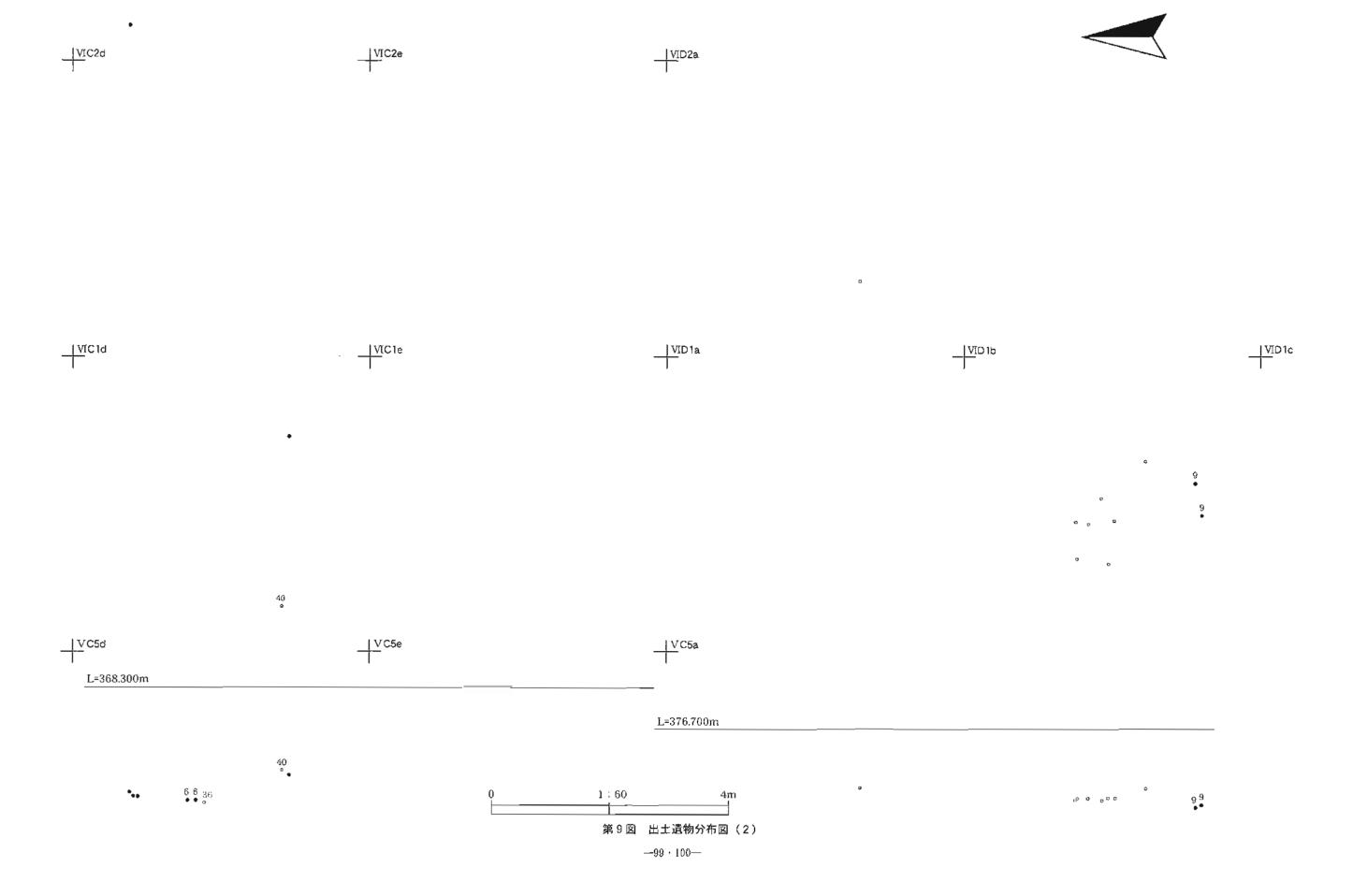
早期中葉期の土器群で吹切沢式ないし鳥木沢式に類似するものを一括した。 №層及び №層及び №層から出土しており器種は全て深鉢と思われる。1は口縁部破片で、縦位の貝殻腹縁文が3条施されている。3、4は口縁部



第7図 釜石遺跡遺構配置図



# 6 四 五工退物が作図() - 97・98-



36 6 6 ° 及び胴部資料で、竹管状の工具による円形刺突文が認められる。  $3\sim 5$  は内・外面ともに条痕調整が認められる。口縁部の形状は、 1 、 3 共に波状を呈するが、 3 の口唇部には刻みが加えられている。胎土・焼成・色調は、  $1\cdot 9$  、  $3\cdot 4$  が比較的類似する。なお、 3 及び 4 に関しては、本類に位置付けることは適当ではないかもしれない。

#### I群2類(10~11、13)

早期中葉期の土器群で、明神裏Ⅲ式に類似するものを一括した。Ⅳ層及びⅥ層の出土で、器種は何れも深 鉢である。破片資料であるため文様の展開は把握できないが、沈線文と≪状押引き文並びに刻み目文とを組 み合わせて文様を構成し、一部貝殻腹縁文も用いられているようである。13では内面にも文様が施されるが、 天地がよく判らなかった。

#### I群3類(2、5、7~8、12)

早期後葉期の土器群で、ムシリ I 式に類似するものを一括した。IV層及びVI層の出土で、器種は全て深鉢と思われる。比較的幅広で、浅めの沈線による加飾を有するものが多い。 5、8 は底部破片で平底を呈する。2 は口縁部資料で微隆起線文が配されている。なお、7 の資料の位置付けに関しては、若干の疑問を残したままである。

第II**群土**器(第10・11図・写真図版7・8) 縄文時代前期の土器群である。

#### II群1類 (20~21)

前期初頭期の土器群で、長七谷地Ⅲ群に類似するものを一括した。Ⅳ層の出土で、器種は全て深鉢である。 II群 2 類 (14~19)

II群1類以外の土器で、前期初頭期から前葉期に属すると思われるものを一括した。IV層及びV層の出土で、器種は全て深鉢である。16~18は同一個体と思われ、高橋與右衛門、熊谷常正両氏による「ピッチリ縄文」、高橋亜貴子氏による「組縄縄文」と称されるものに相当すると思われる(高橋 1992)。胎土・焼成・色調は、14・15、16~18が近似し、19は明褐色を呈する。

# 第111群土器 (第11図・写真図版8)

縄文時代後期前葉期の土器を一括した。撹乱層からの出土で同一個体の可能性もある。器種は何れも深鉢で体部に網目状撚り糸文を施している。

# (2) 石器

全て遺構外からの出土でコンテナ( $42\times32\times30$ cm)で1/3箱である。調査面積のわりには量的に少ないのでその全てを掲載したが、自然礫と判断し現地で取り上げてこなかったものの中に少しは礫石器が含まれていた可能性もある。時期的には縄文時代前期のものと早期のものとに分かれ、出土地点は凡そその時期の土器と共通する。各器種の構成は一覧表にまとめている。

# 石鏃 (第12図・写真図版9)

24は無茎鏃で基部は平坦に作られている。押圧剥離による調整は刃部にのみ顕著にみられる。

#### 石匙 (第12図・写真図版9)

25のツマミの位置は縦位若しくは斜めと解釈した。 刃部の加工をあまり施さずに用いている。26は一部 両面加工により刃部を整形し、端部がやや尖る。

#### スクレイパーA類 (第12図・写真図版 9)

調整段階に押圧剥離を多用することにより製作されるスクレイパーを本類にまとめた。27は細長い剥片の1側辺にのみ片面加工がみられる。28はやや厚みのある剥片の一端部に細かな調整を施している。

#### リタッチド・フレイクA類(第12図・写真図版9)

使用痕を有する剥片・細部に微細な加工をもつ剥 片を本類に含めた。鋭利な縁辺部に加工痕や使用痕 を持つ30・31・32、端部や先頭部に微細な剥離が観 察される30・33などがある。30などは単なる剥片に 含めた方が良いものかもしれない。

#### 剥片類 (第12図・写真図版9)

出土した剥片は非常に少ない。出土した3点を全 て掲載した。 (34~36)

#### 石核 (第12図・写真図版9)

37は小型の石核で全面に縦横の剥離痕がある。

#### 磨石・凹石・敲石 (第13図・写真図版10)

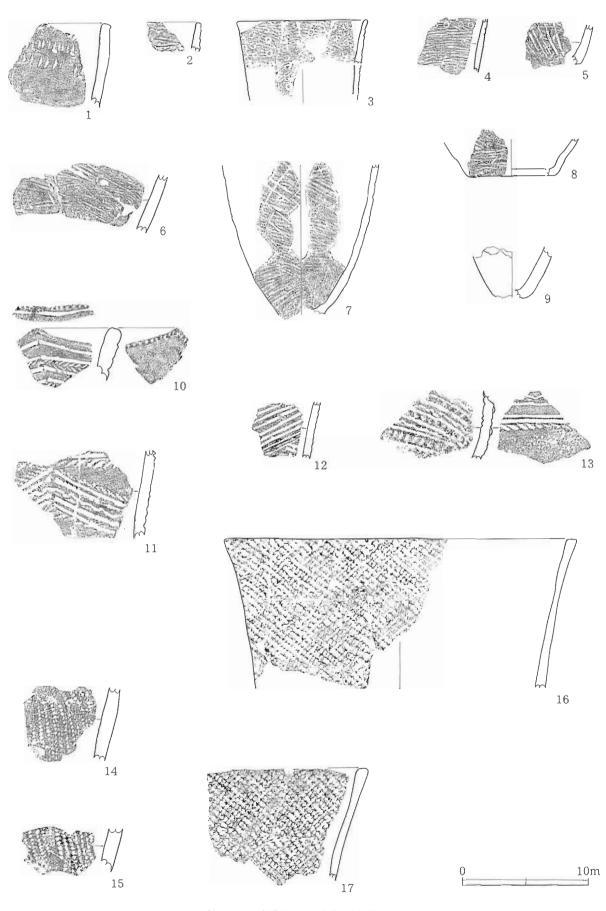
自然礫を利用したこれらの石器は一つの石器で複数の使われ方をしているものもあり、複合するものはより使用頻度の多いと考えられる器種に含めた。39~41は幅の狭い側面を擦り面として利用している。39には 敲きとおぼしき痕跡もみられる。42・43は敲石と磨石とが複合するものである。44~46は凹石で、45は磨石と複合するものである。

#### (3) その他の遺物

38は煙管の吸い口である。銅製で近世以降と思われる。

# 遺跡全体の石器器種構成

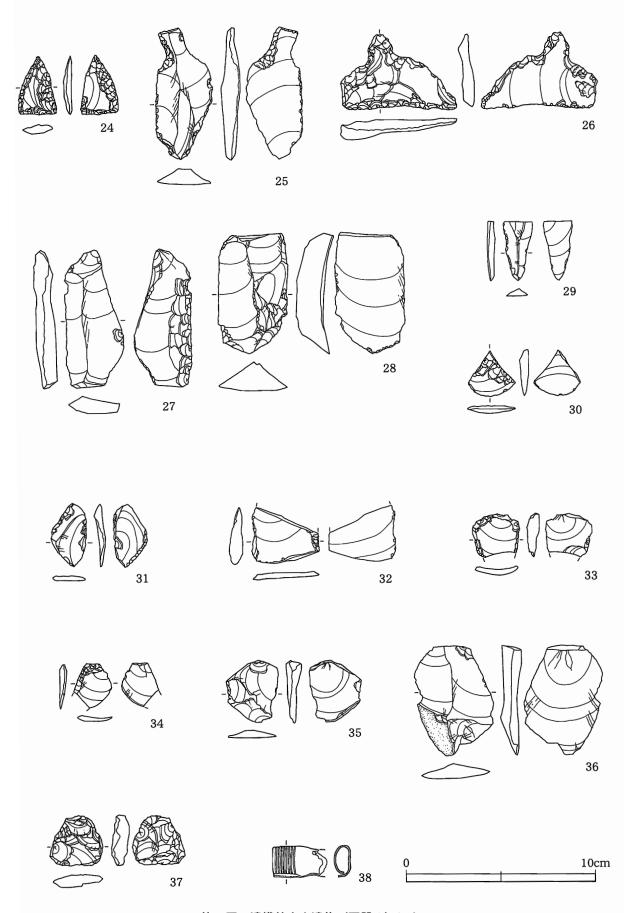
石器系列	器種	個数	重量(kg)	実測数
	石鏃	1	0. 002	1
	石錐			
	スクレイパーA類	2	0. 05	2
	石匙A類	2	0. 02	2
A類(押	RFA	5	0. 01	5
圧剥離系	楔形石器			
列)	円盤状石器			
	異形石器			
	石槍			
	石匙状石器			
	A類の剥片等	1	0. 001	1
	石核	1	0.006	1
	打製石斧			
	スクレイパーB類			
- Mer. 4-to	石匙B類			
B類(直 接打磐系	RFB			
列)	円盤状石器			
	ミニチュア打斧			
	礫器			
	B類の剥片等	2	0. 02	2
	磨石	4	1. 91	4
C1類	凹石	3	0. 86	3
(形状選	石皿			
択系列)	スタンプ形石器			
	特殊磨石			
C 2 類	敲石	1	0.86	1
(形状非	砥石			
選択系列)	台石			
	石棒			
D類(非	石剣			
機能系列)	多孔石			
	岩版			
E 465 (146	磨製石斧			
E類 (機 能系列)	磨製石器			
111/17/1/	石錘			
	分類不明			
	自然礫	1	0. 58	1 (不けい裁)



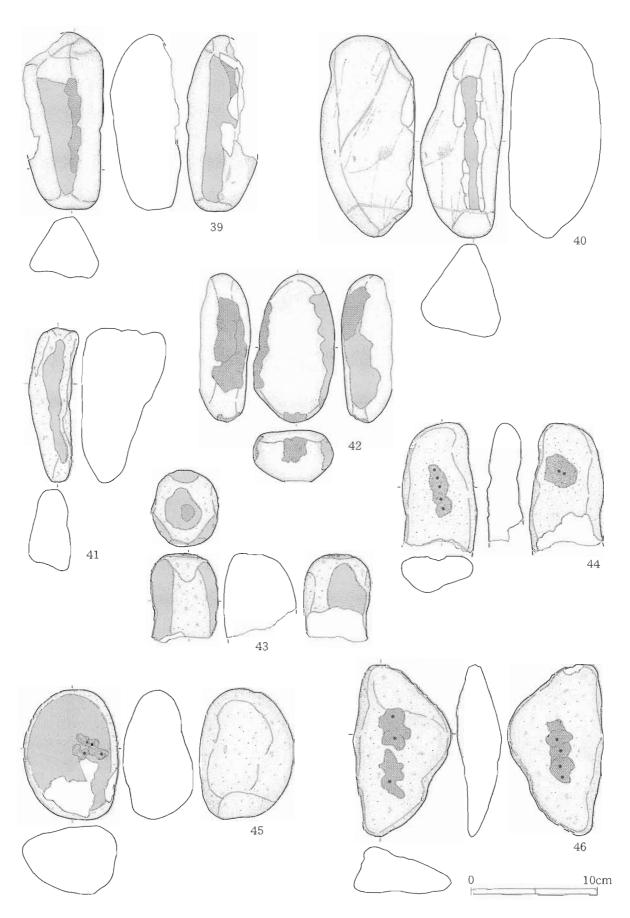
第10図 遺構外出土遺物(土器1)



第11図 遺構外出土遺物(土器2)



第12図 遺構外出土遺物(石器1)ほか



第13図 遺構外出土遺物(石器2)

# 土器観察表

仮番	掲載番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
12	1	III C 5 c	Ⅳ上	深鉢	口縁	貝殼腹緣文 (3条)、刺突文		ナデ	I 1	口縁波状、砂粒(少)
3	2	28(18)	VI	深鉢	口縁	微隆起線文	条痕?	ナデ?	Ι3	砂粒(少)
4	3	III C 3 d	VI	深鉢	口頚	刺突文(円形)、口唇部に刻目	条痕	条痕	I 1	口縁波状、砂粒(少)
5	4	III C 4 a	VI	深鉢?	胴	横位平行沈線、刺突文(円形)	条痕	条痕	I 1	砂粒(少)
7	5	III C 5 e	VI	深鉢?	底	沈線文	条痕?	条痕	I 3	砂粒(少)、内面に煤付 着
1	6	VIC2d	VI	深鉢?	胴		条痕	条痕	I 1	砂粒(少)
8	7	III C 5 e	VI	深鉢	胴~底	沈線文	条痕	条痕	I 3	砂粒(少)
6	8	III C 3 d	VI	深鉢?	底	沈線文?	条痕	条痕	I 3	砂粒(少)、内面に煤付 着
9	9	V C 5 b	IV	深鉢	底			ナデ	I 1	砂粒(少)
23	10	III C 2 d	IV	深鉢	口縁	並行沈線(押引風)、沈線文(矢羽根 状)、粘土粒、刺突文、口唇部に沈線 文(矢羽根状)及び内側端部に刻目		ミガキ?	I 2	口縁波状、砂粒(少)、 外面に煤付着?
10	11	III C 5 c 、20	IV ,	深鉢	口類?	横位沈線、並行沈線、刺突文、貝殻 腹縁文、押引文		ミガキ	I 2	粗砂粒(中)
2	12	III C 5 e	VΙ	深鉢?	胴	沈線文		条痕文	I 3	小礫 (少)
11	13	III C 3 c	VI	深鉢	口頚?	刻みを持つ隆帯、押引文、貝殻腹縁 文?内面:押引文、横位沈線、刺突 文		ミガキ?	I 2	粗砂粒(中)、内面に煤 付着
13	14	III C 3 d	V	深鉢	胴		RL?	ナデ?	II 2	小礫(少)、粗砂粒(少)、 外面に煤付着
14	15	III C 3 d	V	深鉢	胴		RL?	ナデ?	II 2	粗砂粒(少)
20	16	IIIC3d、4d	IV	深鉢		組縄縄文		ナデ	II 2	繊維(多)、小礫(少)、 粗砂粒(多)
19	17	III C 3 c 、 4 d	IV	深鉢	口~胴	組縄縄文		ナデ	II 2	繊維(多)、粗砂粒(多)
18	18	III C 3 c 、 3 d 、 4 c	IV	深鉢	口~胴	組縄縄文		ナデ	II 2	繊維(多)、粗砂粒(多)
15	19	III C 2 d	v	深鉢	胴		0 段多条 R L ?	ナデ	II 2	繊維(多)、小礫(少)
17	20	III C 3 c . 4 c	IV	深鉢	口~胴		0 段多条 R L	ナデ	II 1	繊維(多)、小礫(少)、 粗砂粒(中)、補修孔
16	21	III C 3 d	IV	深鉢	口~胴		0段多条 RL·LR	ミガキ	II 1	繊維(少)、小礫(少)
21	22	III D 2 e	撹乱	深鉢	口~胴	網目状撚り糸文		ミガキ	III	砂粒(少)、折り返し口縁
22	23	IIID3d、3e	撹乱	深鉢	胴	網目状撚り糸文		ミガキ	III	粗砂粒(少)、外面に煤 付着?

# 石器観察表

	44 #4									
仮番	掲載	出土地点・層位		器種		十側値 (cm)		重量(g)	石質 (産地)	備考
0.4	番号	W C C 1	## E		長さ	幅	厚さ			VIII 45
24	24	III C 3 d	IV 層	石鏃	3. 1	2. 0	0. 5	2. 17	頁岩 (奥羽山脈)	
27	25	<u>III С</u> 5 е	_VI層	石匙A	6.8	3. 0	0. 9	15. 05	頁岩 (奥羽山脈)	最小限の調整でつくられている
26	26	IIIE3b	表土	石匙A	3. 9	6. 2	0.8	14. 52	頁岩 (奥羽山脈)	
28	27	III C 4 c	I 層	ScA	7. 2	3. 1	0.8	22. 82	頁岩 (奥羽山脈)	片面加工
30	28	III C 3 d	試掘	ScA	6. 3	3. 7	1.7	39. 06	頁岩 (奥羽山脈)	片面加工 下端部に鈍角の刃部
25	29	III C 3 d	VI層	RFA	3. 0	1. 5	0. 4	0. 76	凝灰岩 (奥羽山脈)	側辺に微細な剥離
29	30	III C 3 d		RFA	2. 4	2. 5	0. 5	2. 01	頁岩 (奥羽山脈)	A類の剥片とみるべきか
32	31	III C 3 d	Ⅳ層	RFA	3. 3	1. 9	0. 4	2. 29	頁岩 (奥羽山脈)	
33	32	III C 2 e	VI 層	RFA	(3. 0)	3. 2	0. 6	4. 53	頁岩 (奥羽山脈)	ScA類の欠損したものか
35	_33	III C 3 d	<u>I</u> V層	RFA	(2.3)	2. 5	0. 4	2. 75	めのう (奥羽山脈)	片面に微細な剥離
34	34	III C 2 d	VI層	A類の剥片	2. 3	2. 0	0. 3	1. 24	頁岩 (奥羽山脈)	71 1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1
36	35	III C 3 d	試掘	B類の剥片	3. 2	2. 8	0.8	5. 00	頁岩 (奥羽山脈)	
37	36	III C 3 d	試掘	B類の剥片	5. 8	4. 2	0. 9	17. 69	頁岩 (奥羽山脈)	
31	37	VI C 2 d	VI層	石核	2. 6	2. 9	0.8	6. 25	珪質頁岩 (奥羽山脈)	
44	39	III C 2 e	VI層	磨石	13. 7	(6. 4)	5. 3	527. 46	安山岩 (奥羽山脈)	側辺部を擦っている
46	40	III C 3 e	Ⅳ層	磨石	15. 8	6. 4	7. 3	906. 52	砂岩 (北上山地)	側辺部を擦っている
40	41	V C 5 d	VI層	磨石	12. 1	3. 4	6. 5	321. 04	安山岩 (奥羽山脈)	
42	42	IVD 1 a	III~Ⅳ層	磨石	11.6	6. 4	4. 1	478. 47	砂岩 (北上山地)	側辺に敲痕もみられる
41	43	III C 2 d	IV層	敲石	14. 0	7. 8	3. 5	325. 32	安山岩 (奥羽山脈)	
39	44	III C 2 d	VI層	凹石	(9.5)	5. 7	2. 7	218. 91	安山岩 (奥羽山脈)	
45	45	III C 4 e	IV層	凹石	10. 2	7. 5	5. 6	563. 52	安山岩 (奥羽山脈)	
43	46	III C 2 d	VI層	凹石	(6.8)	5. 4	5. 8	299. 01	安山岩 (奥羽山脈)	磨石と複合
38		III C 2 d	VI層	自然礫	10. 7	8. 4	4. 2	588. 90	凝灰岩 (奥羽山脈)	

# Vまとめ

釜石遺跡は二戸郡一戸町平糠字釜石に所在する。馬淵川の支流で一戸町南部にある西岳(標高1018m)を源流域とする平糠川が奥中山高原、さらには山間部をぬって10kmほど下ったところに釜石の小さな集落がある。山地に囲まれ、狭いながらも盆地状の平坦面が形成されており、遺跡はその最も北側(下流)に位置している。遺跡は平糠川左岸の緩斜面に立地し、北側に山地が迫り南側はすぐに平糠川となっている。標高は365~374mで川との比高は3~4m程しかない。大志田ダム建設に伴い本遺跡は水没することになるため、調査は遺跡全域を対象としたものとなった。

検出された遺構は、何れも近世ないしそれ以降のものと考えられるもので、掘建柱建物跡 2 棟、土坑 1 基、柱穴状土坑 8 基である。掘建柱建物跡は 2 棟とも遺跡のほぼ中央に占地する。この場所は、約 3 5 月に亘る調査期間中、他の区域が流水による影響を直接的に受けるにもかかわらず、比較的影響の少ない所でもあった。占地理由の一つであろう。 1 号及び 2 号建物の周囲には柱穴状の土坑が数基確認されている。これらが 2 棟以外の建物を構成する可能性も否定できず、したがって建て替えを含めたトータルの棟数が 2 棟を超えて存在することも十分想定されるところである。

今回の調査では、これら建物群の通時的ないし共時的関係の検討を加えられる程の十分な情報を得ることはできなかったものの、逆に該期の遺物が殆ど出土しなかったことから母屋というよりも、作業小屋のような機能を有する建物であったと考えられ、数時期に亘って利用されていたと捉えることが可能であろう。また1号土坑についても、埋土の状況から比較的新しい時期の遺構と思われ、或いは建物群の存在するある時期に、関係する人々によって構築された可能性も否定できない。

出土した遺物の総量は、当センターの大コンテナ(42×32×30cm)に換算して土器 1 箱強、石器 1 / 3 箱、煙管 1 点である。土器は縄文時代早期中葉から後葉、前期初頭、後期に属するものが出土している。早期の土器は遺跡中央部東側(Ⅵ C区)と遺跡中央西側(Ⅲ C区)の 2 地点に分かれて分布し、 V 層とした黄褐色浮石層の上層及び下層から出土した。石器も同様である。本来であれば早期に属する遺構・遺物については V 層よりも下位にあるべきものと思われるが、本遺跡の場合は北側に山地が迫り、遺跡内には山からの沢筋が複数確認されている。加えて流れ込みと思われる土砂や大小の礫も広く分布していることから、遺物についても多少動いていると判断した方が無難かもしれない。文様の特徴から明神裏Ⅲ式に類似する土器片も出土しており、県内では出土事例の少ない資料を得ることができた。しかし、他に出土した吹切沢式に比定されると考えられる土器群や早期後葉頃のムシリ I 式に類似する土器とは分層できるような状況では出土しなかった。前期初頭の土器・石器は遺跡中央西側(Ⅲ C区)、基本的には IV 層面から早期の土器と混在するかたちで出土している。後期の土器は沢を挟んだ遺跡西側から出土している。出土量は早期・前期の土器よりも少ない。

前述した時期の遺構については検出されなかった。遺跡全域を調査したことになるが、何れの時期も遺物は少量であり、石器の器種構成も不十分といった感がある。遺跡自体は土器の編年的位置付けから見れば縄文時代早期中葉から前期初頭にかけては連続性が認められるようで、その後一旦断絶があり縄文時代後期になって再び利用されていたようである。そうはいっても出土遺物は決して多くはなく一時的に利用された場所、キャンプサイト的な場所であったと推察される。縄文時代早期の遺跡は平糠川流域で見ると釜石地区の

他に上流の切掛地区、摺糠地区、他に支流の大欠切地区などに合わせて10遺跡程が確認されている。これ以外に下流の小鳥谷及び一戸町内までは該期の遺跡は確認されておらず、この地域は孤立するように遺跡が分布している。平糠川づたいに下流の一戸町内への行き来は険しい渓谷が続くため難しいと思われる。釜石遺跡からなら、時期は異なるが遺跡の分布する旧中山、火行を経て小繋川沿いに出、そこから下流の小鳥谷、一戸町内へと動いていたと考えたい。

#### <引用・参考文献>

大川清 鈴木公雄 工楽善通編 1969 「縄文時代東北」『日本土器辞典』 雄山閣

高橋亜貴子 (1992) 「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」『加藤稔先生還暦記念 東北文化論のための先史学歴史 学論集』加藤稔先生還暦記念会編

富樫泰時 1989 「貝殼沈線文土器様式」『縄文土器大観』第1巻 小学館

名久井文明 1982 「貝殻文尖底土器」『縄文文化の研究3 縄文土器 I』 雄山閣

青森県教育委員会 昭和59年 「売場遺跡発掘調査報告書(第1・2次調査)」青森県埋蔵文化財調査報告書第93集

青森県教育委員会 昭和59年 「売場遺跡発掘調査報告書(第3・4次調査)大タルミ遺跡発掘調査報告書」青森県埋蔵文化財 調査報告書第93集

青森市螢沢遺跡発掘調査団 1979 「螢沢遺跡 青森市新団地造成計画に基づく戸山団地予定地内螢沢遺跡緊急発掘調査報告書」 青森県八戸市教育委員会 昭和63年 「赤御堂遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集

青森県八戸市教育委員会 昭和55・56年 「長七谷地遺跡発掘調査報告書 長七谷地2・7・8号遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集

関岩手県埋蔵文化財センター 昭和57年 「二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 長瀬B遺跡」岩手県埋文センター文化財調 査報告書第36集

財岩手県埋蔵文化財センター 昭和58年 「長瀬C遺跡第2次発掘調査報告書 二戸バイパス関連遺跡発掘調査」岩手県埋文センター文化財調査報告書第51集

関始音県埋蔵文化財センター 昭和58年 「上里遺跡発掘調査報告書 二戸バイパス関連遺跡発掘調査」岩手県埋文センター文 化財調査報告書第55集

財治手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 昭和61年 「五庵Ⅲ遺跡発掘調査報告書 東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第112集

財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平成13年 「米沢遺跡発掘調査報告書 東北新幹線盛岡・八戸間鉄道建設事業関連遺跡発掘調査」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第376集

盛岡市教育委員会 2000 「屠牛場遺跡 第1次調査」『盛岡市内遺跡群』-平成11年度発掘調査外報-

### VI 分析・鑑定

#### 釜石遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

#### 1. はじめに

岩手県とその周辺に分布する後期更新世に形成された地層や土壌中には、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、栗駒、鳴子、十和田など東北地方に分布する火山のほか、北海道さらに中国地方や九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ(tephra、火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く挟在されている。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代だけでなく、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。

そこで年代が不明な遺物が検出された一戸町釜石遺跡で認められた火山灰層についても、屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を試みることになった。

#### 2. 屈折率測定

#### (1) 測定試料と測定方法

屈折率測定の対象となった試料は、発掘調査担当者により採取されたA地点の下層および上層、B地点の下層および上層の4点である。屈折率測定は、日本列島とその周辺の示標テフラの作成に利用された温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)により行なわれた。

#### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を表 1 に示す。 A地点の下層には、黄灰色や白色の軽石や火山ガラスが多く含まれている。 軽石の最大径は 2 mmである。火山ガラスの屈折率(n)は、1.510-1.514である。 重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。 斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.706-1.708である。 A地点の上層にも、黄灰色や白色の軽石や火山ガラスが多く含まれている。 軽石の最大径は 2 mmである。火山ガラスの屈折率(n)は、1.510-1.514である。 重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。 斜方輝石の屈折率( $\gamma$ )は、1.706-1.708である。

B地点の下層には、黄灰色や白色の軽石や火山ガラスが多く含まれている。軽石の最大径は3 mmである。火山ガラスの屈折率 (n) は、1.511-1.514である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率 ( $\gamma$ ) は、1.699-1.708である。B地点の上層にも、黄灰色や白色の軽石や火山ガラスが多く含まれている。軽石の最大径は2 mmである。火山ガラスの屈折率 (n) は、1.510-1.513である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石がごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率 ( $\gamma$ ) は、1.700-1.708 (modal range: 1.705-1.708) である。

#### 3. 考察

A地点の下層および上層に含まれる軽石や火山ガラスさらに斜方輝石などは、その特徴から約5,500年前\*'に十和田火山から噴出したと考えられている十和田中掫テフラ(To-Cu,大池ほか,1966,早川,1983,福田,1986,町田・新井,1992)に由来する可能性がもっとも高いと考えられる。またB地点の下層および上層に含まれる軽石や火山ガラスさらに斜方輝石などの多くも、その特徴からTo-Cuに由来すると考えられる。ただしこれらの試料には、屈折率が低い斜方輝石も認められる。これらは、その特徴からTo-Cuの下位にある十和田二の倉テフラ群(To-Nk,大池ほか,1966,町田・新井,1992)などに由来するものと思われる。

なお、より高精度の火山ガラス質テフラの同定のためには、エレクトロンプローブ X線アナライザー (EPMA) による火山ガラスの主成分化学組成分析が行われるとよい。

#### 4. まとめ

一戸町釜石遺跡で採取された火山灰試料について、屈折率測定を行った。その結果、十和田中掫テフラ (To-Cu, 約5,500年前\*1) に由来する可能性が高いテフラ粒子が多く検出された。

\*1 放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代.

#### 文献

新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定-テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p. 254-269. 新井房夫 (1993) 温度-定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2-研究対象別分析法」, p. 138-149. 福田友之 (1986) 考古学からみた「中掫軽石」の降下年代. 弘前大学考古学研究, 3, p. 4-15.

早川由紀夫 (1983) 十和田火山中掫テフラ層の分布, 粒度組成, 年代, 火山, 第2集, 28, p. 263-273.

町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.

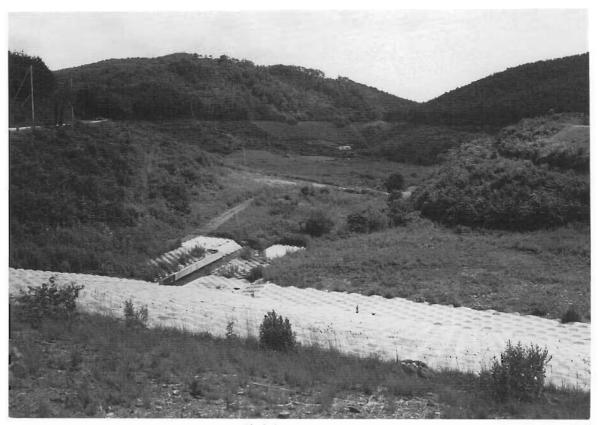
大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 カ・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀 研究, 5, p. 29-35.

表1 釜石遺跡における屈折率測定結果

地点	試料		軽石	・火山ガ	ラス	重鉱物			
		量	色調	最大径	屈折率(n)	組成	斜方輝石 (γ)	角閃石	(n <sub>2</sub> )
Α	上層	+++	黄灰, 白	2. 0	1. 510-1. 514	opx>cpx	1. 706-1. 708	_	
A	下層	+++	黄灰,白	2. 0	1. 510-1. 514	opx>cpx	1. 705-1. 708	_	
В	上層	+++	黄灰,白	2. 0	1. 510-1. 513	(opx>cpx)	1. 700-1. 708 (1. 705-1. 708)	-	
В	下層	+++	黄灰,白	3. 0	1. 511–1. 514	орх>срх	1. 699-1. 708	_	

屈折率測定は,温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による. 最大径の単位は, mm. 重鉱物の()は,量が少ないことを示す. opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石.

# 写 真 図 版



遺跡遠景(南から)



調査開始段階(北東から)



基本層序 (南から)

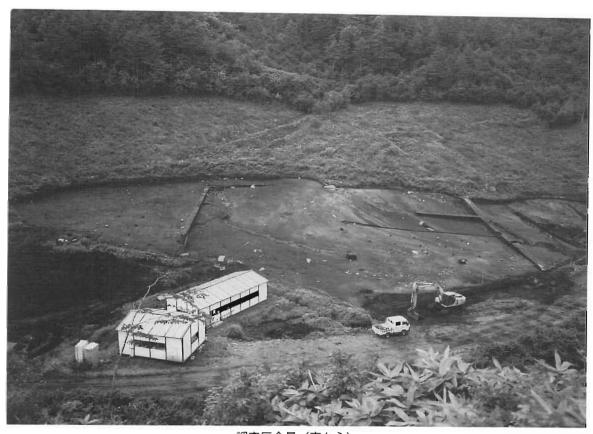


調査開始段階(南東から)



基本層序(北から)

写真図版 1 遺跡全景ほか



調査区全景 (東から)



調査区西側調査終了状況



調査区東側トレンチ調査



調査区東側中掫面



調査区東側トレンチ調査

写真図版 2 調査区近景



1号掘立柱建物跡(西から)

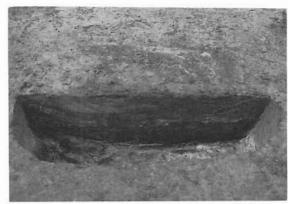


2号掘立柱建物跡(東から)

写真図版3 1・2号掘立柱建物跡



1号土坑平面(東から)



1号土坑断面(東から)



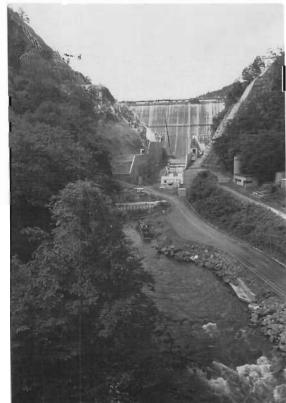
出土遺物の取り上げ



調査風景



中掫面での状況 (東から)



ⅢC・D区遺物出土状況



建設中の大志田ダム

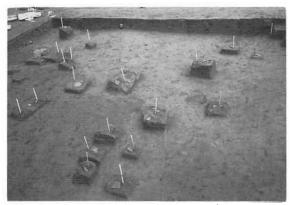
写真図版 4 1号土坑ほか



縄文前期の土器出土状況 (IIC・D区)



遺物出土状況(南から)



遺物出土状況 (ⅢC2 d区)



遺物出土状況 (Ⅲ С 2 d 区)

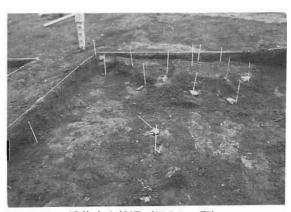


遺物出土状況(ⅢC·D区)

写真図版 5 遺物出土状況(縄文前期)



縄文早期の遺物出土状況 (IIIC・D区)



遺物出土状況 (MC3c区)



遺物出土状況 (VD5b区)

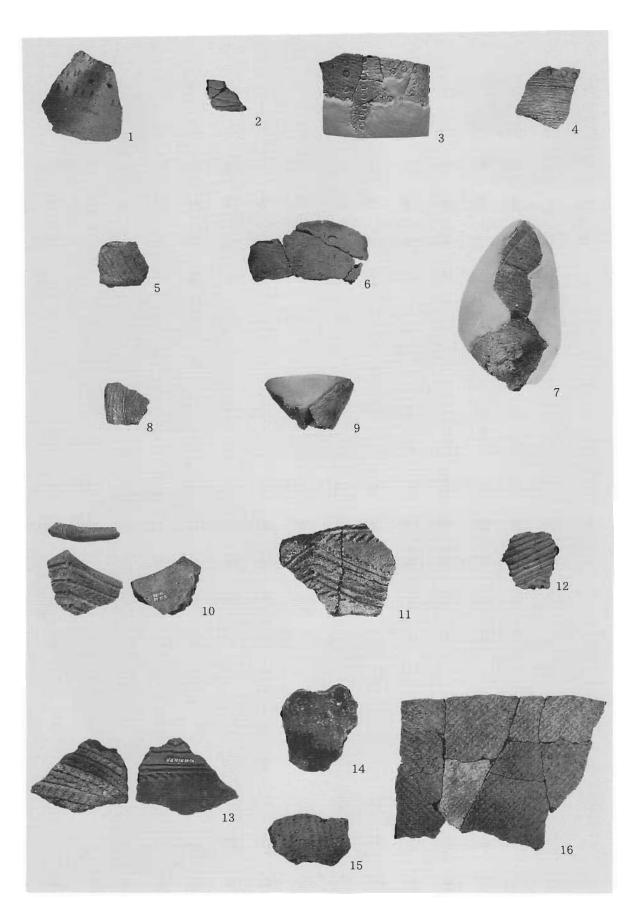


遺物出土状況 (ⅢC3 e区)

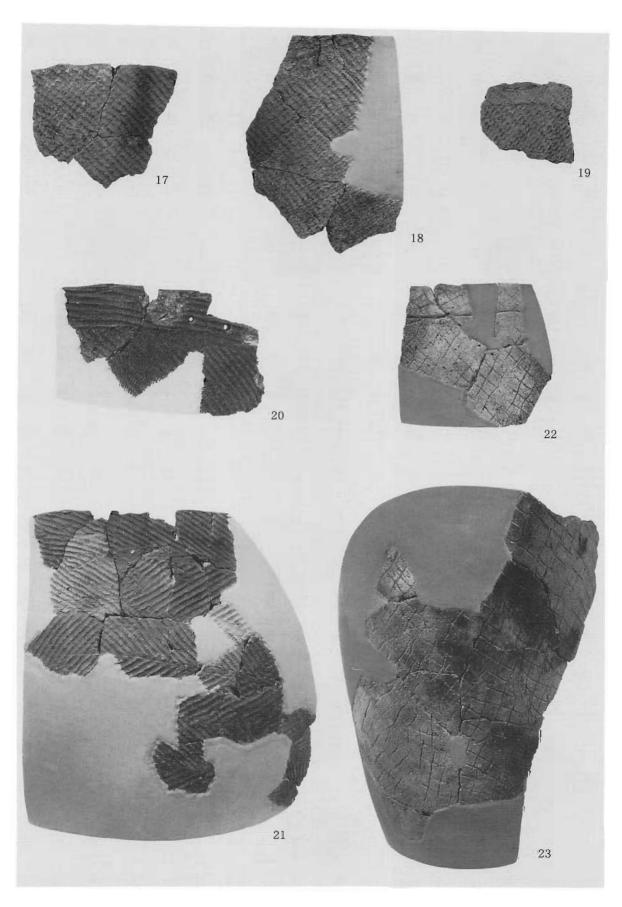


遺物出土状況 (ⅢC3 e区)

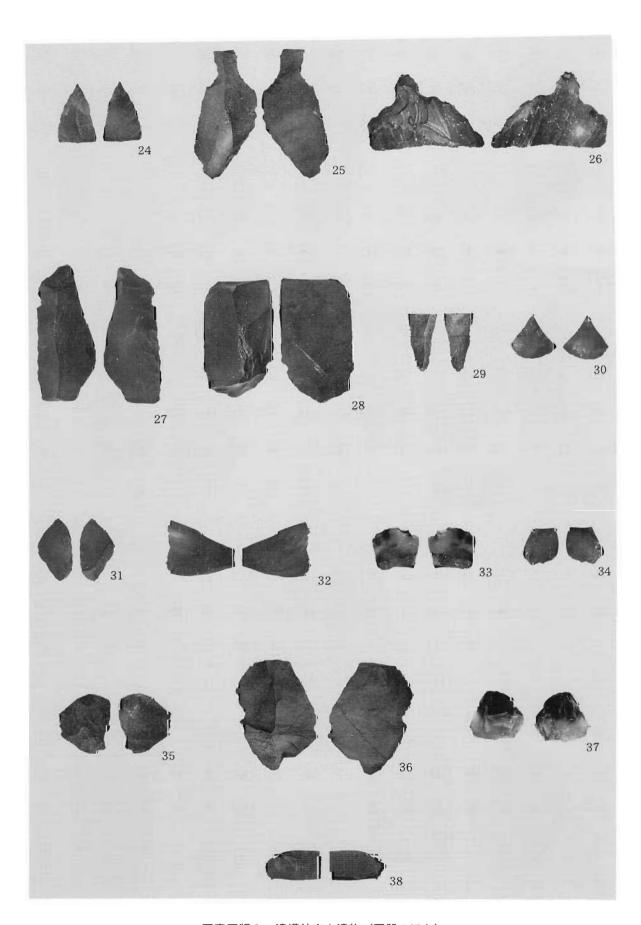
写真図版 6 遺物出土状況(縄文早期)



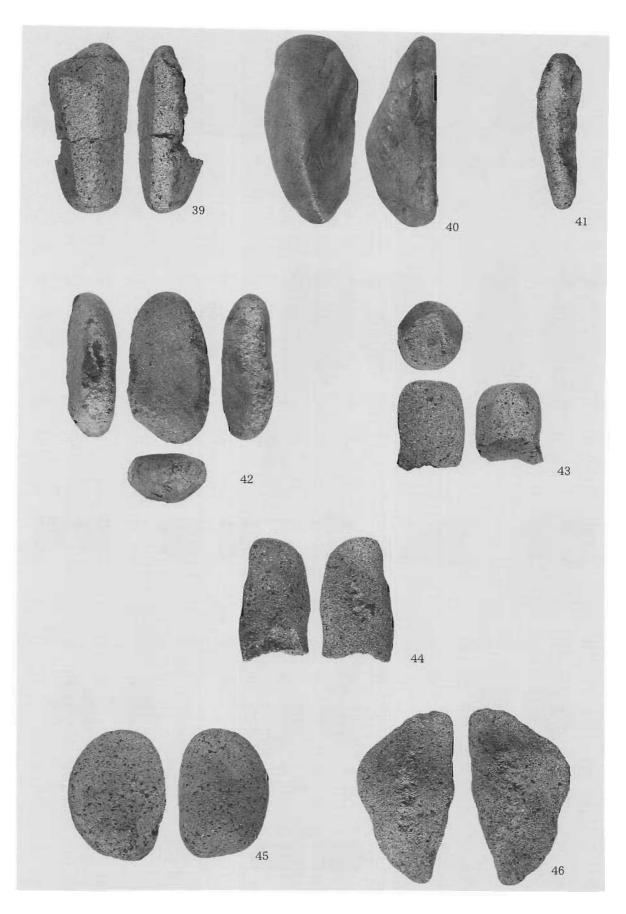
写真図版7 遺構外出土遺物(土器1)



写真図版8 遺構外出土遺物(土器2)



写真図版 9 遺構外出土遺物(石器 1 ほか)



写真図版10 遺構外出土遺物(石器2)

## 報告書抄録

ふりが	な	まいざわいせき・かまいしいせきはっくつちょうさほうこくしょ									
書	名	米沢遺跡・釜石遺跡発掘調査報告書									
副書	名	馬淵川農業水利・大志田ダム建設事業関連遺跡発掘調査									
巻	次										
シリーズ	名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書									
シリーズ番	子号 一	第402集									
編著者	名	杉沢昭太郎 吉川 徹									
編集機	関	(財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター									
所 在	地	<b>〒</b> 020−	-0853 岩	手県盛岡市下館	返岡11地	割185番	b地 TEL01	9 - 638 - 9	001		
発 行 年 月 日 西暦2002年8月30日											
ふりがな 所収遺跡名	ふり 所 右			ニード	北緯	東経	調査期間	調査 面積 (m²)	調査原因		
	/// 1 <sub>-</sub>		市町村	遺跡番号							
米沢遺跡	岩手県二戸市		03213	I E 99-	40度	141度	そ 2001.	600	馬淵川農業		
	米沢字	長瀬27		0390 17分		175	4. 16~		水利		
	-1ほ	か			07秒	40秒	6.7				
かまいしいせき	にのへくん	い5のへまち 一戸町	03524	J E 69-	40度	1415	隻 2001.	5, 000	 大志田ダム		
	平糠字	かまいし 釜石29		0265	04分	16分	4. 16~		建設		
-35		か			49秒	46秒	7. 31				
所収遺跡名 種別		別主な時代		主な遺構			主な遺物		特記事項		
米沢遺跡	集落	縄文時代		竪穴住居跡 陥し穴状遺構 焼土 集石		1棟 2基 9基 1基	縄文時代早期の土器・ 石器				
八八足助	· 未 · 俗	中世		堀跡		1条	寛永通寶				
		その他		土坑 溝跡		1基 3条	近世及びそれ陶磁器	1以降の			
釜石遺跡	散布地		文時代				縄文時代早期 後期の土器・				
III. 1-1 KES PAI	117 111 75		世以降	掘立柱建物跡 土坑		2棟 1基	煙管				

# 

			/ TI = #//		110%1 C 4	一 一	インは
所	長	木 村	昇	副	所 县	長 髙	橋 正 儀
						1-4	114 112 14%
[管 理 課]							
課	長	韮 澤	正 吾	嘱	Ē	毛 高	橋 照 男
課 長 補		山崎	善光	7.74	<i>"</i>	加加	藤美代子
"		山岸	直美		"	湯	沢 邦 子
主	査	中嶋	賢一		,,	伊	藤滋子
_		1 70	~		"	゙゚゚゚	胺 從 丁
[調査第一課]				[調査第	s — a⊞1		
課	長	佐々木	勝	課		± +	s
課長補		佐々木	清文	課	<b>国 法</b> #		
# Z m	KT	高橋	義介		長補佐		川重紀
文化財専門	明昌	小山内	我		と財専門員		子 佐知子
文化財調		吉田	充	又 1	匕財調査員 "		石 登
文化规则"	且貝				"	阿	部 眞 澄
		亀	大二郎		"	飯	坂 一 重
"		佐々木	信一		"	鈴	木 裕 明
"		早坂	淳		"	久	慈泰彦
"		小松	則也		"	(濱	田宏)
"		金 野	進		"	安	藤由紀夫
"		野中	真盛		"	星	雅之
"		金 子	昭 彦		"	佐	藤淳一
"		阿部	孝 明		"	半	澤武彦
"		阿部	勝則		"	皆	川英香
"		羽柴	直人		<i>II</i>	溜	浩二郎
"		高 木	晃		"	丸	山 直 美
"		長 村	克 稔	期阻	艮付調査員	齋	藤 麻紀子
"		星	幸文		"	吉	田里和
"		杉 沢	昭太郎		"	菊	池 賢
"		村 上	拓		"	立	花 裕
"		本 多	準一郎		"	駒オ	「野智寛
· //		青 山	紀和		"	原	美津子
"		西 澤	正晴		"	石	崎 高 臣
"		村 木	敬				
"		福島	正 和				
"		北 村	忠昭				
"		八木	勝枝				
"		米 田	寛				
"		丸山	浩 治				
"		北田	勲				
"		島原	弘征				
<i>"</i>		中村	絵美				
期限付調3	<b>杏</b> 昌	坂 部	恵造				
// 241 brz 1.1 m/m 7		袰 地	心则				
<i>"</i>		玉山	健一				
"		吉田	真由美				
"		小林	型田美 弘 卓				
		木 村	か <del>早</del> ひかり				
"		藤原	大輔				
"		歴	八 翈				
"							
"		太田代	一彦				
<i>"</i>		江藤	敦なま				
"		立花	公 志				

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第402集

### 米沢遺跡・釜石遺跡発掘調査報告書

馬淵川農業水利・大志田ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成14年8月23日 発行 平成14年8月30日

発 行 (財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 〒020-0853 盛岡市下飯岡11-185

TEL (019) 638-9001 FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 白 ゆ り

〒020-0122 盛岡市みたけ6丁目1-50

TEL (019) 643-6060

FAX (019) 643-6065

